

一般社団法人
日本保育学会 第79回大会

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

テーマ

あらゆる学問は保育につながる

【プログラム】

主催：一般社団法人 日本保育学会 第79回大会実行委員会

目次

■ご挨拶	3
------	---

1. 大会参加者の方へ

■大会参加者の方へ	5
■大会日程	8
■会場と発表区分	9

2. 研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ

■研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ	16
■大会研究発表に関する規程	19
■一般社団法人日本保育学会 研究奨励賞規程	21
■第79回大会日本保育学会発表資料作成におけるガイドライン	23
■一般社団法人日本保育学会 オンライン参加に関するガイドライン	24

3. シンポジウム

■メインシンポジウム	26
■各種シンポジウム	
大会1日目 12:30～	28
大会2日目 10:30～	32

4. 自主シンポジウム

■自主シンポジウム	41
-----------	----

5. 研究発表

■口頭発表	62
■ポスター発表	82

6. 人名索引

■人名索引	120
-------	-----

7. 大会実行委員会について

■一般社団法人日本保育学会 大会実行委員会規程	131
■一般社団法人日本保育学会 大会開催細則	132
■日本保育学会第79回大会 協賛企業・団体	133
■日本保育学会第79回大会 実行委員会	134

日本保育学会第79回大会を開催するにあたってのご挨拶

2026年度における日本保育学会第79回大会は、東京大学が担当させていただくことになりました。特に、大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (CEDEP) が中心となって、準備・実施・運営等を進めさせていただきます。このセンターは、日本学術会議第22期大型研究計画に関するマスタープランにおいて「『乳児発達保育実践政策学』研究・教育推進拠点の形成：発達基礎の解明に基づく乳児期からの良質な保育・養育環境の構築」という申請テーマが採択されたことを受けて、2015年7月に初代センター長の秋田喜代美先生の下、設立されたものであります。文字通り、「発達保育実践政策学」という新たな統合学術分野を確立し、乳幼児の健やかな発達や充実した保育・幼児教育の実践およびそのための政策立案・改善等につながる先端的研究を推進することを設立趣旨としております。

発足時、その基本的な方向付けに関して様々な議論が重ねられた訳ですが、それを通じて掲げられたのが「あらゆる学問は保育につながる」というスローガンでした。立ち上げ当時、そこに関わった私どもの思いおよび願いは、そのまま書名となって2016年に東京大学出版会から発刊されておりますが、今度の大会は、初心に立ち返り、大会テーマをそのまま「あらゆる学問は保育につながる」とさせていただきます。私も最初期からこのセンターに関わっておりますが、当初、さすがに「あらゆる学問は」というのはいささか言い過ぎではないかと率直に思ったことがありました。しかし、セミナー等を積極的に開催し、従来、子どもの発達や保育・教育等との接点が希薄とされてきた文理、様々な学問分野の先生方のお話を重ねて伺いする中で、「あらゆる学問は」という文言は決して盛り過ぎではなく、幅広く異分野との架橋の潜在的可能性が実に豊かに拓けて在ることを確信しました。そして、私どもセンターの一つの使命が、文理、幅広く様々な学術的知見を、保育の未来に確実につなげていくことなのではないかという思いに至ったのであります。

今回の大会では、「あらゆる学問は保育につながる」というテーマに適ったシンポジウム等を複数、企画しております。普段、必ずしも直接、保育・幼児教育とは関わりのない話題にできるだけ多くふれていただく中で、これからの子どもたちの未来につながる保育・幼児教育の新たな形を、大会に参加される皆様、それぞれが考え、模索していただく機会になればと思っております。言うまでもなく、現在、日本では、多くの保育現場が深刻な保育者不足の問題に喘ぎながら、その一方では、各種養成校において保育志願者が大幅に減少してきているという由々しき事態が生じております。こうした状況下において、私ども学としての保育に関わる者に求められること、それは、保育・幼児教育の重要性と可能性をしかと再認識し、確かな学術的根拠に基づきながら、広く社会に向けて、保育・幼児教育の豊かな魅力を、揺るぎない自信をもって語れるようになることなのかも知れません。今回の大会が、何らかの形で、その一助となればと切に願うものであります。

今大会は、オンラインでの開催となります。オンラインならではの制約が少なからず想定されると思いますが、可能な限り、様々な工夫を凝らすことを通して、円滑な運営を実現し、ご参加の皆様にとって、愉しく意義ある催しになるように最大限、努めさせていただく所存です。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

一般社団法人日本保育学会第79回大会
実行委員長 遠藤 利彦

1. 大会参加者の方へ

1. 大会参加者の方へ

- ◆ 日本保育学会第79回大会は東京大学が担当校となり、オンライン開催にて実施いたします。
- ◆ メインシンポジウムや学会企画、実行委員会企画、自主シンポジウム、口頭発表はZoomで行います。本大会では、発表資料（動画）の事前閲覧はありません。
- ◆ ポスター発表はオンライン開催ページ内にて発表説明責任時間中に、筆頭者がコメント投稿欄で質問や意見等への回答をしたり、参加者との議論をコメントで行ったりします。発表資料は、大会前にオンライン開催ページで公開されます。大会に参加される方は、事前に論文集原稿や動画、ポスターに目を通した上で、当日の質疑応答や討議にご参加ください。

■大会参加登録

- ◆ 事前に参加登録をされていない方は、直前登録をしてください。
- ◆ 直前登録期間：2026年3月25日（水）～5月17日（日）15時まで

【参加費】

参加区分	金額
大会参加費（会員・非会員） ※大会発表論文集（アクセス権）付	10,000円
地域一般・大学生大会参加費 ※大会発表論文集（アクセス権）付	5,000円

- ◆ 直前登録方法や参加費の支払い方法については、大会ホームページをご確認ください。
(<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/hoiku79>)
- ◆ 早期参加登録・直前参加登録ともに、領収書は参加登録画面よりログインして自身でダウンロードしてください。

■オンライン開催ページ

- ◆ オンライン開催ページでは、プログラム、発表論文集、ポスター発表の資料を閲覧できます。
<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/hoiku79>
- ◆ 閲覧期間：2026年4月17日（金）～5月17日（日）
- ◆ オンライン開催ページは、参加登録・参加費のお支払いが完了した方のみアクセスできます。
- ◆ オンライン開催ページのログインには、参加登録時に作成いただいた、「A-Pass」のアカウント（メールアドレスとパスワード）を利用します。
- ◆ オンライン開催ページのアクセス方法は、大会ホームページに掲載の操作マニュアルをご確認ください。
- ◆ 「オンライン参加に関するガイドライン」等の倫理規程について、必ずご確認いただいた上でご視聴ください。

■大会当日（質疑応答・討論への参加）について

【自主シンポジウム】

- ◆ 各会場には企画趣旨・話題提供などを行う登壇者が入室しております。司会者等企画者の進行に従って質疑応答や討議に参加してください。
- ◆ 質問がある場合は、Zoom の「手を挙げる」ボタンを押してください。
司会者等企画者に指名されたら、ご自身でミュートを解除し、発言をしてください。
手を挙げるボタンは、Zoom 画面の下部にある「リアクションボタン」または、「反応ボタン」を押していただくと、「手を挙げる」ボタンが表示されます。
- ◆ 当日の技術的なトラブル等については Zoom のチャット機能でご質問ください。ただし、自主シンポジウムの議論に関する事など、登壇者への質問は、原則チャットではお受けいたしませんので、上記の「手を挙げる」ボタンをご利用ください。
- ◆ 質問者が複数いる場合は順番となりますので、司会者等企画者の指示に従ってください。
- ◆ 各会場の収容人数を超えた場合は、入室できませんので予めご了承ください。

【口頭発表】

- ◆ 各会場には、座長と筆頭発表者が入室しております。座長の進行に従って質疑応答や討議に参加してください。
- ◆ 質問がある場合は、Zoom の「手を挙げる」ボタンを押してください。
座長に指名されたら、ご自身でミュートを解除し、発言をしてください。
手を挙げるボタンは、Zoom 画面の下部にある「リアクションボタン」または、「反応ボタン」を押していただくと、「手を挙げる」ボタンが表示されます。
- ◆ 当日の技術的なトラブル等については Zoom のチャット機能でご質問ください。ただし、口頭発表に対する質疑や討論に関する事など、発表への質問は、原則チャットではお受けいたしませんので、上記の「手を挙げる」ボタンをご利用ください。
- ◆ 質問者が複数いる場合は順番となりますので、座長の指示に従ってください。
- ◆ 各会場の収容人数を超えた場合は、入室できませんので予めご了承ください。

【ポスター発表】

- ◆ 発表説明責任時間中に、筆頭者がコメント投稿欄で質問や意見等への回答をしたり、参加者との議論をコメントで行ったりします。
- ◆ オンライン開催ページ内のコメント投稿欄にご質問等をご入力いただき「投稿」ボタンを押してください。
- ◆ コメントは、発表資料掲載期間中いつでも投稿ができますが、発表者からの返信は発表説明責任時間のみとなりますので予めご了承ください。

■注意事項

- ◆ オンライン開催ページに公開されている、ポスター発表の資料等全ての発表等の内容の写真撮影・スクリーンショットは禁止いたします。
- ◆ 当日のメインシンポジウム、国際シンポジウム、学会・実行委員会企画シンポジウム、自主シンポジウム、研究発表（口頭発表、ポスター発表）の内容の写真撮影・動画撮影・音声録音は原則禁止いたします。なお、記録・報告のためにご自身の発表（他の発表や参加者が写っていない）を撮影する場合のみ許可は必要ありません。

大会日程

5月16日(土)		
09:30～11:30	開会式・メインシンポジウム	第1会場
11:40～12:20	社員総会	第1会場
12:30～14:30	実行委員会企画シンポジウム1	第2会場
12:30～14:00	自主シンポジウム(J-A-1～8)	第3・5・7・9・11・13・15・16会場
12:30～14:20	口頭発表(K-A-1～6)	第4・6・8・10・12・14会場
13:00～14:00	ポスター発表(P-A)	ポスター会場
14:40～16:10	自主シンポジウム(J-B-1～9)	第3・5・7・9・11・13・14・15・16会場
14:40～16:15	口頭発表(K-B-1～5)	第4・6・8・10・12会場
15:00～18:00	国際シンポジウム	第1会場
16:30～18:00	自主シンポジウム(J-C-1～9)	第3・5・7・9・11・13・14・15・16会場
16:30～18:05	口頭発表(K-C-1～5)	第4・6・8・10・12会場
16:30～17:30	ポスター発表(P-B)	ポスター会場

5月17日(日)		
09:30～11:00	自主シンポジウム(J-D-1～9)	第3・5・7・9・11・13・14・15・16会場
09:30～11:20	口頭発表(K-D-1～5)	第4・6・8・10・12会場
10:00～11:00	ポスター発表(P-C)	ポスター会場
10:30～12:30	学会企画 課題研究委員会シンポジウム	第1会場
10:30～12:30	実行委員会企画シンポジウム2	第2会場
11:40～13:10	自主シンポジウム(J-E-1～9)	第3・5・7・9・11・13・14・15・16会場
11:40～13:15	口頭発表(K-E-1～5)	第4・6・8・10・12会場
13:00～15:00	実行委員会企画シンポジウム3	第2会場
13:20～15:20	学会企画 編集常任委員会シンポジウム	第1会場
13:35～15:05	自主シンポジウム(J-F-1～9)	第3・5・7・9・11・13・14・15・16会場
13:35～15:10	口頭発表(K-F-1～5)	第4・6・8・10・12会場
14:00～15:00	ポスター発表(P-D)	ポスター会場
15:30～17:00	自主シンポジウム(J-G-1～11)	第3・5・7・9・10・11・12・13・14・15・16会場
15:30～17:20	口頭発表(K-G-1～4)	第2・4・6・8会場

会場と発表区分【口頭発表】

【口頭発表】

5月16日（土）

会場	K-A (12:30-13:50, 12:30-14:05, 12:30-14:20)
第4会場	K-A-1 保育思想・保育理論・保育史など
第6会場	K-A-2 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など
第8会場	K-A-3 保育専門職の養成など
第10会場	K-A-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など
第12会場	K-A-5 保育者の資質能力・保育者の専門性など、保育専門職の養成など
第14会場	K-A-6 幼保一体化・幼保小連携など、保育マネジメントなど

会場	K-B (14:40-16:00, 14:40-16:15)
第4会場	K-B-1 教育計画・保育計画・指導計画・評価など
第6会場	K-B-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）
第8会場	K-B-3 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など
第10会場	K-B-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など
第12会場	K-B-5 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など

会場	K-C (16:30-17:50, 16:30-18:05)
第4会場	K-C-1 保育内容（保育内容総論・遊び）など
第6会場	K-C-2 保育思想・保育理論・保育史など、保育制度・保育行財政など
第8会場	K-C-3 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など
第10会場	K-C-4 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など
第12会場	K-C-5 幼保一体化・幼保小連携など、多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど

5月17日（日）

会場	K-D (9:30-11:05, 9:30-11:20)
第4会場	K-D-1 保育思想・保育理論・保育史など、 保育制度・保育行財政など
第6会場	K-D-2 発達論・心身の発達など、乳児保育（0.1.2歳児保育）など
第8会場	K-D-3 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）
第10会場	K-D-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など
第12会場	K-D-5 保育者の資質能力・保育者の専門性など

会場	K-E (11:40-13:15)
第4会場	K-E-1 教育計画・保育計画・指導計画・評価など
第6会場	K-E-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）
第8会場	K-E-3 保育専門職の養成など
第10会場	K-E-4 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など
第12会場	K-E-5 保育マネジメントなど

会場	K-F (13:35-14:55, 13:35-15:10)
第4会場	K-F-1 保育環境・保育教材など
第6会場	K-F-2 発達論・心身の発達など
第8会場	K-F-3 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など
第10会場	K-F-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など
第12会場	K-F-5 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど

会場	K-G (15:30-17:05, 15:30-17:20)
第2会場	K-G-1 保育者の資質能力・保育者の専門性など
第4会場	K-G-2 保育環境・保育教材など、児童文化・児童文化財など
第6会場	K-G-3 保育専門職の養成など
第8会場	K-G-4 児童福祉・児童の人権など

【ポスター発表】

5月16日 (土)

会場	P-A (13:00-14:00)
ポスター会場	P-A-1 保育思想・保育理論・保育史など
ポスター会場	P-A-2 保育内容 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)
ポスター会場	P-A-3 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など
ポスター会場	P-A-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など
ポスター会場	P-A-5 保育者の資質能力・保育者の専門性など
ポスター会場	P-A-6 保育専門職の養成など
ポスター会場	P-A-7 保育専門職の養成など
ポスター会場	P-A-8 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など

会場	P-B (16:30-17:30)
ポスター会場	P-B-1 保育制度・保育行財政など、発達論・心身の発達など
ポスター会場	P-B-2 保育内容 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)
ポスター会場	P-B-3 保育内容 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)
ポスター会場	P-B-4 保育内容 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)
ポスター会場	P-B-5 保育方法 (保育方法論・保育形態・幼児理解) など
ポスター会場	P-B-6 保育者の資質能力・保育者の専門性など
ポスター会場	P-B-7 保育専門職の養成など
ポスター会場	P-B-8 保育専門職の養成など
ポスター会場	P-B-9 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など
ポスター会場	P-B-10 児童福祉・児童の人権など、幼保一体化・幼保小連携など

5月17日 (日)

会場	P-C (10:00-11:00)
ポスター会場	P-C-1 教育計画・保育計画・指導計画・評価など、 保育内容 (保育内容総論・遊び) など
ポスター会場	P-C-2 保育内容 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)
ポスター会場	P-C-3 保育方法 (保育方法論・保育形態・幼児理解) など
ポスター会場	P-C-4 保育環境・保育教材など
ポスター会場	P-C-5 乳児保育 (0.1.2 歳児保育) など、 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など
ポスター会場	P-C-6 児童文化・児童文化財など
ポスター会場	P-C-7 保育者の資質能力・保育者の専門性など
ポスター会場	P-C-8 保育専門職の養成など
ポスター会場	P-C-9 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など
ポスター会場	P-C-10 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど

会場	P-D (14:00-15:00)
ポスター会場	P-D-1 保育内容 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)
ポスター会場	P-D-2 保育内容 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)
ポスター会場	P-D-3 保育環境・保育教材など
ポスター会場	P-D-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など
ポスター会場	P-D-5 保育者の資質能力・保育者の専門性など
ポスター会場	P-D-6 保育者の資質能力・保育者の専門性など
ポスター会場	P-D-7 保育専門職の養成など
ポスター会場	P-D-8 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など
ポスター会場	P-D-9 保育マネジメントなど

【自主シンポジウム】

5月16日（土） 12:30～14:00

会場名	講演番号	テーマ
第3会場	J-A-1	乳幼児期における探究実践 —福生市のプロジェクトを事例として—
第5会場	J-A-2	津守保育学の現代的意義を考える（その1）—津守眞生誕100年にあたって—
第7会場	J-A-3	スウェーデンの就学前学校における子どもとデジタル：2025年カリキュラム改訂から得られる示唆
第9会場	J-A-4	子どもの権利から保育士配置基準を考える②—インクルーシブ保育の現状と課題から—
第11会場	J-A-5	学齢期前半までのデジタルリテラシー育成
第13会場	J-A-6	こどもをまんなかにして遊びのリスクを考える —保育実践経験者と若手研究者の立場から—
第15会場	J-A-7	かさねのコミュニケーションと詩的な現実
第16会場	J-A-8	保育現場における巡回相談の現在地—改めてインクルーシブな保育と向き合う—

5月16日（土） 14:40～16:10

会場名	講演番号	テーマ
第3会場	J-B-1	保育における「楽器遊び」と「発表会」はつながりうるのか
第5会場	J-B-2	園内研修による学習共同体の形成 —保育者の生涯キャリアと継続専門教育の視点から—
第7会場	J-B-3	実践に基づく保育者のソーシャルワーク視点
第9会場	J-B-4	保育デザインに関する施設長の組織マネジメントの特質
第11会場	J-B-5	保育者研修において求められる効果に関する考察と展望 —発達支援・保育ソーシャルワーク・コミュニケーション支援の視点から—
第13会場	J-B-6	ペダゴジカル・ドキュメンテーションがもたらすコミュニティの深まり —ひらかれたアトリエに着目して—
第14会場	J-B-7	保育者と考えたい感性的で経験的な食育
第15会場	J-B-8	認定こども園における2—3歳接続期の課題Ⅲ
第16会場	J-B-9	スロー・ペダゴジーから考える保育・教育 —子どもの時間と大人の時間の共鳴のかたち—

5月16日（土） 16:30～18:00

会場名	講演番号	テーマ
第3会場	J-C-1	保育における「共主体」を考える －子ども・保育者・実習・マネジメント：それぞれの立場から－
第5会場	J-C-2	アリソン・クラークと語りつくすスロー・ペタゴジー：足元からの実践と共に
第7会場	J-C-3	子どもの主体的なあそび、学び、育ちを支える園庭・校庭・まちの環境について考える9 ～インクルーシブなまちづくりを目指した、子どもたちの環境や地域とのつながりを検討する～
第9会場	J-C-4	保育者養成教育における「探究」の現在 －大学生・保育者・アーティストでつくる養成課程の演習授業から－
第11会場	J-C-5	小学生ボランティアがつなぐナメの関係を考える －保育園における集団共同型子育て再生プロジェクトからの報告－
第13会場	J-C-6	『保育を変える』を捉え直す ー関係論的視点から見る保育の変革ー
第14会場	J-C-7	汽水域としての保育のなかで描く子どもの発達
第15会場	J-C-8	園で保育の「問い」を見つけるということ
第16会場	J-C-9	社会的養育を担う保育者の重要性と可能性を問う －里親チーム養育における保育者の役割を中心に－

5月17日（日） 9:30～11:00

会場名	講演番号	テーマ
第3会場	J-D-1	保育の実践を発達心理学的観点からどう捉えられるか
第5会場	J-D-2	韓国における最新の「幼保統合」に関する政策と実践の動向 －質の向上を追究する政策・養成機関・現場の取組み－
第7会場	J-D-3	幼児教育の『職』の魅力発信と人材確保の取組
第9会場	J-D-4	乳幼児の表現行為を手掛かりとした学びの構想を考える －保育者養成の視点から－
第11会場	J-D-5	3歳未満児を担当する保育者は同僚保育者とどのように連携・協働しているのか
第13会場	J-D-6	木育で育むところから －子ども・保育者・保護者は木とかがわることで何を感じるのか－
第14会場	J-D-7	「保育事故」をなくすために（10） －なぜ保育中の重大事故は増え続けているのか－
第15会場	J-D-8	リゾーム型保育マネジメント論の構築（2） ー子どもが暮らす時間ー
第16会場	J-D-9	「不適切保育」とは誰が決めるのか ー専門性・政策・保護者の価値観ー

5月17日(日) 11:40～13:10

会場名	講演番号	テーマ
第3会場	J-E-1	地域の保育の質向上を支える持続可能な研修体制の構築に向けて(2) ー 横浜市の「保育・教育質向上サポーター」事業における派遣園での「Yサポ」の役割と学び合いー
第5会場	J-E-2	絵本でつながるヒトモノコト ー 人々の社会生活へ与えるさらなる絵本の可能性を探るー
第7会場	J-E-3	子どもの遊びと表現～史的変遷から保育者養成を考える
第9会場	J-E-4	保育をめぐる教育学と人類学の対話 ー デューイとインゴルドがひらく地平ー
第11会場	J-E-5	保育カリキュラムが生成する倫理的価値(2) ー インクルーシブ実践と保幼小の接続からー
第13会場	J-E-6	対人関係等の苦手な保育学生が働きやすい環境
第14会場	J-E-7	こどもの権利に基づく保育実践を考える ー 乳幼児期におけるこどもの自己決定の保障ー
第15会場	J-E-8	学び合う記録としてのラーニングストーリー ー 実習生と実習指導者の視点から
第16会場	J-E-9	幼児教育を支える園マネジメントの創造 ー 園長が紡ぐ「園文化」とこれからの幼児教育の可能性ー

5月17日(日) 13:35～15:05

会場名	講演番号	テーマ
第3会場	J-F-1	保育施設における子どものICT活用のこれまで・今・これから 研究者×ICT教材開発者による視点から
第5会場	J-F-2	子ども主体の保育と安全④ ー安心と挑戦の循環について考えるー
第7会場	J-F-3	インクルーシブ保育実践例 ～リレー競技における能力差に着目して～
第9会場	J-F-4	多文化保育における保育者の「困り感」改善モデル構築：人材育成・方法・ネットワーク ～研究成果と今後の課題～
第11会場	J-F-5	キリスト教保育とは何かを考える
第13会場	J-F-6	一時預かりにおけるレスパイト機能の現状と課題
第14会場	J-F-7	保育者養成校と保育現場が相互理解するための手立てを探る ー 互いのズレを分かち合う場を求めてー
第15会場	J-F-8	子ども主体の遊びを通じた探究 ー 国際バカロレアの教育実践における幼児の姿ー
第16会場	J-F-9	多様性を尊重し一人ひとりが輝く保育を目指して(2) ー 安心して自己発揮し、共に育ち合うための保育者の役割ー

5月17日(日) 15:30～17:00

会場名	講演番号	テーマ
第3会場	J-G-1	保育のアッセンブリッジ：絡み合う世界における生と学び
第5会場	J-G-2	保育・子育て家庭支援専門職の人材育成と組織マネジメント（その2） ースーパービジョンシステムの導入に関する検討ー
第7会場	J-G-3	日本におけるおもちゃの歴史と保育への活用ー発達を促すおもちゃの役割ー
第9会場	J-G-4	海外の保育・幼児教育の視点から再検討する Toban（当番）ー園生活は誰がつくるのか
第10会場	J-G-5	子どもを真ん中に保育を考えるⅥーもの・人・こととのつながりの中でー
第11会場	J-G-6	令和の日本型教育改革
第12会場	J-G-7	共に実践の質感をたどる対話の可能性を探る 『保育を綴るー対話型マップ記録の提案』を手掛かりに
第13会場	J-G-8	乳幼児期の家庭・園・社会をつなぐ子育て環境の変化 ー「乳幼児の生活と育ち」研究プロジェクトの2017年度コホートと2024年度コホートの比較からー
第14会場	J-G-9	園庭での探究的・協同的な遊びに向けた保育環境や援助について ー向山こども園4歳児クラスのオンライン公開保育ダイジェスト版動画を通してー
第15会場	J-G-10	「モア・ザン・ヒューマン・ペダゴジーの設計図」
第16会場	J-G-11	チームの成長段階に応じたトップリーダーによるマネジメントの在り方 episode I ～形成期編～

2. 研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ

2. 研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ

■大会発表について

- (1) 日本保育学会第79回大会は東京大学が担当校となり、大会はオンライン開催によって行われます。ポスター発表資料は4月17日(金)から大会参加者が閲覧することができるようになっています。
- (2) 予め「大会に参加される皆様へ」をご確認ください。
- (3) 各発表者は、「大会研究発表に関する規程」と『保育学研究倫理ガイドブック2023 子どもの幸せを願うすべての保育者と研究者のために』を熟読の上、ご発表ください。規程やガイドブックに記載の内容および、大会に関わる注意事項などが守られていない場合、発表後であっても発表が認められず、発表取り消しとなる場合があります。

■自主シンポジウム

- ◆ 自主シンポジウムの時間は90分です。
- ◆ 自主シンポジウムはビデオ会議システム Zoom (Zoom ミーティング) で行います。
- ◆ 登壇者は、担当セッションの10分前までにオンライン開催ページのタイムテーブルから、担当会場へアクセスし、スタンバイをしてください。直前のプログラムの都合上、10分前までのスタンバイが難しい登壇者は、他の登壇者にその旨を予めお伝えください。
- ◆ 座長・演者の方は運営スタッフが認識しやすいよう、名前の表示設定を必ず行ってください。
○表示名称例：【司会】保育太郎（東京大学）、【話題提供】保育花子（神戸大学）
・ニックネーム等の表示はご遠慮ください。表示名は、下記手順より変更できます。
・Zoom 下部にある「参加者」ボタンをクリック→自分の名前のところにカーソルを移動→「詳細」ボタンをクリック→「名前の変更」をクリックし変更。
- ◆ 大会当日は、各自主シンポジウムの90分間に、指定討論者の指定討論・話題提供者からの回答、参加者との討論等を行っていただきます。自主シンポジウムの開始時間になりましたら、筆頭企画者進行のもと、自主シンポジウムをスタートしてください。
- ◆ 事前の打ち合わせのための時間がないため、指定討論や参加者との討論等のための時間配分については大会前日までに筆頭企画者の責任のもと、全登壇者と済ませておいてください。

■口頭発表

(1) 口頭発表の座長の方へ

- ◆ 口頭発表セッションはビデオ会議システム Zoom (Zoom ミーティング) で行います。
- ◆ 担当セッションの10分前までにオンライン開催ページのタイムテーブルから、担当会場へアクセスし、スタンバイをしてください。
- ◆ スタッフが認識しやすいよう、名前の表示設定を必ず行ってください。
○表示名称例：【座長】保育太郎（東京大学）
・ニックネーム等の表示はご遠慮ください。表示名は、下記手順より変更できます。
・Zoom 下部にある「参加者」ボタンをクリック→自分の名前のところにカーソルを移動→「詳細」ボタンをクリック→「名前の変更」をクリックし変更。
- ◆ セッション開始の時間になりましたら、セッションをスタートしてください。
- ◆ 本大会では、口頭発表における発表資料の動画は事前公開しません。
- ◆ 各研究発表は発表12分、質疑応答3分の合計15分です。全ての発表終了後に全体討論(20分)を行います。時間厳守にご協力をお願いします。
- ◆ セッション開始前に、筆頭発表者が揃っているかどうかをご確認ください。

不在の筆頭発表者がいた場合は、順番を入れ替えて対応してください。筆頭発表者が発表・全体討議に参加できなかった場合は、学会事務局までご連絡ください。

- ◆ 本大会においても、例年通り2名の座長をお願いしております。座長のお二人におかれましては、セッション開始前に打ち合わせを行い、スムーズな進行にご協力をお願いします。

(2) 口頭発表の筆頭発表者の方へ

- ◆ 口頭発表セッションはビデオ会議システム Zoom (Zoom ミーティング) で行います。
- ◆ 担当セッションの10分前までにオンライン開催ページのタイムテーブルから、担当会場へアクセスし、スタンバイをしてください。
- ◆ スタッフが認識しやすいよう、名前の表示設定を必ず行ってください。
○表示名称例：【演題番号】 保育花子 (東京大学)
 - ・ニックネーム等の表示はご遠慮ください。表示名は、下記手順より変更できます。
 - ・Zoom 下部にある「参加者」ボタンをクリック→自分の名前のところにカーソルを移動→「詳細」ボタンをクリック→「名前の変更」をクリックし変更。
- ◆ セッション開始前にセッション会場での受付 (出席確認) を済ませ、その会場にて待機してください。セッション終了前に退席することはできません。
- ◆ 各研究発表は発表12分、質疑応答3分の合計15分です。全ての発表終了後に全体討論 (20分) を行います。時間厳守にご協力をお願いします。
- ◆ セッション開始時間から数分後、座長が出席確認を行います。直前のプログラムの都合により、5分を超えて入室が遅れた場合、入室後すぐに Zoom のチャット機能を用いて、座長に入室をお知らせください。
- ◆ ただし、自身の発表と全体討議の両方に参加していないなど、参加時間が短い場合、発表が認められないことがありますのでご注意ください。
- ◆ 筆頭発表者変更や大会当日の欠席は、運営事務局 (hoiku79@pcojapan.jp) へメールでご連絡ください。

■ポスター発表

(1) ポスター発表の座長の方へ

- ◆ ポスター発表の座長の方は、5月13日 (水) ~発表説明責任時間終了30分前までに、ご担当のセッションの全発表者に対して、コメント投稿欄にて質問を一つ以上行ってください。ただし、座長以外の人からの質問に対して、発表説明責任時間内に発表者が回答を投稿されている場合は、座長からの質問投稿は不要です。
※発表者の元に質問がまったく寄せられていない場合は、座長が時間内に質問し、時間内の発表者の回答を待ってください。
- ◆ 質問にはオンライン視聴サイトのコメント機能を使ってください。
- ◆ 筆頭者の発表説明責任時間は60分となっております。筆頭発表者の入室・退室のコメント、質問による回答をご確認いただき、万が一、不在の筆頭発表者がおり、その方の発表説明責任時間が40分を下回る場合は、セッション終了後に学会事務局までご連絡ください。
- ◆ 本大会においても、例年通り2名の座長をお願いしております。座長のお二人におかれましては、セッション開始前に打ち合わせを行い、スムーズな進行にご協力をお願いします。

(2) ポスター発表の発表者の方へ

- ◆ ご自身が属しているセッションの座長からの質問に対し、発表説明責任時間内にオンライン開催ページのコメント機能を使用して回答してください。その回答が発表への参加証明となります。
- ◆ セッション開始 15 ～ 5 分前までに、ポスター発表会場へ入室して、入室した旨をコメントで知らせてください。また、発表説明責任時間終了後に退出する場合も退出する旨をコメントで知らせてください。入室・退出・質問の返信を発表説明責任時間中に座長が確認し、出欠確認としますので必ず投稿してください。
- ◆ 発表資料掲載期間中の間に、オンライン開催ページにコメントが投稿された場合、ご自身の発表説明責任時間中に投稿されたコメントへの返信をお願い致します。発表説明責任時間外に回答された場合は参加証明とはなりませんのでご注意ください。
- ◆ 発表説明責任時間は 60 分となっております。40 分を下回る場合は、発表が認められない場合がありますのでご注意ください。どうしても発表説明責任時間に間に合わないなどの場合は、運営事務局 (hoiku79@pcojapan.jp) までご連絡ください。また、筆頭発表者変更や大会当日の欠席は、運営事務局 (hoiku79@pcojapan.jp) へメールでご連絡ください。

■注意事項（口頭発表・自主シンポジウム）

- ◆ 口頭発表セッションはビデオ会議システム Zoom（Zoom ミーティング）で行います。下記をご確認のうえ、予め Zoom アプリをダウンロードしておいてください。

【接続環境・設備】

- ◆ ブロードバンド有線またはワイヤレスのインターネット回線が必要です。
- ◆ 安定的な接続のため、インターネットは有線のご利用を強く推奨いたします。Wi-Fi でのご利用の場合、通信環境が不安定となりセッション中に中断する危険性がありますのでご注意ください。
- ◆ お持ちの PC にカメラ、スピーカー、マイクが付属されているかご確認いただき、可能な限り、マイク付きイヤホンやヘッドセットマイクなどをご使用ください。内臓のカメラ、スピーカー、マイクも利用できますが、内臓マイクは雑音や環境音を拾いやすく、ハウリングを起こしやすいため、ヘッドセットの使用を推奨します。
- ◆ マイクやカメラを使用するアプリケーションが、裏で動いている場合があります。セッション中は、セッションに不要なアプリケーションは全て閉じてください。

【Zoom アプリのインストールと接続テスト】

- ◆ 予め、Zoom アプリ（無料のもの）をダウンロードしてください。Zoom アプリは無料のもので問題なく大会に参加できます。
- ◆ サイト (<https://zoom.us/download>) にアクセスし、ミーティング用 Zoom クライアントを「ダウンロード」を開始します（アプリは Windows・Mac・iPad・iPhone・Android で利用できます）。
- ◆ 公式サイト (<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>) より、サポートされているオペレーティングシステムとインターネットブラウザをご確認ください。

大会研究発表に関する規程

(本規程の目的)

第1条 本規程は、日本保育学会の大会において会員が研究発表を適正に行い、正式発表と認定されるための条件および規則を定める。

2 本規程は、対面開催、オンライン開催を問わず、適用される。

(発表申し込みとその受理)

第2条 大会での発表を申し込む者は、正会員であり、かつ発表前年度の9月末日までにその年度の年会費を納入済でなければならない。ただし、本学会との学术交流協定に基づき発表する者はその限りではない。

2 大会で発表する者は、以下の条件を満たさなければならない。

(1) 大会で発表する者は、筆頭・連名を問わず、大会実行委員会が指定する期日までに発表申し込みをしなければならない。

(2) 大会で発表する者は、筆頭・連名を問わず、大会参加費を大会実行委員会が指定する期日までに納入しなければならない。ただし、特別配慮すべき事情がある場合は、事前に大会実行委員会に申し出て、その許可を得ることにより、期日後に納入することができる。

(3) 筆頭発表者は大会実行委員会が指定する期日までに論文集の原稿を提出しなければならない。

(4) 上記の条件が満たされない場合は、発表申し込みは受理されない。また、受理が取り消される。

(発表研究の条件)

第3条 発表研究は、大会での発表時において未発表であるものに限る。すでに印刷製本して公表された研究(単行本、学会誌、紀要[大学、研究会、園等]、雑誌等に発表されたもの)は、大会において発表することはできない。

2 発表研究は、本学会倫理綱領に基づいていなければならない。発表者はこれを踏まえて、発表者自身の責任において発表する。

(発表に関する制約)

第4条 発表は、1人1回に限る。ただし、連名発表者となる場合は、筆頭発表を含めて3発表まで認められる。

2 同一研究については、2発表までに限る。ただし、タイトルの一部を変えても2発表を超える発表はできない。また、同一研究グループ内で発表者を分散させるなどして、複数の発表をする場合も、実質上同一研究グループによる研究である限り、2発表を超える発表はできない。

3 1発表は筆頭発表者を含め、10名を上限とする。

(発表の成立条件)

第5条 ポスター発表は、「資料の事前投稿」「質疑応答への参加」「論文集への発表論文掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められる。また、発表者は「発表説明責任時間」の間、自分のポスター掲示場所に在席していなければならない。かつ、ポスターは所定の時間掲示されなければならない。

2 口頭発表は、「口頭での発表」「討論への参加」「論文集への発表論文掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められる。また、発表者は分科会終了前に退席することはできない。

3 発表者は、分科会開始前に分科会会場での受付を済ませ、その会場にて待機しなければならない。

4 研究発表の際、筆頭発表者は必ず分科会に出席しなければならない。

5 筆頭発表者がやむをえない理由で発表ができなくなった場合、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者(他の発表で筆頭発表者となっていない者)が筆頭発表者となることができる(筆頭発表者の交代)。座長への届け出での取り下げおよび交代は無効である。

(日本語以外で発表を希望する者の発表)

第6条 正会員で、日本語以外で発表を希望する発表者は、本人の責任で日本語への通訳者を付ける。通訳者は非会員でも良いが、発表者の責任で実行委員会へ通訳者を届け出る。

なお、英語の発表はポスターのみ可とする。

- 2 正会員で、日本語以外で発表を希望する発表者が通訳者を付ける場合も、発表時間は通常通りとする。
- 3 学術交流協定に基づく発表者が通訳者を付ける場合には、口頭発表における発表時間を通常の2倍以内とする。
- 4 通訳者は分科会終了まで、発表者と同席し、通訳の任に当たらなければならない。また、通訳者を必要とする発表者は、このことについて事前に通訳者に了解を取らなければならない。

(研究発表の認定と取り消し)

第7条 すべての研究発表の終了後、研究奨励賞推薦委員会がすべての発表について本規程を遵守しているか否かを審査する。審査の結果、本規程を遵守していると認められた発表のみ、理事会の議を経て正式発表と認定する。本規程に反することが確認された発表は「発表取り消し」とされる。

- 2 筆頭発表者が無断で欠席した場合は「発表取り消し」とされる。事前に欠席を届け出た場合は「発表取り下げ」となる。

(改廃)

第8条 本規程の改廃は理事会が行う。

附則 本規程は、平成22年4月1日から施行する。

一部 平成27年9月26日改正

一部 平成30年9月1日改正

一部 平成31年2月2日改正

一部 平成31年4月13日改正

一部 令和5(2023)年10月3日改正

一部 令和7(2025)年9月27日改正

一般社団法人 日本保育学会研究奨励賞 規程

(目的)

第1条 一般社団法人日本保育学会研究奨励賞（以下、研究奨励賞）は、「将来を嘱望される研究者を育てること」および「独創的な研究を育てること」を目的とする。

(賞の構成)

第2条 研究奨励賞は、「大会」において発表された研究（口頭発表・ポスター発表）を対象とする「大会発表部門」と『保育学研究』において発表された研究を対象とする「論文部門」の2部門からなる。

(授賞対象)

第3条 研究奨励賞は、本学会会員が「大会」において発表した研究および当該年度の『保育学研究』において発表した研究の中から、保育学の発展および保育実践の向上にとって非常に有意義であると思われる、今後の発展が期待できる優れた研究に対して授与する。

(授賞対象外の研究業績)

第4条 本学会役員（会長、副会長、理事、評議員、監事、推薦委員）の研究および役員の参加した研究は、選考対象外とする。

2. 教育研究機関等において教授職または、かつてその職にあった者の研究およびその者が参加した研究は、選考対象外とする。
3. 過去において研究奨励賞（大会発表部門）を受賞した事がある会員およびその会員を含むグループの研究は、研究奨励賞（大会発表部門）の選考対象外とする。また、過去において研究奨励賞（論文部門）を受賞した事のある会員およびその会員を含むグループの研究は、研究奨励賞（論文部門）の選考対象外とする。
4. 「大会発表部門」においては、第6条に規定される推薦委員会により推薦されながら受賞できなかった研究で、引き続き研究が継続されている場合は、次年度以降も選考対象となりうる。

(賞の授与)

第5条 「大会発表部門」に関しては、大会ごとに研究3件までに対して授与する。但し、適当な研究がない場合はそのかぎりではない。

2. 「論文部門」に関しては、同一年度の『保育学研究』に発表された研究の中から、年度ごとに研究2件までに対して授与する。但し、適当な研究がない場合はそのかぎりではない。
3. 研究奨励賞の授与に当たっては、賞状および副賞を授与する。
4. 授賞は、授賞研究が発表された年度の次年度の大会での授賞式において行う。

(大会発表部門の選考)

第6条 「大会発表部門」の選考においては、「研究奨励賞推薦委員会」（以下、推薦委員会）が授賞対象と考えられる研究を推薦し、推薦された研究の中から、「研究奨励賞選考委員会（大会発表部門）」（以下、選考委員会）が授賞候補とする研究を選定し、理事会において決定する。

2. 推薦委員会は、大会ごとに組織し、会長が委員長となり、副会長、理事、大会実行委員長および理事会で指名された本学会の役員と会員をもって構成する。
3. 選考委員会は、大会ごとに組織し、委員は5名とし、理事および評議員をもって構成する。但し、必要のある場合は、理事会で選定された本学会の会員も委員とすることができる。
4. 選考方法（推薦方法および選定方法）については別に定める。

(論文部門の選考)

第7条 「論文部門」の選考においては、当該年度の『保育学研究』に発表された研究（論文）の中から、「研究奨励賞選考委員会（論文部門）」（以下、選考委員会）が授賞候補とする研究を選定し、理事会において決定する。

2. 選考委員会は、年度ごとに組織し、委員は5名とし、理事および評議員をもって構成する。但し、必要のある場合は、理事会で選定された本学会の会員も委員とすることができる。また、編集常任

委員は当委員を兼ねることはできない。

3. 選考方法（選考方法）については別に定める。

(賞の基金)

第8条 研究奨励賞の基金については、別に内規を定める。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、学会事務局員の協力を得て行う。

(改廃)

第10条 本規程の改廃は、理事会が行う。

附則 本規程は、平成18年4月1日から施行する。

但し、本規程に基づく選考は平成19年度より実施する。

一部 平成22年10月2日改正

一部 平成25年4月13日改正

一部 平成30年2月10日改正

一部 令和6（2024）年2月24日改正

第 79 回大会日本保育学会発表資料作成におけるガイドライン (引用・著作権等に関する事項)

オンラインによる発表（オンライン資料公開）は著作権法上の「公衆送信権」（著作権法第 23 条）に抵触すると考えられることをふまえ、当法人では、オンライン資料公開ガイドライン（以下「本ガイドライン」）を公表することとしました。発表者におかれましては、本ガイドラインを指針とし、発表資料（以下「コンテンツ」）をご準備ください。

なお、本ガイドラインは、著作権に関する一切の問題が生じないことを保障するものではありません。コンテンツの著作権は、発表者に帰属しますので、当コンテンツが第三者の権利や利益を侵害した場合、発表者が一切の責任を負うこととなりますのでご留意ください。

1. 引用する場合は、次の要件を遵守すること

- ① 引用物がすでに公表された著作物であること
- ② 引用部分と他の部分を明確に区分すること
- ③ 自らの著作部分が「主」で引用部分は「従」であること
- ④ 慣行に従い出典の明示をすること

2. 写真の掲載を原則禁止すること※

- ① 写真を掲載する場合は本人や保護者の掲載許可をとること
- ② 発表者自身が撮影した写真を使用すること

3. 音楽は権利者の承諾なく無断で使用しないこと※

音楽を使用する場合には、関係する著作権及び著作隣接権の権利者から必要な許諾をすべて得ておくこと

4. 図表を引用する場合は、以下の点に留意すること※

出版社が図表の著作権を有している場合があるため、著作者だけでなく出版社の許諾が必要となるかどうか事前に確認すること

5. 出版物の表紙や絵を使用する場合、出版社の指定する条件に従い使用すること

*インターネット上で「著作権フリー」として公開されている場合であっても、著作権、著作隣接権の許諾が不明な場合が散見されるため、使用しないこと。

一般社団法人日本保育学会 オンライン資料公開に関するガイドライン

一般社団法人日本保育学会第79回大会(以下「本大会」といいます。)は、ポスター資料を公開いたします。参加される皆様(以下「参加者」といいます。)におかれましては、本ガイドラインを遵守いただきますようお願いいたします。

なお、本ガイドラインの不遵守によって発生したいかなるトラブルについても、当法人は責任を負いかねますのでご了承ください。

1 閲覧方法

参加者は、閲覧期間内に、本大会特設サイトに掲載される各発表者の発表資料(ポスター発表)を閲覧することができます。

発表者への質問がある場合には、本大会特設サイトにコメントを投稿することができますが、すべてのコメントに発表者から回答されるわけではありませんのでご了承ください。

また、人権侵害等の問題のあるコメントは本大会実行委員会の判断で削除される場合がありますので、ご注意ください。

2 発表内容を無断で複製・録音しないこと

本大会における各発表者の発表内容(発表者作成の発表資料を含む。)に関する著作権については、原則として当該発表者に帰属します。

したがって、参加者は、本大会特設ページに公開された各発表者の発表内容その他一切の資料(画面キャプチャを含む)を、無断で録画、録音、保存、再配布することを禁止いたします。自己使用目的であっても同様です。

3 その他禁止事項

- ・当法人から付与された本大会特設サイトへのアクセスパスワード・IDを他人と共有・他人へ譲渡すること
- ・本大会の運営を妨げる行為
- ・公序良俗に反する行為、またはそのおそれのある行為
- ・その他法律、法令に反する行為、またはそのおそれのある行為
- ・その当法人が不適當・不適切と判断した行為

3. シンポジウム

『あらゆる学問は保育につながる』 —あらゆる学問を保育につなげるための一試論—

企 画:	大会実行委員会
趣旨説明・話題提供:	遠藤 利彦 (東京大学・大会実行委員会)
話題提供:	秋田喜代美 (学習院大学)
	多賀巖太郎 (東京大学)
	無藤 隆 (白梅学園大学)
	大桃 敏行 (東京大学)
総 論:	浅井 幸子 (東京大学・大会実行委員会)
司 会:	野澤 祥子 (東京大学・大会実行委員会)

1 企画趣旨・話題提供

遠藤 利彦

私ども東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (CEDEP) が、発足時に掲げた一つのスローガンが「あらゆる学問は保育につながる」であった。それはそのまま書名となって、秋田喜代美先生監修・多賀巖太郎先生編集の下、東京大学出版会より2016年に刊行されている訳であるが、そこから10年の歳月を閲し、果たしてそのスローガンはどれだけ現実的な形を持ち得たと言い得るのか、それを、CEDEPの立ち上げに様々な形で関わった演者が振り返り、現今の到達点を評価し、かつ未来への展望について意見を交わすことが、このメイン・シンポジウムの企図するところである。

私見を素直に吐露するならば、真に「あらゆる」と言えるかは措くとして、文理に跨がり、実に多くの様々な学問領域における先端知見が、保育に豊かにつながり得る可能性を秘めていることは確かに実感するところであった。しかし、言うまでもなく理屈の上で「つながる」可能性のあることと、実践の中で実際に「つなげる」ことは全く別事である。多岐に亘り、調査や研究を積み重ねる中で、「つながる」可能性をエビデンス・ベースで確信しながら、現実的に「つなげる」ことの前に立ち足る壁の高さに茫然と立ち尽くしたこともしばしばであった。私自身の専門である発達心理学に引き寄せて言えば、それと保育は、両者ともに子どもを直にターゲットとするという意味において、本来、ある意味、最も有機的につながり得る可能性を有しているのだと言い得る。しかし、CEDEPの様々な事業の中で、国や自治体あるいは各種保育関連団体等の保育者研修の体系に多くふれる機会を得て、率直に想うのは、逆説的にも、それらにおける子どもという存在そのものの相対的な不在である。大人がいかに子どもに関わるかという視座からの内容はきわめて豊かである一方で、乳幼児期における発達のプロセスやその背景にあるメカニズムそのものを深く知り、考えるための内容はきわめて希薄なのである。当日は、この現実をどのように受け止め、いかに超克し得るのかに関して、少しばかり私論を述べることにしたい。

2 話題提供

(1) 生態系の中で考える保育の営み

秋田 喜代美

発達保育実践政策学センター (CEDEP) という名前を付けた10年前には、園で行われる保育という営みを園内だけではなく制度政策の問題とつなげて論じること、また人の発達を子どもが育つ場としての園や社会と切り離して考えることはできないという思いから、串刺し団子のように「発達科学」「保育学」「公共政策学」がつながるイメージを持っていた。それから10年。少子化・過疎化と共に、異常気象、自然災害、生成AIをはじめとするデジタル化等の中で、私たちは保育において子どもたちにどのような経験を保証す

るのかを改めて考えることが求められている。子どもの経験をより豊かにするには、人が多種多様な生物と共生する地球環境や生態系について捉え、保育の未来を考えるこいが必要と考える。そのためには、日本の保育制度と実践、保育学の歴史という縦糸と関連学術分野の展開の横糸を編み込みながらこれからの保育を展望する必要がある。「循環と保育」を持続可能な社会の担い手とつなげ考えてみたい。

(2) 子どもの存在を捉え直す

多賀 徹太郎

保育学を豊かにするのは、あらゆる学問を結集して、基礎研究と実践をつなぐ枠組みを作ることであろう。そして、さらに重要なのは、子どもとはどのような存在か、発達の基本原理は何か、子どもと共に生きることはどんな意味をもつのか、子どもは人類の過去や未来といかにつながっているのか、といった根本的な問いかけだ。人類は、自らの存在を問い続け、少なくとも数千年の時を刻んできた。しかし、人生の初期段階である胎児や乳児についての科学的な理解が深まった歴史は浅い。例えば、人間を含む動物が受精卵から発達することがわかったのは19世紀であり、遺伝子の仕組みが解明されたのは20世紀になってからである。胎児の行動観察が可能になったのは20世紀後半であり、胎児や乳児の脳活動が可視化されるようになったのは21世紀になってからである。基礎的な知識は現在も日々更新されている。こうした発展を踏まえ、子どもの存在を捉え直すことが、現代の重要な課題である。それは、激変する地球環境や人工物に囲まれた社会環境での保育という新たな状況に取り組む手がかりとなるにちがいない。

(3) 保育を園の保育の特徴とその実践のあり方に焦点化するための翻訳過程の検討へ

無藤 隆

幼稚園・保育園・認定こども園などの保育施設という園の中で起こることを保育と捉えると、その特徴は実践的で同時に制度的で歴史的文化的で伝統的である。そこに入ってくる子どもの活動と保育活動を導く保育者のあり方がその園としての特徴に沿って意味づけられる。その「外」の知見はその園での実践への「翻訳」過程を通して意味をなす。子どもはその心身のあり方として園に入ってくるので、その解明はとりわけ発達心理学的知見である程度示される。子どもはその心身のあり方からその特定の環境の中の場における活動をその環境と保育者の働きかけに呼応して開始し、他の子どもとの同様の呼応が相まって、また既に園にいる(たいていは年上の)子どもたちの園の環境と日課や保育者の働きかけによる活動的生活という「文化」を構成する。それはしばしば外部の知見や人・ものの環境への組み込みにより動く。それが環境への関わりとしての遊びであり、その発展から活動が変容する。これまでの実践的由来と外部の知見や規定は園での保育実践とその活動の理解とに翻訳されて活動へと組み込まれていくのである。

(4) 公教育における公正 (equity) の観点からの幼児教育・保育の問い直し

大桃 敏行

CEDEPは「乳幼児期の発達ならびに教育・保育の実践と政策を総合的に研究する」機関(CEDEP, 10周年記念WP, 2025)として、多様な学問分野の参加のもとに発達の基礎から政策の成果に関するものまで多様な研究を行ってきた。この総合性がCEDEPの基本的な特徴であり、「あらゆる学問を保育につなげる」活動のコアとなるものである。この課題はCEDEPのみならず幼児教育・保育全体の課題とも言えよう。幼児教育・保育はそれを担う施設は多様でその歴史も異なり、対象は多様な発達段階の子どもたちであり、さらに公共性と私事性が交差する領域でもある。多様な学問分野を幼児教育・保育につなげるとは、多様な学問分野を幼児教育・保育の領域につなぐことと、各分野からのアプローチをつないでいくことの2つの意味を持ちうるものと考えられるが、それではどのように行っていくのか。本報告では一つの試論として公教育における公正(equity)の観点から幼児教育・保育を問い直し、幼児教育・保育の研究をより豊かにするとともにその成果を実践に活かしていくうえで、異なる学問分野、異なる研究手法をつなぐことの必要性と課題について検討したい。

学際的視点から子どもの「食」経験を捉え直す

企画:	第79回大会実行委員会
話題提供:	李 裕珍 (東京大学) 三坂 巧 (東京大学) 鈴木美枝子 (玉川大学) 中道 直子 (東洋大学)
指定討論:	淀川 裕美 (千葉大学)
司会:	佐藤 賢輔 (東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター)
趣旨説明:	新屋 裕太 (静岡社会健康医学大学院大学)

1 企画趣旨

本シンポジウムでは、子どもが生命を維持し、心身を健やかに育むための基盤としての「食」の役割を、学際的な視点から捉え直すことを試みる。食べることは単なる栄養摂取にとどまらず、子どもが身体の内と外（環境）との相互作用を通じて世界と出会い、他者と共生するための生理的・心理的・社会的な営みでもある。そうした多層的な経験としての「食」について、基礎から実践に至る多様な専門領域の研究者による話題提供を通じて、その理解を深めることを目的とする。

話題提供では、子どもの「食」経験を、身体の内側で生じる生理的プロセスから、他者や環境との関わりの中で育まれる心理・社会的プロセスまで、多層的に検討する。具体的には、乳児期の食を介した腸内細菌叢の形成と発達の関わり、乳幼児期の食経験が味覚や脳の発達に及ぼす影響、保育者や仲間との関わりの中で食の好み形成される社会的学習のメカニズム、そして保育現場における食生活支援の実態と課題について、それぞれの専門領域から話題提供をいただく予定である。

これらの話題提供を通じて、基礎研究が明らかにする子どもの「食」の姿と、保育実践の現場で日々営まれる食の経験とを往還しながら、子どもにとっての食べることの意味について、参加者の皆さまと共に議論を深める場としたい。

2 話題提供

(1) 「乳児期における腸内細菌叢の変化」

李 裕珍 (東京大学大学院教育学研究科)

ヒトの体は多くの微生物が宿っており、腸内では腸内細菌叢と呼ばれる複雑な微生物群集を形成する。乳児期において腸内細菌叢は食物の分解だけでなく、免疫システムの刺激・調整にも関与するなど、重要な役割があるとされている。腸内細菌叢は乳幼児期に形成され、成長とともに安定した成人型へとダイナミックに変化するが、分娩方法、在胎週数、抗生物質の使用、家族構成、など様々な要因が腸内細菌叢の形成に関与するため、個人差が大きく、いまだ乳児期における腸内細菌叢の詳細は明らかになっていない部分が多い。

本発表では、出生後1年間にわたり高頻度で収集された腸内細菌叢データを縦断的に分析し、横断的視点では見逃しやすい乳児一人一人の細菌叢の組成変動およびそのタイミングを可視化する研究についてお話しする。乳児に共通してビフィドバクテリウム科の優勢が観察されるものの、月齢に伴う組成変化の傾向はそれぞれであることをお見せする。

(2) 「乳幼児期の食経験によって変化する嗜好性」

三坂 巧 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

味の嗜好性(好き嫌い)は、生まれてから一生変わらないものではなく、栄養状態やこれまでの食経験によって変化することが知られている。特に乳幼児期は、味の嗜好性が形成される重要な時期であり、この時期の食経験が将来の食べ物の好き嫌いに大きく影響することが知られている。人は生まれつき甘味やうま味を好み、強い苦味や酸味を避ける傾向をもつが、その後の食経験によって味の受け入れ方は変化していく。例えば、幼少期にさまざまな味や食感の食品に触れることで、はじめは苦手であった味でも徐々に受け入れられるようになる場合もある。近年の研究では、味を感じる仕組みや脳内の情報処理、さらに体内の栄養状態を示すシグナルなどが関わりながら、嗜好性が調節されている可能性が示されてきている。また、離乳期から幼少期にかけての味覚刺激や食経験が、味覚に関わる神経回路の発達や食行動の形成に影響を与えることも報告されている。本発表では、離乳期および幼少期に与えた呈味刺激や食感が食行動にどのような変化をもたらすのか、また脳内の神経回路網にどのような影響を与えるのかについて、主にモデル動物を用いた研究結果をもとに紹介する。

(3) 「幼児はどのように食物を学ぶのか：社会的学習の発達的特徴」

中道 直子 (東洋大学福祉社会デザイン学部)

食物を学ぶことは、健康的な生活を送るうえで重要である。しかし、雑食である人間にとって、何が安全で価値ある食物であるかを学ぶことは容易ではない。では、知識の少ない子どもは、いかにして何を食べるべきかを学んでいるのだろうか。食物の性質を知る方法には、自ら経験する個体学習と、他者から学ぶ社会的学習がある。子どもの食物学習は、その効率と安全性の観点から社会的学習に大きく依拠している。子どもは信頼できる他者と共に食事をし、その人の行動を観察することで食物について学ぶ。

本発表では、幼児が「いつ」「誰から」「どのように」食物について社会的に学ぶのかに関する発達心理学的知見を紹介し、その適応的意義を検討する。幼児は未知の食物に直面したときに社会的情報を求め、親しい他者から味に関する情報を選択的に学ぶ。また、肯定的情報よりも嫌悪などの否定的情報に注意を向けやすく、記憶しやすい傾向がある。こうした傾向は、毒や不快な食物を回避しつつ、安全で価値ある食物を選ぶための適応的仕組みと考えられる。これらの知見を通して、子どもにとっての「食べること」の意味と、その支援のあり方について議論したい。

(4) 「保育現場における食生活支援のあり方を考える」

鈴木 美枝子 (玉川大学教育学部)

子どもにとって「食べる」ことは、心身の健全な発育・発達に欠かせないものである。毎日の食を「楽しい」と感じながら食べることは、子どもが健やかに日々を過ごすために非常に重要な視点である。保育現場においては、食を一つの「点」として捉えるのではなく、生活の流れの中に食があるという視点を持つことで、子どもの好きな遊びや好きなことと連動しながら食生活支援をすることができる場であるともいえる。子ども一人一人の心もちを支える環境のあり方にも目を向けながら、子どもの気持ちはどう動いて自ら食に対して前向きになるのか、支援のあり方について考えていきたい。また子どもの発育・発達は一律ではないため、子どもの歯の萌出の様子など口腔機能の発達にも気をつけ、食べにくさに関して寄り添う必要性にも触れたい。

本発表では、保育所において、食へのこだわりが強く特定のものしか食べなかった子どもが、気持ちに寄り添ってくれる保育者と関係性を構築しながら、自分の好きな遊びを見つけ、友だち関係も次第に良好になっていきながら、食に対する意欲が育まれてさまざまなものを自ら食べるようになった事例等を紹介する。なお、本事例の一部は、第72回日本小児保健協会学術集会にて発表したものを、視点を変えて紹介するものである。食にとって何が大切なのかについて改めて考えてみたい。

気候変動の時代の保育・幼児教育

企画:	国際交流委員会・OMEP日本委員会
話題提供:	Veronica Pacini-Ketchabaw (Western University)
指定討論:	Gunilla Dahlberg (Stockholm University) 青木 一永 (檸檬会 レイモンド保育園) 野澤 祥子 (東京大学)
司会・趣旨説明:	浅井 幸子 (東京大学) 門田 理世 (西南学院大学・国際交流委員会委員長)

1 企画趣旨

気候変動の時代は、人間と自然の新たな関わり方を要請している。そして教育には、その関わり方を変革する力が期待されている。日本の保育の領域では、子どもと自然との関わりを重視する伝統を基盤としつつ、ESDの取り組みが進められている。しかし、それらは自然体験活動にとどまることが多く、変革につながりにくいという課題が指摘されてきた。近年は、北欧、北米、オセアニアを中心に、「ポスト人間中心主義」と総称しうる思想の潮流を理論的基盤として、自然を対象化して認識するのではなく、世界の中で自然を含む他者と共に生きることを学ぶ実践が模索されている。

本シンポジウムでは、そのような動向として、「コモンワールズ・ペダゴジー」を焦点化する。具体的には、ユネスコの報告書「私たちの未来をともに最構想する (Reimagining our Futures Together)」（2021）の幼児教育に関するバックグラウンドペーパー「世界とともに生成することを学ぶ (Learning to become with the world: Education for future survival)」（2020）について、その著者である Common Worlds Research Collective の創設メンバーである Pacini-Ketchabaw 先生にお話を頂く。

2 話題提供

Veronica Pacini-Ketchabaw (Western University)

私たちが生きる人新世 (Anthropocene) ——人間が地球のあらゆる側面に影響を及ぼしてきた時代——は、就学前教育や学校教育の未来について重要な問いを投げかけている。幼児教育においては、人間を世界の中心とみなす人間中心主義的な見方を問い直し、人間を生態系の一部として捉える世界観へと転換していく必要がある。

子どもたちの意味生成や周囲の世界との出会いに関して、私たちは「学びを関係性のなかに開かれた潜在性の場として捉える」という視点に立ち、子ども自身の問いから出発することの重要性を強調する。とりわけ最も年少の子どもたちと取り組む際には、持続可能性に関するテーマを慎重に扱うことが不可欠である。そうすることで、子どもたちの潜在的な可能性、主体性、そして世界への帰属感を育むことができる。

—子どもたちの「生きられた経験」と密接に結びつくテーマとは何だろうか。

—気候変動の時代において、どのような知識や技能が必要となるのだろうか。

—教師の「聴く姿勢」は、どのようにして子どもたちの探究やレジリエンスを支えることができるのか。



ヴェロニカ・パシーニ=ケチャボー氏 Veronica Pacini-Ketchabaw

カナダ オンタリオ州 ウェスタン大学教育学部教授 (幼児教育)、カリキュラム研究学際センター長。Common Worlds Research Collective (子どもたちと場所、物質、他の種との関係をたどる)、Early Childhood Pedagogies Collaboratory (21世紀型教育法の諸要素、条件、複雑さを実験する) に貢献する研究や執筆を行っている。

<https://www.veronicapacineketchabaw.com/>

3 指定討論

(1) 指定討論・対話

Gunilla Dahlberg (ストックホルム大学名誉教授)



UNESCO の論文には、人間と地球の持続可能性は相互に依存し、切り離すことができず、そしてエコロジカル・ジャスティス（生態学的正義）と結びついているという強調から始まる、数多くの重要で価値ある思想や哲学的視点が提示されている。私たち人間が、これまで影響を与え、そして今なお影響を及ぼし続けている生態系の不可欠な一部であるという認識は、今日ますます多くの人々に共有されつつある。

しかし問いは残る——私たちは本当にこの知恵を大切にしているのだろうか。

Common Worlds Research Collective が過去 20 年にわたり保育園や学校で実践してきた取り組みを知る私たちは、その提案する 2050 年のビジョンを、一種の「生きられたユートピア」として読む。それは単なる理論的・哲学的構想から生まれたものではなく、子どもたちや家族とともにやってきた刺激的な実験的実践の中から立ち現れてきたものである。その実践は、子どもと世界との複雑で絡み合った関係性に焦点を当ててきた。

私たちが生きるこの時代、そして私たち全員が生態系の一部であり、それに依存しているという事実を踏まえるならば、私たちは人間としての自らの立ち位置を再評価する必要がある。「より人間中心主義を超えた（モアザンヒューマンの）」視点から、学びや主体性を関係性のなかに開かれた潜在性の場として捉えるとき、私たちは新たな経験のかたち、新たな生のかたち、新たな存在のかたちを思い描くことができる——より「生き生きと生きられる世界」を。

(2) 「へその緒」が教えてくれた、生かされている私たち

青木 一永 (檸檬会レイモンド保育園)

生命への疑問から「自分たちはどうやって生まれてきたの？」と探究していった実践事例から、気候変動時代の乳幼児教育における「つながり」のあり方を考察したい。

子どもたちは、動物の誕生から自身のルーツへと関心を広げ、エコー写真や「へその緒」の存在を知り、出産時の様子をインタビューするプロセスを通じて、かつて自身が母体と一体であった事実を知った。自己を独立した個体ではなく、他者に生かされた「環境の一部」として捉え直すこの過程は、自分よりも大きなものと共にある当事者としての「生きられた経験 (Lived Experience)」の土台になったと考える。

近代的な主客分離の論理が定着する前の、世界と地続きに存在する乳幼児期特有の知覚のあり方は、決して未熟さの象徴ではない。むしろ世界と共にあること (Becoming with the world) を直感的に理解する感性として捉え直し、心身一体となって世界とかかわる経験を積み重ねる教育のあり方が、周囲の環境との相互依存を自覚した「モアザンヒューマン」の視点を構築する基盤になるのではなかろうか。

(3) 絡み合う世界の中の保育

野澤 祥子 (東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 特任教授)

コモンワールズ・ペダゴジーは、私たちの過去、現在、未来の生活が、他の存在、非生命体、技術、要素、言説、力、地形とどのようにもつれ合っているかを焦点化する。2024 年 1 月 1 日に起きた能登半島地震は、人間と非人間のライフラインを等しく断ち切り、その共通世界を可視化した。石川県穴水町にある平和こども園は、震災の際は自主避難所となり、2025 年度は、地震で隆起した海岸で露わになった海洋プラスチックの問題について子どもたちや地域の人々と共に学んでいる。人口減少と少子化が長期に進行し、将来的な園の維持にも困難さがある中で、平和こども園は、穴水を引き受け「土地に根ざした (rooted)」文化の拠点になろうとしている。こうした歴史的な脈を踏まえつつ、保育の実践や子どもたちの声から、人間と非人間が絡み合う世界の生成としての保育について考えたい。

保育実践に保育学はどうかかわれるのか —子どもの育ちを問いなおすことの醍醐味と研究・養成—

企画:	課題研究委員会
話題提供:	井内 聖 (安平町教育委員会教育長) 小川 清実 (東京都市大学名誉教授) 岡 健 (大妻女子大学・課題研究委員会)
指定討論:	戸田 雅美 (東京家政大学)
司会・趣旨説明:	渡邊 英則 (港北幼稚園・課題研究委員会)

1 企画趣旨

課題研究委員会では、令和7年からの4年間、保育学が子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う学問としての真価について、今一度、会員の皆様と問い直すことを企図した。

その2年目として、少子化が進む中で、様々な問題や課題が顕著になってきた保育実践の場や養成のあり方について取り上げる。保育現場からは、少子化で過疎化が進む中で、ユニセフの「子どもにやさしいまちづくり」に参加し、まち全体が子どもの声を受けとめて、まちの活性化につなげている北海道安平町の取り組みを紹介する。続いて、保育者養成の立場から、全国保育養成協議会が行っている「実習指導者認定講習」などを通して、保育者養成において、保育現場との直接的なかかわりが起こる実習について、その望ましいあり方を探る。さらには、養成校を志願する学生募集にもかかわることであるが、養成校の授業等を通して学生が保育現場に就職し、保育の専門家としてさらに保育の質を高めていきたいと思う保育者を、どのように養成し現場で育成していけばいいのか、そのあり方について、研究者、実践者の立場から再考する。

研究者、実践者を問わず、多くの皆様に参加していただき、参加者相互にご議論いただくことで、保育学の学問としての深化・発展に繋がれば幸いである。

2 話題提供

(1) 子どもが育つまちをつくる(保育の希望と可能性)

井内 聖

人口約7,000人、北海道の小規模自治体である安平町は、新千歳空港に近接する立地にありながら、少子化と人口減少という課題に直面している。そうした中で本町は、優先すべき政策分野として子育てと教育を位置づけ、子どもを主語に置いたまちづくりを進めてきた。その出発点にあるのは、町内2カ所の認定こども園である。保育の見方や考え方、すなわち、子どもを「育てる対象」として捉えるのではなく、自ら育とうとする「育つ主体」としてまなざしを向け、教育とまちづくりに取り組んでいった。

この視点のもと、ユニセフの「子どもにやさしいまちづくり(CFCI)」の理念を踏まえながら、子どもが意思や関心に基づいて行動できる環境づくりを進めてきた。遊びや探究活動を軸とした社会教育の実践、住民参加による学校づくり、学校施設の地域開放などは、遊びの社会化、地域に開かれた園づくりの社会的実装とも言える。

これらの取組は、理論的な構想から始まったというよりも、現場の保育実践を起点に、できることを一つずつ積み重ねてきた結果である。認定こども園で大切にされてきた子ども観を、学校や社会教育、施設整備、運営の在り方へと少しずつ広げていったにすぎない。「子ども主体」「子ども理解」「環境づくり」など保育が持つ視点をまちづくりにおいて共有することで、制度整備や事業実施など行政として取り組むべき課題に

においても、子どもが育つ環境をどう整えるかという方向へと具体化していった。本報告では、その過程と現在地を紹介し、保育のまなざしが自治体の政策や学校づくりとどのように結びつき得るのかを、保育によるまちという「場」の編み直しについて、実践の事例から提示したい。

(2) 全国保育士養成協議会の試み—実習指導者認定講習の実施から

小川 清実

保育士養成の核と言える「実習」と「実習指導」を各養成校でどのように実施しているのか？保育士という国家資格を養成する学校でありながら、実際には養成校によって指導に違いがあることから、「実習指導」のテキスト（『保育実習指導のミニマムスタンダード』等）を作成した。さらに養成校の実習指導者対象の講習会を開催することを計画した。しかしコロナのために足踏みしたが令和3（2021）年度にオンラインで1回実施した。翌年度もオンラインで2回実施。令和5（2023）年度からは対面で2回実施している。

こども家庭庁の令和5年度子ども・子育て推進調査研究事業の「指定保育士養成施設及び実習先保育所の実習指導者に対する効果的な研修の在り方に関する調査研究」に応募、採択された。研修のモデルカリキュラム、研修のテキスト、指導マニュアル（保育所版）、指導マニュアル（養成校版）を作成した。この結果をもとに令和7（2025）年度からは、養成校の教職員と実習施設の職員がともに講習を受ける形にした。1回目は、保育所の職員の参加が多く、養成校と実習施設とが「実習」についてともに学ぶ機会ができたところである。

認定講習とはいうものの、大切にしているのはグループによる討議である。ここでは様々な養成校や実習施設が抱える課題が語られる。実習生が主体的に実習に参加し、養成校と実習施設とが学び合える連携・協働の構築のために具体的な方法を模索していきたい。

(3) “引き算（逆算的）思考”の養成から“足し算（加算的）思考”の養成へ

岡 健

矢野智司（1995）が随分と前に『子どもという思想』において、近代学校という装置や発達（課題）という概念が産業革命以降の効率化という価値観に大きな影響を受けていることを示唆した。また、小川博久（1991）は、「保育援助論序説—保育において「指導」とは何か—」¹⁾において「援助」という営みを、教授学的思考としての「いかにかわるべきか」と対比し、それを「いかにかわりうるか」と指摘して既に35年の月日が流れている。

現行の保育者養成校における養成課程は、日本保育者養成教育学会と保育教諭養成課程研究会によって示された「幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を併設する際の担当者及びシラバス作成について」²⁾（2018）が端的に物語るように、再課程認定という作業を経ることで、「教えるべき」内容や、時に「模擬授業」の半ば義務化も加えれば「教え方」も含め、標準化が図られているとあってよいだろう。そしてそれらは当然、基本的な思考方法として、「何を」「どう」教えるのか、といった、いわば“引き算（逆算的）思考”の養成に依拠することになる。（例えば、昨年度の本シンポジウムで指摘した、現場で使用することのない指導案指導、等はその典型である）

本委員会シンポジウム報告において記した通り、伊藤亜紗（2022）が指摘する「技能獲得のパラドックス」問題や、井上英之（2019）が「インパクト・アプローチ」において指摘した「『私』と『仕事』と『世の中』の関係」に基づいて、学生諸氏の「仕事」（保育職）への道筋を私たち養成校はどう考えるか、という問題については、それがゆえに改めてクローズアップされる必要があると思っている。本シンポジウムではそれを“足し算（加算的）思考”の養成へ、と一旦は捉えて臨みたいと考えている。そして、この視点から安平町の取り組みと保養協の取り組みをつなぐ（相対化する）議論をみなさんと展開できればと思う。

注1）本稿の初出は『保育研究』12（2）。その後連載された論文に基づき『保育援助論』が2000年に上梓されている

注2）https://www.hoyokyo.or.jp/http://www.hoyokyo.or.jp/nursing_hyk/reference/index.html/material1.pdf
最終閲覧日 2026/2/23

「エビデンスに基づく幼児教育・保育政策」を問う

－多様化する実践と価値のはざまで－

企 画：	第79回大会実行委員会
話題提供：	深町 穰 (赤城育心こども園) 深井 太洋 (学習院大学) 川田 学 (北海道大学) 西田 季里 (東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター) 天井 響子 (東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター)
指定討論：	村上 祐介 (東京大学) 横田 愛 (こども家庭庁)
司 会：	浜名 真以 (東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター)
趣旨説明：	野澤 祥子 (東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター)

1 企画趣旨

OECD（経済協力開発機構）をはじめとする国際的な幼児教育・保育の質向上への要請に加え、国内でも客観的根拠（エビデンス）に基づく実践と政策形成が不可避の課題となっている。その一方で、エビデンスが重視されるあまり、多様化する子どもたちの実態や、数値化しにくい保育の価値との間に乖離が生じていないだろうか。社会的な価値基準が流動的で、エビデンスを捉える視座そのものも多様化し、真に子どもの成長発達に資する教育・保育および政策形成の難しさが増している今、エビデンスベースの保育や政策立案について問い直す意義は大きい。

本シンポジウムでは、幼児教育・保育の実践者、エビデンスのあり方を理論的に問う研究者、そして実証的なエビデンス創出を目指す調査研究者といった多様な当事者が登壇し、それぞれの立場から「エビデンスに基づく幼児教育・保育政策」に対する期待と疑問を投げかける。そこから浮かび上がる論点について、教育政策の専門家および行政官を交えて多角的に討議し、これからの時代におけるエビデンスと実践・政策を有機的に接続するための課題と展望を共有することを目指す。

2 話題提供

（1）保育形態の変化による保育の質の向上

深町 穰

今年度より3歳以上児の自由保育の形態をアップグレードし、フリーアドレス保育（自称）に取り組んでいる。もともと、3、4、5歳の各クラスずつの子どもたちがそれぞれの保育室を行き来する中で、自分の関心がある取り組みに没頭し「遊びこむ」姿を大切にしてきた。そして、今年度は、思い切って年齢ごとの保育室を廃止した。異年齢の子どもたちを決まったグループに固定して保育することもない。

その中で、子どもたちは、自分で選び、決定し、自分を表現し、他児と折り合いをつけ、協働しながら日々の生活を送っている。保育研究者の中には興味を示す方がいる。子どもの変化を肯定的に捉える保護者もいる。しかし、設定（保育）ではない自由を、放任や無秩序であることと区別し、その意義を伝えることは難しい。同様の保育形態をとる園に対しては小学校教諭から批判的な目を向けられることが多いとも聞く。

子どもにとって必要な育ち（それが何であるかに関しても強いエビデンスに基づいた定義が欲しい）と保育形態の違いによるそこへの到達度の変化について、充実したエビデンスが得られることに期待している。いまだに幼児期における狭義の教科教育に執着しがちな保護者や一部の幼児教育・保育関係者の固定概念に一石を投じるとともに、自園においては、子どもたちの生き生きとした姿を見ることができ子ども主体の保育を自信をもって展開したいものである。

エビデンスに基づく政策形成や実践の改善について議論する上で、その土台となる客観的データの存在は不可欠である。英米を中心とした海外では、子どもの生涯にわたる心理社会的適応や幸福の基盤となる資質能力を形成する上で、幼児教育・保育が重要な役割を果たすことが実証的に明らかになっている。一方、日本ではそうした縦断研究が少なく、幼児教育の政策形成や実践向上のエビデンスとなりうるデータに乏しいという現状がある。

東京大学発達保育実践政策学センター（CEDEP）では、文部科学省から委託を受けて、2024年度から「幼児教育に関する大規模縦断調査」を実施している。この調査の目的は、幼児教育・保育の質の保障と向上に関する政策形成に資するエビデンスの創出である。そのため、調査の設計段階においては、データの代表性・多様性の担保や、幼児教育・保育の質の影響力を統計的に示すためのデータ構造の構築、および、そうした統計的分析を前提とした質問紙項目の作成等について検討を重ねてきた。本話題提供では、これらの調査プロセスを紹介する。エビデンス創出の葛藤や課題を共有することで、これからのエビデンスのあり方や創出されたエビデンスの活用について議論を深めるきっかけとしたい。

(3) 保育研究における経済学からの視点

保育や幼児教育は、子どもの発達だけでなく、家族の生活や労働市場、社会制度とも深く結びついている。経済学では、こうした複雑な現象を経済理論の枠組みで整理し、制度や政策が家庭や施設の行動を通じてどのような帰結をもたらすのかを分析してきた。また近年は、自然実験や政策変更を用いた因果推論を用いた実証研究が進み、保育の利用や拡充が子どもの発達や親の就業に与える影響について多くのエビデンスが蓄積されている。本報告では、こうした経済学の研究の流れを概観し、保育政策の効果が家庭環境や保育の質、制度設計によって大きく異なることなど、これまでに得られてきた知見を紹介する。

一方で、保育の実践の中で具体的に何が重要なのか、子どもがどのような経験を通じて発達していくのかといった点については、経済学だけでは十分に捉えることが難しい。保育の質や子どもの経験の実態をより解像度高く理解するためには、保育学や心理学など隣接分野の知見が不可欠である。本報告では、こうした分野間の視点の違いを踏まえながら、保育研究における経済学の役割について整理し、保育実践に必要なリソースや環境をどのように社会の制度として実現していくのかという観点から議論する。

(4) アウトカムとしての発達をどう乗り越えるか

心理学史家の村田孝次が『発達心理学史』（培風館 1992）で述べたように、発達心理学はアカデミアの円環内で自己充足・自己刺激的に展開したというよりも、社会的な要請に応じて子どもの処遇をどうするかという実務的課題に応答することで成長してきたといえる。ピアジェ理論を日本に紹介した波多野完治も、『児童心理学の進歩』の創刊号（1962）で同じことを指摘している。その意味では、エビデンス論は発達研究にすぐれて刻印されたレゾナントルであろう。近年、それは“発達アウトカム”という概念となって、我々の思考を方向づけている。拙著『保育的発達論のはじまり』（ひとなる書房 2019）や『保育学研究』掲載の拙稿（2025）において、発達と社会（ないし保育実践）との関係史には、いくつかの節があるとの試論を展開した。そこで第二の状況と呼んだ 1970 年代前半までの時代は、発達概念が保育運動等と結びつき、民衆の権利実現の武器となっていた。しかし、以後の第三の状況において発達を抑圧の概念とする対抗言説も広がり、発達段階論のような“ハードな”発達観に疑問が呈され、徐々に発達の理論運動が弱くなった。1990 年代半ば以降の第四の状況では、発達の理論的な論争が下火となる中、教育経済学や人的投資論を背景とする発達アウトカム論が台頭するに至っている。COVID-19 を経た現在、我々がどのような第五の状況を望むのか、本シンポでの議論を通して考えを深めていきたい。

テクノロジーと保育の対話：その可能性と課題

企画：	第79回大会実行委員
話題提供：	山崎 俊彦（東京大学） 徳野 慎一（神奈川県立保健福祉大学） 宇梶 達也（荒尾第一幼稚園） 刀坂 弘毅（乙房こども園）
まとめ：	小玉 重夫（白梅学園大学）
司会・趣旨説明：	宮田まり子（白梅学園大学）

1 企画趣旨

近年テクノロジーが急速に発展し、さまざまな実践領域にその応用が広がっている。保育の現場においても、記録や振り返りの支援、子どもの発達や健康状態の早期把握など、その可能性は決して小さくない。一方で保育は本来、子どもと保育者との関係性や、身体的・感覚的なやりとりを基盤とする営みでもある。テクノロジーの導入が、保育者のまなざしを支えるものとなるのか、それとも置き換えてしまうのか。数値化や可視化が、子ども理解を豊かにするのか、それとも画一的にしてしまうのか。保育の質を高める可能性と同時に、現場には戸惑いや葛藤、不安の声もある。

本シンポジウムでは画像解析・機械学習、音声バイオマーカー研究の専門家による話題提供を起点に、実際にICTを導入している園の実践的視点、そして自然体験を重視する立場からの批評的視点を交えながら、保育実践におけるテクノロジー活用の可能性と課題を多角的に検討する。「保育にとってテクノロジーとは何か」「何を守り、何を更新していくのか」をともに考える場としたい。

2 話題提供

(1) 保育におけるAIの可能性

山崎 俊彦

近年、映像解析、機械学習、大規模言語モデルなどの技術の発展により、保育環境における子どもの行動や相互作用を多面的に捉える試みが進みつつある。例えば、保育室の映像を解析することで、子どもの遊びや活動のパターン、友だち同士の関わり方、空間の使われ方などを客観的に把握することが可能になり、これまで個々の保育者の経験や記憶に依存していた出来事を、共有可能な形で振り返りや分析ができるようになる[渡辺, IEICE 総合大会 25]。また、音声や身体動作などのデータを分析することで、子どもの発達や健康状態の変化、保育環境の特徴を早期に捉えることも期待されている。さらには、AIをうまく活用することで、学力が向上する可能性も示唆されている[Hiraishi, AIxHEArt25]。こうした一連の技術は、記録や評価を効率化するだけでなく、保育者同士の対話や学びを支える新たな基盤となり得る。

一方で、保育の本質は、子どもと保育者との関係性や、その場の空気、身体的・感覚的なやりとりの中にある。テクノロジーが示すデータや指標はあくまで一つの視点にすぎず、それだけで子どもの姿を理解できるわけではない。重要なのは、データを手がかりとして保育者自身の気づきや解釈を深めることであり、AIはそのための補助的な道具・役割として機能することが望ましい。今後は、保育現場の実践知とAI研究の知見を往還させながら、子どもの主体性や身体性を尊重した形で技術を位置づけていくことが求められる。AIは保育を自動化するための魔法の杖ではなく、保育者や保護者のまなざしを拡張し、子ども理解をより豊かなものにするための新たな支援基盤として発展していくと期待される。

(2) 保育現場における音声バイオマーカー利用の可能性

徳野 慎一

スマートフォンやウェアラブルデバイスなどの電子端末から得られる生体情報を用いて、疾病の有無や程度を判定するものをデジタルバイオマーカーと呼ぶが、音声バイオマーカーもデジタルバイオマーカーの一

種といえる。音声は非侵襲で特殊な機器や薬品を必要としないためローコストで収集が可能であり、加えて遠隔での利用が可能であるため、日常生活（ヘルスケア）と医療を結ぶ技術として期待出来る。

我々はこれまでにストレス、うつ病、心的外傷後ストレス障害、双極性障害、パーキンソン病、認知症（軽度認知障害を含む）など、様々な疾患に対する音声バイオマーカーの研究を行ってきたが、その中で医療以外での活用として教育現場での活用についても模索してきた。

その中で、音声から学生のグループ内の同調や協調の把握、もしくはそこから外れた個人（いじめの兆候）の発見、児童の家庭内でのトラブルの発見、教師のストレスの可視化、教育介入の効果の判定、あるいは自閉症スペクトラムの早期発見などに利用が可能であることが示唆された。

教育や保育においては、児童や園児の心身の状況把握は教師や保育士などの主観的な判断にゆだねられてきたが、音声バイオマーカーのような客観的な指標を加えることで、その判断により確実性をもたらし、時には拾いきれなかった異常の発見につなげることが可能になるかもしれない。また、親にとっても家庭外での子供の心身の状態を客観的な数値を添えて伝えることができれば、学校や園への安心度や信頼度が増すと考えられる。

（3）保育における実践知の継承とひらめきを促す助言型生成 AI の試み

宇梶 達也

本園では、長年保育実践等をテキストデータとして蓄積してきた。これを、AI を通じて若手職員への継承や日々の省察に活かせないかと考え、独自の助言型生成 AI の構築を試みている。それは保育者不足や、実践知をいかに次世代へ継承し、園全体の保育の質を継続させていくかの解決策と考えている。現在の主な活用方法は、ミーティングをリアルタイムで文字起こしし、AI に読み込ませて得られた助言を、全職員で検討するスタイルである。

実際に運用を始めると、経験の浅い保育者にとっては AI の提示する事例が「参考」として機能したが、熟達した保育者にとっては「既知の事柄の再確認」に留まり、物足りなさが残る結果となった。園長の視点からは、AI が出した「答え」をそのままぞるだけの保育が、保育者自身の試行錯誤や「育ち」を阻害してしまわないかという懸念が生じている。この課題に対し、現在は解決策を教えるのではなく、保育者の盲点を突き、思考を揺さぶるような「問い」を生成するカスタム指示を作成している。例えばロボットの腕を固定する「ガムテープが剥がれる」という事象が続く、子どもたちが挫折しそうな時、同僚への相談で「子どもは他の接合方法を知っているか？」と問いかけから、次の展開が生まれたことがある。同僚同士の対話から生まれる気づきを再現しようとする試みである。AI の文章は整然としており論理的な納得感は高い。しかし、それが保育者の実践を突き動かす「ひらめき」に繋がるには、まだ距離があると感じる。今後は、保育事例だけでなく、保育者同士の相談や「語り合い」のプロセスを読み込ませ、AI との対話が保育者にとって「面白い」ものになるようにしていきたい。

3 テクノロジーと保育の関係性

刀坂 弘毅

近年のテクノロジーの進展は、保育の現場にも確実に変化をもたらしている。AI を活用した記録の効率化や ICT 化による業務面の省力化などにおいてはその存在は不可欠なものとなりつつあり、保育者の負担軽減や実践の質向上に役立っている。しかし、保育現場における“子どもの育ち”という観点に立てば、実体験に勝るものはない。触れる、感じる、試すといった経験を通じて、繰り返し試行錯誤することや、仲間とともに達成感を得ること等、体験から得られるものこそが乳幼児期の発達の土台だと言える。

人の発達は、人類の進化の過程と重なる側面があるとも言われており、テクノロジーに触れるより先に、乳幼児期はよりリアリティを伴う体験を必要とする時期であると考えている。その時期においては、自然や他者との直接的な関わりが不可欠で、メディア等を通じて得る知識より実物を見ることでしか得られない感覚の方が大切であり、テクノロジーがその代替となることは難しいのではないかと考える。また、保育とは人と人との関係性の中で営まれるものである。データや可視化は一定の指標にはなるが、最も重要なのは目の前の子どもの姿である。カーナビの普及によって地図を読む力が弱まった可能性が指摘されているように、テクノロジーへの過度な依存は、子どもの機微を感じ取る力を弱める危険性もある。

だからこそ、私たちはテクノロジーを主体的に使いこなす姿勢が求められる。保育には時代に応じて更新すべき部分と、決して変えてはならない本質があると考えている。その両者を見極めながら、あくまで目の前の子どもと向き合うことを軸に、テクノロジーとは適切な距離感を保つことが重要であると考えている。

実践に寄与するための問いと方法 2

－「実践者」から「研究者」へ、そして「研究者」から「実践者」へ－

企画:	編集常任委員会
話題提供:	松本 信吾 (岐阜聖徳大学) 田中 幸 (千葉大学教育学部附属幼稚園) 奥谷 佳子 (山梨県立大学)
指定討論:	河邊 貴子 (聖心女子大学)
司会・趣旨説明:	七木田 敦 (広島文化学園大学・編集常任委員会) 上田 敏丈 (名古屋市立大学・編集常任委員会)

1 企画趣旨

昨年の編集常任委員会企画のシンポジウムでは「実践に寄与するための問いと方法」というテーマの下に、実践に寄与するための成果の公表についてさまざまな立場の研究者から提言を行った。これを受けて今回のシンポジウムでは「実践と研究」という視点をさらに深化させ次のような内容でシンポジウムを企画した。日本保育学会員の特長として、「実践者と研究者」両方の立場を経験した(している)会員が少なくない。保育の「実践者」が「研究者」になることによって見えてきたもの、あるいは「研究者」から保育の「実践者」になることを通して捉えなおされること、は「実践と研究」を考える上でより深い対話と理解を促せるのではないかと。以上の観点から、「実践者」から「研究者」への経験を持つ方、また「研究者」から「実践者」へとといった経験を持つ方にご登壇頂き、それぞれの立場から「実践と研究」について話題提供をして頂く。それを受けて指定討論者が「実践に寄与するための問いと方法」という視点から総括を行う。

2 話題提供

(1) 「研究の問い」を生み出す難しさ

松本 信吾

筆者は20年以上、担任保育者として実践に携わってきた。その後、養成校教員となり、研究に取り組もうと保育現場を訪問するようになったのだが、そこで「研究の問い」が生まれにくいという葛藤を味わっている。それは主に次のようなものである。

- ①「ワシならこうする」葛藤：保育を見ている実践者としての自分が抜けず、「自分ならこうする」という保育観や保育の在り方に関心が向いてしまう。
- ②「捉えたい対象が全体過ぎる」葛藤：保育を捉える際、ある部分や特定の行動だけを切り取りたくはない(実践者の時、子どもの姿を切り取って利用するような研究者の態度が許せなかった)ために、結局何を見て、何を記録すればよいか分からなくなる。
- ③「背景が分かると何も言えねえ」葛藤：保育に対して思うことはあっても、そこで起こっている事象には背景があり、その経緯を感じると「そうだよなあ」と共感し何も言えなくなってしまう。

このような葛藤を抱えつつも、3年間、ほぼ週に1度のペースで特定の園に通い続けたところ、ある時、今までにもあったであろう日常的な子どもたちの話し合いの場面が、急にものすごいものを感じられ、圧倒される経験をした。そこには保育者や園へのリスペクトも伴っており、その時初めて「このような姿がどうやって生まれてきたのかを明らかにしたい」という問いが立ち上がってきたのである。それは、以前の自らの実践が消化された後に、目の前の実践に応答する形で立ち現れたと言えるかもしれない。

筆者はまだ研究者とは言えず、日々路頭に迷っているのが現状である。当日は、実践者から研究者になることに伴う葛藤や、そこから「研究の問い」が立ち上がっていく過程を、自身の経験を通して話してみたい。

(2) 実践と研究がまじわるところ

田中 幸

振り返ってみると小さな不安や悩みが、自分の研究テーマを決めてきた。卒論のテーマは「障害をもつ子どもとたない子の相互作用に教師が与える影響」についてであった。この先出会うであろう多様な子どもとどう関わっていくべきか知りたかった。幼稚園教諭として数年間勤務し、担任として本質に迫れていないと感じる子どもの存在があるということに悩み、大学院に進学した。修士論文では教師の子どもを捉える認知的枠組みについて検討し、「教師が意識しにくい子ども」の存在について考えた。

その後勤務した保育者養成校で免許状更新講習や特例講座を担当する機会があり、経験豊富な保育者の方々の「学んで面白い」「これまでの保育を見直したい」との感想に励まされ、研究を通してその知見を実践現場に還元できるようになりたいと思った。その時の縁で研修に呼ばれるうちに、講師としてではなく同じ実践者として悩んだり励まし合ったりしたいと考え、再度幼稚園教諭となった。

10年目の勤務となる現在の園は、国立大学附属幼稚園としての使命と役割を踏まえ、実践と研究を往還させている。この数年は「対話」を切り口に教育課程や指導計画、保育実践、評価、環境等について検討してきたが、今でも研究の出発点には困り感のようなものがあることが多い。その困り感は本園だけのものでもなさそうだと感じるので、私達は他園の先生方と一緒に（なったつもりで）研究に取り組んでいる。その成果をもとに多くの先生方と語り合い、考えを交流させ、新たな問いが生まれて新たな探求が始まる、園がそんな場になったらいいなと考える。本会では、勤務園での実践と研究に触れながら、実践と研究のまじわるところとその境界について考えたい。

(3) 保育の実践と研究のあいだで

奥谷 佳子

私は大学の幼稚園教員養成課程を卒業後、公立幼稚園の保育者として勤務してきた。保育者として経験を重ねる中で、保育の質の向上をめぐる議論に触れ、日々の実践を研究の視点から捉え直す必要性を意識するようになった。一方で、園内研究に取り組む過程では、実践を振り返ることと、それを研究として問い直すこととのあいだに難しさを感じるようになった。すなわち、保育の実践者として研究の視点をもつことの難しさに直面したのである。

こうした課題意識から大学院修士課程に進学し、修士論文では「幼児の遊びや活動を支える保育者の言語的援助とは何か」という問いを設定した。研究方法としては、保育の観察に加えて保育者へのインタビューを行った。インタビューという方法を選択したのは、保育実践の当事者である保育者の理解や納得に支えられた知見、すなわち当事者性をもった知見を得たいと考えたからである。観察による記述にとどまらず、保育者の語りを通して実践を捉え直すことによって、研究者による一方的な解釈を相対化し、実践に開かれた研究が可能になるのではないかと考えた。

修士課程修了後、2019年より大学教員として勤務し、修士論文を再構成して『保育学研究』に論文を投稿してきた。現在は研究者として（研究者となれるよう）、実践者の視点を踏まえた研究の在り方を模索している。本話題提供では、『保育学研究』第62巻第2号に掲載された拙稿に触れながら、保育の「実践者」が「研究者」になる過程で見えてきた実践と研究の関係を手がかりに、実践に寄与するための問いと方法について考えてみたい。

4. 自主シンポジウム

自主シンポジウム A

5月16日(土) 12:30～14:00

J-A-1 乳幼児期における探究実践 ー福生市のプロジェクトを事例としてー

第3会場

企画・司会・話題提供	松尾杏菜	お茶の水女子大学大学院
話題提供	清重めい	東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター
	藤谷未央	お茶の水女子大学大学院
	森永純子	お茶の水女子大学大学院

J-A-2 津守保育学の現代的意義を考える(その1)ー津守眞生誕100年にあたってー

第5会場

企画・司会	西隆太郎	お茶の水女子大学
話題提供	太田茂行	元 愛育学園
	豊田一秀	元 玉川大学
	向野光	川村学園女子大学
指定討論	佐治由美子	愛育学園
	戸田雅美	東京家政大学・日本保育学会会長

J-A-3 スウェーデンの就学前学校における子どもとデジタル： 2025年カリキュラム改訂から得られる示唆

第7会場

企画・司会・話題提供	矢崎桂一郎	国立教育政策研究所
話題提供	岡南愛梨	埼玉学園大学
	杉山和	愛知淑徳大学
指定討論	白石淑江	愛知淑徳大学

J-A-4 子どもの権利から保育士配置基準を考える② ーインクルーシブ保育の現状と課題からー

第9会場

話題提供	石濱丈司	社会福祉法人天白福祉会
司会	平松知子	社会福祉法人熱田福祉会
話題提供	鹿嶋桃子	名寄市立大学
指定討論	木下考司	神戸大学大学院

J-A-5 学齡期前半までのデジタルリテラシー育成

第 11 会場

企画・司会・指定討論	堀 田 博 史	園田学園大学
話 題 提 供	中 村 恵	畿央大学
	松 山 由美子	大阪総合保育大学
	佐 藤 朝 美	愛知淑徳大学
	勝 見 慶 子	認定こども園エンゼル幼稚園

J-A-6 こどもをまんなかにして遊びのリスクを考える —保育実践経験者と若手研究者の立場から—

第 13 会場

企画・司会・話題提供	根 橋 杏 美	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科(博士課程)
話 題 提 供	板 東 愛理香	大妻女子大学大学院 博士後期課程
	野 中 奏	大阪総合保育大学大学院 博士後期課程
指 定 討 論	辻 谷 真知子	お茶の水女子大学

J-A-7 かさねのコミュニケーションと詩的な現実

第 15 会場

企画・司会・話題提供	横 山 草 介	東京都市大学
話 題 提 供	久 保 健 太	大妻女子大学
	水 津 幸 恵	三重大学
指 定 討 論	やまだ ようこ	立命館大学 OIC 総合研究機構

J-A-8 保育現場における巡回相談の現在地 —改めてインクルーシブな保育と向き合う—

第 16 会場

企 画 ・ 司 会	滝 口 圭 子	金沢大学
企 画 ・ 話 題 提 供	松 井 剛 太	香川大学
話 題 提 供	宮 下 祐 子	金沢市幼児教育センター
	今 西 幸 代	ワンダーフレンズ彦三

自主シンポジウム B

5月16日(土) 14:40～16:10

J-B-1 保育における「楽器遊び」と「発表会」はつながりうるのか

第3会場

企画・話題提供	伊原小百合	玉川大学
指 定 討 論	今川恭子	聖心女子大学
話 題 提 供	丸山 慎	駒沢女子大学
	長井 覚子	聖心女子大学
	丸山 和彦	浦和ひなどり保育園

J-B-2 園内研修による学習共同体の形成 —保育者の生涯キャリアと継続専門教育の視点から—

第5会場

企画・司会	犬塚典子	田園調布学園大学
企画・概要説明	渡辺令子	帝京科学大学
指 定 討 論	松尾寛子	サイバー大学
話 題 提 供	岩田千晶	まあむキッズ相模大野南口
	芝山裕子	まあむキッズ大野なごみ本園
	猪原貴子	まあむベイビーズ相模大野
	坂井克行	まあむグループ

J-B-3 実践に基づく保育者のソーシャルワーク視点

第7会場

企画・司会	鶴田智子	比治山大学短期大学部
話 題 提 供	灰谷和代	静岡福祉大学
	早坂聡子	札幌大谷大学短期大学部
	阿部明恵	本楯保育園
	中村正彦	札幌市東部児童相談所

J-B-4 保育デザインに関する施設長の組織マネジメントの特質

第9会場

企画・司会・話題提供	田中 謙	日本大学
指 定 討 論	池田幸代	道灌山学園保育福祉専門学校
話 題 提 供	山田裕宇記	社会福祉法人にじの会小金西グレースこども園
	高根沢 康 浩	社会福祉法人徳育会東立石保育園

**J-B-5 保育者研修において求められる効果に関する考察と展望
－発達支援・保育ソーシャルワーク・コミュニケーション支援の視点から－**

第 11 会場

企画・司会・話題提供	伊藤 貴大	目白大学
話題提供	青木 隆男	目白大学
	白取 真実	目白大学
指定討論	高橋 弥生	NPO 法人 子ども研究所

**J-B-6 ペダゴジカル・ドキュメンテーションがもたらすコミュニティの深まり
－ひらかれたアトリエに着目して－**

第 13 会場

企画・司会・話題提供	植村 朋弘	多摩美術大学
話題提供	郡司 明子	群馬大学
	藤田 寿伸	東京成徳大学
	宮坂 理央	赤碕こども園
指定討論	木原 圭	創作の杜 おいけあした保育園

J-B-7 保育者と考えたい感性的で経験的な食育

第 14 会場

企画・司会	井上 知香	静岡大学
話題提供	染井 順一郎	一般社団法人味の教室協会
	河口 八重子	一般社団法人味の教室協会
	吉田 隆子	NPO 法人こどもの森
	木村 治郎	社会福祉法人京都社会福祉協会 吉田山保育園

J-B-8 認定こども園における 2－3 歳接続期の課題Ⅲ

第 15 会場

企画・司会	大方 美香	大阪総合保育大学
話題提供	神長 美津子	大阪総合保育大学
	中田 範子	東京家政学院大学
	石丸 るみ	大阪総合保育大学
指定討論	山下 文一	高知学園大学・高知学園短期大学部

J-B-9 **スロー・ペダゴジーから考える保育・教育
一子どもの時間と大人の時間の共鳴のかたち一**

第 16 会場

企 画 ・ 司 会	佐 川 早季子	京都教育大学
話 題 提 供	東 村 知 子	京都教育大学
	中 西 昌 子	京都市教育委員会
指 定 討 論	高 野 史 朗	京都教育大学附属幼稚園
	小 河 原 弘 文	京都市立下京雅小学校

自主シンポジウムC

5月16日(土) 16:30～18:00

J-C-1 保育における「共主体」を考える ー子ども・保育者・実習・マネジメント：それぞれの立場からー

第3会場

企画・司会	副島里美	長野短期大学
話題提供	池田美穂	常葉大学附属こは幼稚園
	伊澤こずえ	清水みらい保育園
	宮城恵子	AXIS にじいろ保育園
	市川ちさと	静岡市立辻こども園
指定討論	津金美智子	名古屋学芸大学

J-C-2 アリソン・クラークと語りつくすスロー・ペタゴジー：足元からの実践と共に

第5会場

企画・司会	宮田まり子	白梅学園大学
話題提供	アリソン クラーク	サウスーイースタン・ノルウェー大学
	森 眞理	神戸親和大学
	秋田喜代美	学習院大学
	宮本雄太	福井大学

J-C-3 子どもの主体的なあそび、学び、育ちを支える園庭・校庭・まちの環境について考える9 ～インクルーシブなまちづくりを目指した、子どもたちの環境や地域とのつながりを検討する～

第7会場

企画・進行	仙田考	田園調布学園大学大学院・国際校庭園庭連合日本支部
話題提供	渡辺英則	ゆうゆうのもり幼保園・港北幼稚園
	長岐裕美	うるの木
	瀬山さと子	カミヤト凸凹保育園
	尾上伸一	六浦小学校・横浜市立大学(研究員)
指定討論	久保山茂樹	国立特別支援教育総合研究所

**J-C-4 保育者養成教育における「探究」の現在
－大学生・保育者・アーティストでつくる養成課程の演習授業から－**

第9会場

企 画 ・ 司 会	若 林 陽 子	岩手県立大学
話 題 提 供	下 平 なをみ	岩手県立大学
	ひぐち けえこ	アーティスト
	森 田 恵	(福) プレイズザロード ハレルヤ保育園
指 定 討 論	高 橋 亜希子	南山大学

**J-C-5 小学生ボランティアがつなぐ"ナナメの関係"を考える
－保育園における集団共同型子育て再生プロジェクトからの報告－**

第11会場

司 会	廣 戸 健 悟	東京大学大学院教育学研究科
話 題 提 供	石 山 幸 恵	株式会社フレーベル館
	片 平 祐	フレーベル西が丘みらい園
司 会	山 口 舞	東京大学大学院教育学研究科
指 定 討 論	汐 見 和 恵	一般社団法人 家族・保育デザイン研究所

J-C-6 『保育を変える』を捉え直す －関係論的視点から見る保育の変革－

第13会場

企 画 ・ 司 会	田 中 健 介	綾南幼稚園
企 画	榎 本 真 美	清和大学短期大学部
指 定 討 論	加 藤 翼	洗足こども短期大学
企 画	金 子 有 紀	若木保育園
指 定 討 論	亀ヶ谷 元 譲	宮前幼稚園
話 題 提 供	榊 原 美 帆	板橋区立かないくぼ保育園
指 定 討 論	岩 田 恵 子	玉川大学
話 題 提 供	鈴 木 芽 衣	板橋区立かないくぼ保育園

J-C-7 汽水域としての保育のなかで描く子どもの発達

第14会場

企	画	本	岡	美保子	比治山大学
司	会	天	野	諭	立命館大学大学院
話	提	井	辺	和杜	広島文教大学
	供	石	川	徹	高崎健康福祉大学
		天	願	順優	広島大学大学院
		及	川	智博	文教大学
指	定	川	田	学	北海道大学
	討				
	論				

J-C-8 園で保育の「問い」を見つけるということ

第15会場

企	画	司	会	箕	輪	潤	子	武蔵野大学
話	題	提	供	淀	川	裕	美	千葉大学
				中	岡	雄	介	中京もえぎ幼稚園
				杉	本	圭	隆	むつみこども園
				中	村		瞳	芦花かたるば保育園

J-C-9 社会的養育を担う保育者の重要性と可能性を問う －里親チーム養育における保育者の役割を中心に－

第16会場

企	画	話	題	提	供	安	藤	みゆき	茨城女子短期大学
企	画	司	会	中	島	美那子			茨城キリスト教大学
話	題	提	供	助	川	夏菜			千葉女子専門学校
				細	川	梢			福島学院大学
				平	田	修三			仙台青葉学院短期大学
指	定	討	論	千	葉	千恵美			高崎健康福祉大学

自主シンポジウムD

5月17日(日) 9:30～11:00

J-D-1 保育の実践を発達心理学的観点からどう捉えられるか

第3会場

企 画 ・ 司 会	藤 澤 啓 子	慶應義塾大学
話 題 提 供	金 子 智 昭	鎌倉女子大学短期大学部
	榊 原 知 美	東京学芸大学
	田 中 浩 司	東京都立大学
指 定 討 論	野 口 隆 子	東京家政大学

J-D-2 韓国における最新の「幼保統合」に関する政策と実践の動向 — 一質の向上を追究する政策・養成機関・現場の取組み—

第5会場

企 画 ・ 話 題 提 供	金 珉 呈	精華女子短期大学
話 題 提 供	上 原 真 幸	熊本学園大学
司 会 ・ 話 題 提 供	勅 使 千 鶴	日本福祉大学

J-D-3 幼児教育の『職』の魅力発信と人材確保の取組

第7会場

企 画	画	佐々木 晃	鳴門教育大学
司 会	塩 路 晶 子	鳴門教育大学	
話 題 提 供	湯 地 宏 樹	鳴門教育大学	
	木 村 直 子	鳴門教育大学	
指 定 討 論	大 澤 洋 美	東京成徳短期大学	
	中 野 弘 子		

J-D-4 乳幼児の表現行為を手掛かりとした学びの構想を考える — 保育者養成の視点から—

第9会場

企 画 ・ 司 会	金 山 和 彦	東京家政大学
指 定 討 論	山 本 直 樹	長野県立大学
話 題 提 供	朝 元 尊	豊橋創造大学短期大学部
	尾 根 秀 樹	洗足こども短期大学
	川 合 沙 弥 香	東京家政大学

J-D-5 3歳未満児を担当する保育者は同僚保育者とどのように連携・協働しているのか

第11会場

企画・司会	永井久美子	帝塚山大学
話題提供	香曾我部 琢	宮城教育大学
	渡辺俊太郎	大阪総合保育大学
	水落洋志	兵庫教育大学
指定討論	矢藤誠慈郎	和洋女子大学

J-D-6 木育で育むところとからだ ー子ども・保育者・保護者は木とかかわることで何を感じるのかー

第13会場

企画・司会	善本眞弓	東京成徳大学
話題提供	北澤明子	日本女子体育大学
	城井光広	駿河台大学
	林秀紀	桜美林大学
指定討論	大谷忠	東京学芸大学大学院

J-D-7 「保育事故」をなくすために (10) ーなぜ保育中の重大事故は増え続けているのかー

第14会場

企画・話題提供	平沼博将	大阪電気通信大学
話題提供	藤井真希	赤ちゃんの急死を考える会
	岩狭匡志	保育の重大事故をなくすネットワーク
指定討論	石川幸枝	全国民間保育園経営研究懇話会
	服部敬子	京都府立大学

J-D-8 リゾーム型保育マネジメント論の構築 (2) ー子どもが暮らす時間ー

第15会場

企画・司会	内海緒香	お茶の水女子大学
話題提供	刑部育子	お茶の水女子大学
	山崎寛恵	東京学芸大学
	杉山沙旺美	聖隷クリストファー大学
	宮里暁美	お茶の水女子大学
指定討論	松崎亮	三股町コミュニティデザインラボ

J-D-9 「不適切保育」とは誰が決めるのか —専門性・政策・保護者の価値観—

第16会場

企	画	・	司	会	青	木	美智子	京都橘大学
話	題	提	供	長	橋	聡	京都橘大学	
指	定	討	論	森	枝	美	京都橘大学	
話	題	提	供	前	田	典子	京都橘大学	
				難	波	和子	京都橘学園 保育事業部	

5月17日(日) 11:40～13:10

J-E-1 地域の保育の質向上を支える持続可能な研修体制の構築に向けて(2)
—横浜市の「保育・教育質向上サポーター」事業における派遣園での「Yサポ」の役割と学び合い—

第3会場

企画・司会	三谷大紀	関東学院大学
企画・話題提供	高嶋景子	聖心女子大学
指定討論	大豆生田啓友	玉川大学
	無藤隆	白梅学園大学
話題提供	坂内紀巳子	横浜市みどり保育園

J-E-2 絵本でつながる“ヒト”“モノ”“コト”
—一人々の社会生活へ与えるさらなる絵本の可能性を探る—

第5会場

企画・司会・話題提供	仲本美央	白梅学園大学
話題提供	小屋美香	育英短期大学
	石島このみ	白梅学園大学
	油川さゆり	玉川大学
指定討論	奥村傳	NPO 法人絵本文化推進協会
話題提供	坂平真弓	NPO 法人絵本カーニバル

J-E-3 子どもの遊びと表現～史的変遷から保育者養成を考える

第7会場

企画・司会・話題提供	名須川知子	大阪総合保育大学
話題提供	今泉良一	有明教育芸術短期大学
	池田三鈴	東京成徳短期大学
	山田陽子	平安女学院大学
	原友美	元愛知みずほ大学
	才賀敬	

J-E-4 保育をめぐる教育学と人類学の対話 —デューイとインゴルドがひらく地平—

第9会場

企画・司会	久留島太郎	植草学園大学
話題提供	奥野克巳	立教大学
	山本一成	滋賀大学
指定討論	伊藤理絵	常葉大学

**J-E-5 保育カリキュラムが生成する倫理的価値（2）
－インクルーシブ実践と保幼小の接続から－**

第 11 会場

企 画 ・ 司 会	塩 崎 美 穂	東洋英和女学院大学
話 題 提 供	赤 木 和 重	神戸大学
	岡 花 祈一郎	聖心女学院大学
指 定 討 論	吉 川 和 幸	国立特別支援教育総合研究所
	加 藤 繁 美	
	大 宮 勇 雄	

J-E-6 対人関係等の苦手な保育学生が働きやすい環境

第 13 会場

企 画	服 部 伸 一	関西福祉大学
司 会	半 田 結	兵庫大学
話 題 提 供	廣 陽 子	関西福祉大学
	井 上 寿 美	大阪大谷大学
指 定 討 論	高 岸 益 子	フルーツバスケット保育園

**J-E-7 こどもの権利に基づく保育実践を考える
－乳幼児期におけるこどもの自己決定の保障－**

第 14 会場

企画・司会・指定討論	中 嶋 一 郎	千葉明德短期大学
話 題 提 供	矢 野 景 子	十文字学園女子大学
	小 幡 裕美恵	幼保認定型こども園むくどりこども園
	佐 藤 聡 子	幼保認定型こども園たいようこども園
	稲 葉 いぶき	幼保認定型こども園たいようこども園
	栗 栖 朱 里	幼保認定型こども園たいようこども園

**J-E-8 学び合う記録としてのラーニングストーリー
－ 実習生と実習指導者の視点から**

第 15 会場

企 画 ・ 話 題 提 供	森 山 雅 子	桜花学園大学
司 会 ・ 話 題 提 供	谷 島 直 樹	九州大谷短期大学
話 題 提 供	三 好 伸 子	金沢星稜大学

J-E-9 幼児教育を支える園マネジメントの創造
—園長が紡ぐ「園文化」とこれからの幼児教育の可能性—

第 16 会場

企 画 ・ 司 会	河 村 信 子	九州女子短期大学
指 定 討 論	内 山 伊知郎	同志社大学
	岡 村 歩 果	同志社大学
話 題 提 供	青 山 優 子	九州女子大学附属鞍手幼稚園
	高 良 美 香	九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園
	松 木 栄 子	九州女子大学附属折尾幼稚園

自主シンポジウムF

5月17日(日) 13:35～15:05

J-F-1 保育施設における子どものICT活用のこれまで・今・これから 研究者×ICT教材開発者による視点から

第3会場

企	画	田	島	美	帆	広島大学大学院教育学研究科
話	題	大	道	香	織	広島大学大学院人間社会科学研究科
	提	李	睿	苗		広島大学大学院人間社会科学研究科
司		渡	邊	真	帆	福山市立大学
話	題	大	澤	香	織	株式会社スマートエデュケーション
	提	宮	島	衣	瑛	広島大学大学院人間社会科学研究科
	供					
	会					

J-F-2 子ども主体の保育と安全④ ―安心と挑戦の循環について考える―

第5会場

企	画	猪	熊	弘	子	駒沢女子短期大学
話	題	中	村	章	啓	社会福祉法人柿ノ木会
	提	司	馬	政	一	学校法人清明学園
	供	瀬	沼	幹	太	社会福祉法人はとの会

J-F-3 インクルーシブ保育実践例 ～リレー競技における能力差に着目して～

第7会場

企	画	尾	埜	健	二	(社)路交館 聖愛園、日本共生社会推進協会
指	定	小	山	望		おやま心理相談室、日本共生社会推進協会
	討	末	次	有	加	帝塚山学院大学
	論	加	藤	和	成	(学)希望学園 葛飾こどもの園幼稚園、日本共生社会推進協会
企	画	鶴	卷	直	子	(学)希望学園 葛飾こどもの園幼稚園
話	題					
	提					
	供					

J-F-4 多文化保育における保育者の「困り感」改善モデル構築：人材育成・方法・ネットワーク ～研究成果と今後の課題～

第9会場

企	画	林	悠	子	神戸松蔭大学	
指	定	石	井	章	仁	大妻女子大学
	討	韓	在	熙		四天王寺大学短期大学部
	論	松	山	有	美	日本福祉大学
話	題	三	井	真	紀	九州ルーテル学院大学
	提					
	供					

J-F-5 キリスト教保育とは何かを考える

第 11 会場

企 画・話 題 提 供	渡 邊 哲 也	新島学園短期大学
指 定 討 論	東 義 也	尚綱学院大学
話 題 提 供	熊 田 凡 子	関東学院大学
指 定 討 論	海 野 展 由	フィッシャー幼稚園
司 会	佐 藤 浩 代	東洋英和女学院大学

J-F-6 一時預かりにおけるレスパイト機能の現状と課題

第 13 会場

企 画・司 会	金 山 美和子	長野県立大学
話 題 提 供	鈴 木 光 海	東北大学
	金 山 英莉花	同志社大学
指 定 討 論	中 坪 史 典	広島大学
	佐 柳 信 男	山梨英和大学

J-F-7 保育者養成校と保育現場が相互理解するための手立てを探る －互いのズレを分かち合う場を求めて－

第 14 会場

企 画・司 会	高 村 真 希	金沢学院短期大学
話 題 提 供	大 塚 紫 乃	江戸川大学
	浅 香 総 彦	大徳学園
	新 保 雄 希	泉の台幼稚園
	境 佑 二	こども園わかば

J-F-8 子ども主体の遊びを通じた探究 －国際バカロレアの教育実践における幼児の姿－

第 15 会場

企 画・司 会	園 田 あすか	あっぷる池上保育園
指 定 討 論	本 多 舞	こども教育宝仙大学
話 題 提 供	田 村 優 子	山梨学院幼稚園
	横 地 菜 緒	長野日本大学幼稚園
	小 林 千 紘	長野日本大学幼稚園
	藤 沼 美 羽	長野日本大学幼稚園

**J-F-9 多様性を尊重し一人ひとりが輝く保育を目指して（2）
－安心して自己発揮し、共に育ち合うための保育者の役割－**

第 16 会場

企 画 ・ 司 会	谷 戸 諒 太	国立特別支援教育総合研究所
話 題 提 供	松 井 泰 子	札幌市立中央幼稚園
指 定 討 論	勝 浦 眞 仁	同志社女子大学
話 題 提 供	林 田 眞 理	高梁市立福地幼稚園

自主シンポジウム G

5月17日(日) 15:30～17:00

J-G-1 保育のアッセンブリッジ：絡み合う世界における生と学び

第3会場

企画・話題提供	浅井 幸子	東京大学
話題提供	小玉 亮子	お茶の水女子大学
司会・話題提供	梶 瑞希子	聖徳大学
話題提供	中村 絵里	千葉大学
指定討論	Dahlberg Gunilla	Stockholm University
	Elfström Ingela	Stockholm University
	Halvars Bodil	Stockholm University
	Pacini-Ketchabaw Veronica	Western University
	Smith Teresa	BC Early Childhood Pedagogy Network
	Nelson Narda	the University of Victoria Child Care

J-G-2 保育・子育て家庭支援専門職の人材育成と組織マネジメント（その2） —スーパービジョンシステムの導入に関する検討—

第5会場

司会	渡邊 瑞穂	昭和女子大学
企画・趣旨説明	高橋 学	昭和女子大学大学院
話題提供	松崎 恭子	世田谷聖母幼稚園
指定討論	竹澤 宏美	学校法人愛国学園 愛国学園保育専門学校
話題提供	丸井 卓	横浜市
指定討論	中田 淳子	昭和女子大学大学院研究生
	道下 亜子	横浜市
	成田 寛一郎	社会福祉法人奉優会
	瀧川 直樹	狛江市教育委員会
	三浦 悦子	株式会社コーデリアぽっけナーサリールーム

J-G-3 日本におけるおもちゃの歴史と保育への活用—発達を促すおもちゃの役割—

第7会場

企画趣旨・話題提供	田中 浩之	神村学園専修学校
話題提供	泊 明希佳	神村学園専修学校
司会・話題提供	田中 卓也	育英大学
話題提供	田中 路	東京純心大学
	市野 繁子	駒沢女子短期大学
	岡部 祐子	徳島文理大学短期大学部
	浅見 優哉	帝京平成大学
	長谷川 葵月	アイン武蔵小杉北保育園
	金城 久美子	聖徳大学

J-G-4 海外の保育・幼児教育の視点から再検討する Toban (当番)
一園生活は誰がつくるのか

第9会場

企画・話題提供	加藤 望	名古屋学芸大学
話題提供	内田 千春	東洋大学
	ポーター 倫子	北陸学院大学
司会	肥田 武	一宮研伸大学

J-G-5 子どもを真ん中に保育を考えるVIーもの・人・こととのつながりの中で一

第10会場

企画・司会	灰谷 知子	お茶の水女子大学附属幼稚園
指定討論	川崎 徳子	山口大学
話題提供	伊川 千晶	お茶の水女子大学附属幼稚園
	田村 郁	お茶の水女子大学附属幼稚園

J-G-6 令和の日本型教育改革

第11会場

企画・司会	爾 寛明	桜美林大学
指定討論	藤森 平司	社会福祉法人省我会 新宿せいが子ども園
話題提供	頓橋 智樹	幼保連携型認定こども園 たちばな幼稚園
	豊田 泉	幼保連携型認定こども園 城山幼稚園
	小林 純平	社会福祉法人省我会 新宿せいが子ども園

J-G-7 共に実践の質感をたどる対話の可能性を探る
『保育を綴る一対話型マップ記録の提案』を手掛かりに

第12会場

企画・司会	高橋 陽子	お茶の水女子大学附属幼稚園
指定討論	古賀 松香	京都教育大学
話題提供	ダーリンプル規子	桜花学園大学
	佐々木 麻美	お茶の水女子大学附属幼稚園
	谷地 理沙	お茶の水女子大学附属幼稚園

J-G-8 乳幼児期の家庭・園・社会をつなぐ子育て環境の変化
 —「乳幼児の生活と育ち」研究プロジェクトの2017年度コホートと2024年度コホートの比較から—

第13会場

企画・司会	野澤祥子	東京大学
話題提供	大久保圭介	国士舘大学
	高岡純子	ベネッセ教育総合研究所
	王ギョク	東京大学
指定討論	小崎恭弘	大阪教育大学

J-G-9 園庭での探究的・協同的な遊びに向けた保育環境や援助について
 —向山こども園4歳児クラスのオンライン公開保育ダイジェスト版動画を通して—

第14会場

企画・司会	請川滋大	日本女子大学
話題提供	木村創	認定向山こども園
指定討論	上石恭太	上越教育大学附属幼稚園
話題提供	赤倉健	LIFE SCHOOL 桐ヶ丘こどものもり

J-G-10 モア・ザン・ヒューマン・ペダゴジーの設計図

第15会場

企画・モデレーター	田島大輔	和洋女子大学
指定討論	楠見友輔	信州大学
話題提供	相馬靖明	
	西垣浩文	城崎こども園
	中尾繭子	城崎こども園

J-G-11 チームの成長段階に応じたトップリーダーによるマネジメントの在り方 episode I～形成期編～

第16会場

企画・司会	北島孝通	NPO 法人保育と仲間づくりネット、幼保連携型認定こども園庄内こどもの杜幼稚園
話題提供	船瀬紗代子	NPO 法人保育と仲間づくりネット、認定こども園西須磨幼稚園
	濱名 潔	NPO 法人保育と仲間づくりネット、認定こども園立花愛の園幼稚園
指定討論	上田敏丈	名古屋市立大学
	青木 一永	社会福祉法人檸檬会

5. 研究発表

□頭発表 A

K-A-1 保育思想・保育理論・保育史など

5月16日(土) 12:30～14:20

第4会場

座長：田中敏明・吉田昌弘

K-A-1-001	戦後初期の全国保育連合会における保育制度改革構想—第二回全国保育大会の検討を中心に—	東京学芸大学	○湯川嘉津美
K-A-1-002	保育学生の保育の基本に対する考え方—園長・保育者との比較—	豊岡短期大学 中村学園大学短期大学部 西九州大学短期大学部	○田中敏明 永渕美香子 金丸智美
K-A-1-003	昭和初期における幼稚園と家庭との連絡問題—全国幼稚園関係者大会に着目して—	上智大学	○関口茉莉
K-A-1-004	明治41年豊明幼稚園「日誌」にみるカリキュラムの検討	実践女子大学	○野尻美枝
K-A-1-005	倉橋惣三の保育論究明の取り組みと心理学的基礎(2)	淑徳大学教育学部	○吉田昌弘
K-A-1-006	共主体と〈環境〉	桜の聖母短期大学	○和崎光太郎

K-A-2 保育方法(保育方法論・保育形態・幼児理解)など

5月16日(土) 12:30～14:20

第6会場

座長：永倉みゆき・東義也

K-A-2-001	〈子ども理解〉という思想	大阪公立大学	○吉田直哉
K-A-2-002	幼児期の絵本の読み聞かせが非認知能力に及ぼす影響：保育者の認識の分析	学習院大学	○魏旭童
K-A-2-003	公立保育所における共主体保育の試み	徳島市立城西保育所 徳島市立応神保育所 鳴門教育大学大学院	○赤川陽子 鎌田聡美 木村直子
K-A-2-004	保護者参加、異年齢児集団による共同養育を保育現場に保育指針、要領改訂への提言	尚綱学院大学 尚綱学院大学 尚綱学院大学 宮城学院女子大学 聖ルカ幼稚園	○岩倉政城 荒尾貞一 東義也 武田健 日吉みゆき
K-A-2-005	「夕方時間帯の保育」で保育者はどのような雰囲気を感じているのか—保育者の語りからの分析—	高崎健康福祉大学	○石川徹
K-A-2-006	子どもたちは遊びをどのように終うのか—降園の時間帯の保育に焦点を当てて—	福山市立大学	○渡邊真帆

K-A-3 保育専門職の養成など

5月16日(土) 12:30～14:05

第8会場

座長：古賀松香・山崎敦子

K-A-3-001	保育の魅力に触れるキャリア教育 —体験から広がる小中学生の未来—	新潟青陵大学短期大学部 新潟青陵大学短期大学部 新潟青陵大学短期大学部	○ 上原由美 福岡龍太 小柳桃子
K-A-3-002	保育者養成課程における協同学習導入の試み —混合研究法を用いた量的・質的分析を通して—	尚綱大学短期大学部	○ 小松和佳
K-A-3-003	季節感を取り入れた活動を通して保育学生が学ぶこと～保育内容(環境)の授業展開より	東北福祉大学	○ 山崎敦子
K-A-3-004	学生による実習日誌の形式選択と実習園との対話の実態—アンケート結果から捉える学び	聖隷クリストファー大学 聖隷クリストファー大学	○ 杉山沙旺美 渡邊拓真
K-A-3-005	保育・教育者養成課程におけるグローバル的視点の育成Ⅰ—短期海外研修の導入と今後の展望について—	大阪青山大学 大阪青山大学	○ 徳留由貴 金川弘希

K-A-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月16日(土) 12:30～14:20

第10会場

座長：岩田遵子・野口隆子

K-A-4-001	保育現場の連絡帳に関する保護者の意識調査Ⅰ —乳幼児期の子どもを養育する保護者を対象とした量的調査から—	城西国際大学	○ 綿貫文野
K-A-4-002	保育者の支援的ユーモアと保育者効力感および心のゆとりの関連	社会福祉法人太陽の会 認定こども園太陽の子保育園 兵庫教育大学	○ 網 弥 生 水落洋志
K-A-4-003	遊び援助における保育者の身体的構えの重要性(1) —「志向領域」の視点から遊び理解を問い直す—	名古屋学院大学 東京都市大学 美和こども園 美和こども園	○ 吉田龍宏 岩田遵子 谷口祥子 鈴木まり
K-A-4-004	遊び援助における保育者の身体的構えの重要性(2) —保育者の「志向領域」と幼児集団の動きの関連性—	東京都市大学 名古屋学院大学 美和こども園 美和こども園	○ 岩田遵子 吉田龍宏 鈴木まり 谷口祥子
K-A-4-005	ビジネスから保育実践への過程で生じた<わたし>の内的変化 —子どもを理解するということ—	玉川大学	○ 小林洋子
K-A-4-006	園長経験者のキャリアと学びの変容過程—専門職ネットワークの生成に着目して—	東京家政大学 千葉大学 武蔵野大学 西南学院大学 学習院大学	○ 野口隆子 淀川裕美 箕輪潤子 門田理世 秋田喜代美

K-A-5 保育者の資質能力・保育者の専門性など、保育専門職の養成など

5月16日(土) 12:30～14:20

第12会場

座長：岡

健・ダーリンプル規子

K-A-5-001	園・地域を越えて共に省察し、編み直す保育研修(3)～生成運動体としての研修体制構築プロセス～	福井大学 福井大学	○ 岸野麻衣 宮本雄太
K-A-5-002	園・地域を越えて共に省察し、編み直す保育研修(4)～省察ネットワークに基づく共創的実践と専門性形成のエコシステム～	福井大学 福井大学	○ 宮本雄太 岸野麻衣
K-A-5-003	保育現場で働く「保育職としての悩み」についての調査結果	中九州短期大学 松蔭大学 東京家政大学 育英幼稚園 育英幼稚園 東京学芸大学大学院 目白大学非常勤講師	○ 古野愛子 深谷野亜 金城悟 河村圭 河村真理子 和田奈々子 斉藤恵子
K-A-5-004	新任保育士の勤務継続を支える要因の再検討～持続の鍵と定着の軌跡に関するプロセス～	千葉大学 大学院	○ 尾形優一
K-A-5-005	保育者の視線はどのように移り変わるのかー登園と戸外遊びが交差する時間に着目してー	中国短期大学 広島大学大学院博士課程後期	○ 清水憲志
K-A-5-006	IMHを活用した保育現任研修プログラムによって育つ能力とは何かーM市公立保育園での実践を通してー	桜花学園大学	○ ダーリンプル規子

K-A-6 幼保一体化・幼保小連携など、保育マネジメントなど

5月16日(土) 12:30～13:50

第14会場

座長：佐々木

晃・田中謙

K-A-6-001	幼小移行期における「小学生」アイデンティティの形成プロセス ー幼小移行当事者が語る「園児」から「小学生」になるタイミングと他者の意味ー	奈良女子大学附属幼稚園	○ 松田登紀
K-A-6-002	幼小接続期における学びの連続性を可視化する対話型ドキュメンテーション	大阪市立味原小学校 大阪市立味原幼稚園 (株)ポーンランド(元大阪市立小学校) 大阪市立東中川小学校	○ 岩本哲也 三宅理恵 坂田紘子 大久保舞
K-A-6-003	ミドルリーダーの展開する園の組織マネジメントー私立幼稚園における働き方改革につながる取組ー	鳴門教育大学大学院 くにとう幼稚園	○ 福井麻紀 佐々木晃
K-A-6-004	まちづくりにおける保育マネジメントと商店街振興との連関	日本大学	○ 田中謙

□頭発表 B

K-B-1 教育計画・保育計画・指導計画・評価など

5月16日(土) 14:40～16:15

第4会場

座長：松井剛太・木下育子

K-B-1-001	2歳児未就園児クラスの保育実践とその可能性 －「子ども誰でも通園制度」の応用を見据えて－	幼児保育者アドバイザー 鳴門教育大学大学院	○ 中野弘子 木村直子
K-B-1-002	育みたい資質・能力の構造化	鳴門教育大学	○ 前田剛史
K-B-1-003	保育者養成校における指導計画・日誌のデジタル化に関する保育者の語りの分析	和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学	○ 三島秀晃 星野美穂子 板倉香子
K-B-1-004	ラーニング・ストーリーに見える行事の影響 －月別の記述特徴から－	香川大学 宮城教育大学 比治山大学	○ 松井剛太 越中康治 濱田祥子
K-B-1-005	幼保連携型認定こども園におけるカリキュラム・マネジメント－奈良教育大学附属園における1年目の取組から－	奈良教育大学附属幼保連携型認定こども園 奈良教育大学附属幼保連携型認定こども園 奈良教育大学	○ 荒井梨菜 木下育子 藤崎亜由子

K-B-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）

5月16日(土) 14:40～16:15

第6会場

座長：渡邊英則・松寄洋子

K-B-2-001	英国スコットランドの野外保育に関する調査：子どもの権利と持続可能性の観点から	お茶の水女子大学	○ 光橋 翠
K-B-2-002	身体活動環境における乳児クラスから幼児クラスへの円滑な移行要因の検討（1）	明治学院大学 白百合女子大学 白百合女子大学	○ 松寄洋子 石沢順子 土橋久美子
K-B-2-003	保育における「死」に触れる活動に関する研究－カブトムシバトルに着目して－	至学館大学	○ 金森由華
K-B-2-004	健康的な生活習慣を中心とした幼児向けSTEAM教育プログラムの検討：「けんこうはかせになろう」の実践を通して	白百合女子大学 白百合女子大学 東京学芸大学教職大学院 日出国園幼稚園	○ 石沢順子 大貫麻美 原口るみ 鍛治礼子
K-B-2-005	サスティナビリティ・コンピテンシーを育む幼児向けSTEAM教育プログラムの実践研究：事例「紙を使って伝えよう～動物たちを絶滅から守れ」	白百合女子大学 東京学芸大学教職大学院	○ 大貫麻美 原口るみ

K-B-3 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など

5月16日(土) 14:40～16:15

第8会場

座長：守 巧・仲 本 美 央

K-B-3-001	配慮の必要な子が友の中で生き生きと生活するために(14)	(学)希望学園 葛飾こどもの園幼稚園 (学)希望学園 葛飾こどもの園幼稚園 (学)希望学園 葛飾こどもの園幼稚園 共立女子大学	○ 小 林 さゆり 鶴 卷 直 子 加 藤 和 成 広 瀬 由 紀
K-B-3-002	インクルーシブ保育における定型発達児への教育的効果～保育現場におけるエスノグラフィの分析から～(2)	こども教育宝仙大学 玉川大学	○ 守 巧 若 月 芳 浩
K-B-3-003	テキスト「障害児保育」の分析からみる内容の変遷(1)ー歴史・制度・障害の扱いに注目してー	千葉大学 共立女子大学 静岡県立大学短期大学部 兵庫大学短期大学部	○ 真 鍋 健 広 瀬 由 紀 甲 賀 崇 史 三 宅 美由紀
K-B-3-004	テキスト「障害児保育」の分析からみる内容の変遷(2)ー今日的課題・発達評価等の扱いに注目してー	小田原短期大学 山村学園短期大学 群馬医療福祉大学 関西福祉科学大学 鎌倉女子大学 相山女学園大学 こども教育宝仙大学 東九州短期大学	○ 杉 崎 雅 子 相 沢 和 恵 浅 川 茂 実 太 田 颯 子 城 倉 登代子 丹 羽 健太郎 守 巧 森 依 子
K-B-3-005	乳幼児期にある医療的ケア児の保護者に対する研究の国内文献レビュー	白梅学園大学大学院 修士課程 白梅学園大学大学院 教授	○ 浪 波 由紀子 仲 本 美 央

K-B-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月16日(土) 14:40～16:15

第10会場

座長：三 宅 茂 夫・玉 城 美千子

K-B-4-001	保育者の幼児に対する発話の内的動機と自己意識に関する考察ー現役保育者へのインタビュー調査からー	フェリシアこども短期大学	○ 織 壁 佐和子
K-B-4-002	園としての同僚性に基づく保育実践の検討ー熟達保育者の援助変容プロセスにみるⅢ期「共主体的援助」の展開ー	北陸学院大学	○ 虫 明 淑 子
K-B-4-003	子どもと保育者との相互主体的な実践を支える保育観の形成ーあるベテラン保育者のライフヒストリーインタビューよりー	新見公立大学	○ 松 島 英 恵
K-B-4-004	森の活動における気づきの視点からー保育者と保育者養成学生の活動から見たことー	(福)すみれ会 認定こども園 あやめ保育園 新潟中央短期大学	○ 木 村 由紀恵 久保田 真規子
K-B-4-005	保育者のペアレント・トレーナー養成講座受講は、園内の関係性に何をもたらすのか？	あおぞら幼稚園・広島大学大学院	○ 玉 城 美千子

K-B-5 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など

5月16日(土) 14:40～16:00

第12会場

座長：汐見 稔幸・堀 祥子

- | | | | |
|-----------|---|----------|-----------|
| K-B-5-001 | 非認知能力を育てる子育て支援講座における保護者の変容のプロセス－1・2歳児親子を対象とした支援講座の実践研究－ | 桜美林大学 | ○ 梶谷 久美子 |
| K-B-5-002 | 父親になることによる発達と協同育児との関連 | 羽陽学園短期大学 | ○ 密城 吉夫 |
| K-B-5-003 | 体験型親子ワークショップの実践を通して保育学生は何を学ぶか | 茨城女子短期大学 | ○ 国府田 はるか |
| K-B-5-004 | 保育者養成における社会資源活用の実践研究3－地域資源を研究領域横断の視点で活用する－ | 名古屋葵大学 | ○ 堀 祥子 |

□頭発表 C

K-C-1 保育内容（保育内容総論・遊び）など

5月16日（土） 16:30～17:50

第4会場

座長：砂 上 史 子・椛 島 香 代

- | | | | |
|-----------|--|--|----------------------|
| K-C-1-001 | 絵本から広がる探検遊び（3）－子どもたちの物語世界を支えるために、保育者に求められるもの－ | (宗)日本基督教団 小石川白山教会附属愛星幼稚園
帝京短期大学
東京未来大学 | ○ 石 川 かおる
佐々木 由美子 |
| K-C-1-002 | 幼児教育における活動としての遊びの構造及びその媒介に関する一考察 | 東京都昭島市立光華小学校 | ○ 安 藤 浩 太 |
| K-C-1-003 | 戦後の保育園乳児室における自由遊び－1949-1950年度の労働者クラブ保育園保育記録から－ | 横浜高等教育専門学校 | ○ 小 林 祥 子 |
| K-C-1-004 | 保育における遊びを通じた防災の実践と評価 | 大阪総合保育大学大学院 | ○ 野 中 奏 |

K-C-2 保育思想・保育理論・保育史など、保育制度・保育行財政など

5月16日（土） 16:30～18:05

第6会場

座長：七木田 敦・松 田 こずえ

- | | | | |
|-----------|--|---------------|-------------|
| K-C-2-001 | 戦前愛育会における愛育研究所保健部の活動 | 武蔵野短期大学 | ○ 相 樂 真 樹 子 |
| K-C-2-002 | 北欧の保育政策における保護者参画 | 長野短期大学 | ○ 中 田 麗 子 |
| K-C-2-003 | アイスランドの幼児教育カリキュラムにおける「子どもの声」の尊重に関する研究－子どもの権利条項に着目して－ | 武蔵野大学 | ○ 松 田 こずえ |
| K-C-2-004 | 昭和戦前期におけるキリスト教主義保姆養成校のリカレント教育の試み－1937-1940年の宣教師の記録を手がかりとして | 東洋英和女学院大学 | ○ 佐 藤 浩 代 |
| K-C-2-005 | 幼児教育アドバイザーの力量形成に関する研究 | 広島大学大学院教育学研究科 | ○ 田 島 美 帆 |

K-C-3 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など

5月16日（土） 16:30～18:05

第8会場

座長：片山美香・堀

科

- | | | | |
|-----------|---|--|--------------------------------|
| K-C-3-001 | 新人保育者の遊びの理解と援助の変容に関する研究（2） | 東京家政大学
東京家政大学
東京家政大学附属みどりヶ丘幼稚園 | ○ 前田和代
堀科
本村真弓 |
| K-C-3-002 | 学びの芽生えを自覚的な学びへ転換する保育事例～ミラー型ライン図を基に～ | 大阪市立味原幼稚園
大阪市立味原小学校
(株)ポーネルド(元大阪市立小学校)
大阪市立東中川小学校 | ○ 三宅理恵
岩本哲也
坂田紘子
大久保舞 |
| K-C-3-003 | 堀合文子の保育実践の特徴とは何か
－『自由遊びの指導』の内容に着目して－ | 広島大学大学院人間社会
科学研究科博士課程後期 | ○ 李睿苗 |
| K-C-3-004 | 双葉郡における子ども・保育の現状分析 | 東日本大震災・原子力災害伝承館 | ○ 鈴木美枝子 |
| K-C-3-005 | 子どもの声を軸としたラーニングストーリーの実践的意義の検討－ Te Whāriki の理念と日本の保育現場での展開を踏まえて－ | 九州大谷短期大学 | ○ 谷島直樹 |

K-C-4 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など

5月16日（土） 16:30～18:05

第10会場

座長：矢藤誠慈郎・伊能恵子

- | | | | |
|-----------|--|--------------------------|----------------|
| K-C-4-001 | 親子体操による乳児の寝かしつけ効果と母子気分変化の検証 | 桜美林大学大学院 | ○ 大金保穂 |
| K-C-4-002 | 年少組の子どもをもつ保護者の子育て意識
－認定こども園における子育て支援の現状と課題－ | 東洋英和女学院大学大学院研究生 | ○ 小坂美奈子 |
| K-C-4-003 | 子どもの育ちと母親の育児との関係 | 秋草学園短期大学・昭島ナオミこども園 | ○ 伊能恵子 |
| K-C-4-004 | 2010年代前半の子育て支援言説に関する研究
－子ども・子育て新システム検討過程を中心に－ | 大阪国際大学短期大学部 | ○ 久保田健一郎 |
| K-C-4-005 | 母の里帰り出産に同行した子どもの発達保障に関する研究 | 東京都中野区公立保育所
埼玉学園大学大学院 | ○ 白石仁美
堀田正央 |

K-C-5 幼保一体化・幼保小連携など、多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど

5月16日(土) 16:30～18:05

第12会場

座長：請川 滋大・大野 歩

- | | | | |
|-----------|---|------------------------------|---------------------------------|
| K-C-5-001 | K市の幼保小連携プログラムにみる保育者・小学校教員の意識変容～アンケート結果からみた「気づき」の分析～ | 桜花学園大学 | ○ 小木 曾 隼 人 |
| K-C-5-002 | 幼保小接続における文化変容の二重性－架け橋期をめぐる保育者・教師の対話分析から－ | 山梨大学 | ○ 大 野 歩 |
| K-C-5-003 | 幼保小大が連携することによって保育教諭が得られるメリット・デメリット－PAC分析による保育教諭の認識－ | 群馬医療福祉大学
埼玉純真短期大学
中部大学 | ○ 時 田 詠 子
塚 越 亜希子
中 島 眞 吾 |
| K-C-5-004 | 「極めて優れている(outstanding)」と評価されたイングランドの保育所の音楽の意義と役割－イギリス南西部エリアの保育所の指導・活動例からの一考察－ | 東北福祉大学 | ○ 鈴 木 敦 子 |
| K-C-5-005 | 海外に住む子ども達を取り巻く『文化資本』の現在～タイ・バンコクの日本人コミュニティを中心として～ | 日本女子大学
日本女子大学 | ○ 安 納 香 哉
請 川 滋 大 |

□頭発表 D

K-D-1 保育思想・保育理論・保育史など、保育制度・保育行財政など

5月17日(日) 9:30～11:20

第4会場

座長：太田素子・木府瑞希子

K-D-1-001	明治後期の幼稚園における歌唱活動 －替え歌詞に着目して－	東京家政大学短期大学部	○ 西海 聡子
K-D-1-002	長州藩小郡宰判の捨子記録に関する一研究	和光大学名誉教授	○ 太田 素子
K-D-1-003	沖縄の保育研究は、制度と文化の狭間をどのように描いてきたのか？	広島大学大学院	○ 天願 順優
K-D-1-004	城戸幡太郎の「社会中心主義」の再検討 －生活綴方・生活科学運動の文脈から－	愛知文教女子短期大学	○ 五十嵐 紗織
K-D-1-005	カナダ・ブリティッシュコロンビア州の幼児教育カリキュラム改革－『学習の枠組み』2019年改訂と実践支援－	聖徳大学(名) 東京大学	○ 梶 瑞希子 浅井 幸子
K-D-1-006	小規模保育施設における連携の実態と課題(3) －自治体間における利用調整指数の格差と制度的課題－	江戸川学園おおたかの森専門学校 日本女子大学	○ 永島 さくら

K-D-2 発達論・心身の発達など、乳児保育(0.1.2歳児保育)など

5月17日(日) 9:30～11:20

第6会場

座長：寺見陽子・野中哲士

K-D-2-001	2歳児のいざこざ場面における仲直り	東北文教大学	○ 岡村 恵里子
K-D-2-002	乳児が物に接触する時の保育者の関わりの有無により乳児の経験はいかに変わるのか	神戸大学大学院 神戸大学大学院	○ 青井 郁美 野中 哲士
K-D-2-003	1・2歳児の見立て遊びと保育者の援助 －素材遊びの物的環境構成要素に着目して－	山梨学院短期大学 江戸川学園おおたかの森専門学校 日本女子大学	○ 深沢 佐恵香 永島 さくら
K-D-2-004	保育所等の1歳児クラスにおける食事提供について－栄養士等のインタビューを通して－	和洋女子大学	○ 池谷 真梨子
K-D-2-005	1歳児クラスの子どもたちは隠れ家で何をしているのか－子ども同士のやりとりに着目して－	名古屋市立大学人間文化研究科博士後期課程 社会福祉法人新瑞福祉とうえい保育園	○ 長野 未来
K-D-2-006	気がかりさを持つ子どもの保護者と0・1・2歳児担当保育者の関係が、家庭養育と保育に与える影響に関する考察－保育の質の観点から	大阪公立大学	○ 寺見 陽子

K-D-3 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）

5月17日（日） 9:30～11:05

第8会場

座長：名須川 知子・金城 悟

K-D-3-001	遊び・生活・リトミックの循環から見えてきたことー4歳児 ツバメとの出会いからー	国立音楽大学附属幼稚園 国立音楽大学附属幼稚園	○ 本 保 友梨香 木 村 奈々
K-D-3-002	遊び・生活・リトミックの循環から見えてきたことー5歳児 ホタルとの出会いからー	国立音楽大学附属幼稚園	○ 高 久 結 衣
K-D-3-003	子どもと絵本との関わりに関する研究XVI		○ 和 田 香 誉
K-D-3-004	保育実習記録にみる子どもの人間関係の理解ー実習生の気づきと省察の分析ー	東京家政大学 聖徳大学	○ 金 城 悟 金 城 久美子
K-D-3-005	5歳児を対象とした合奏指導ー保育者養成校の学生による指導実践（2）ー	小田原短期大学	○ 相 原 絵利那

K-D-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月17日（日） 9:30～11:20

第10会場

座長：中 川 智 之・小 谷 正 登

K-D-4-001	ともにあるということ（4）ーひらき、紡がれる実践の可能性ー	奈良女子大学附属幼稚園 奈良女子大学附属幼稚園 奈良女子大学附属幼稚園 奈良女子大学附属幼稚園	○ 鎌 内 菜 穂 松 田 登 紀 穴 戸 佳央理 辻 岡 美 希
K-D-4-002	ケイパビリティの概念を用いた幼児教育の特徴と保育者の専門性に関する一考察	川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学	○ 中 川 智 之 森 本 寛 訓 岡 正 寛 子 松 本 優 作 種 村 暁 也
K-D-4-003	保育相談の記録に関する研究	札幌国際大学	○ 品 川 ひろみ
K-D-4-004	幼児の生活実態に関する研究ー保育者対象生活実態調査の結果をもとにー	関西学院大学・教職教育 研究センター	○ 小 谷 正 登
K-D-4-005	保育者の語り合いと保育実践の往還に関する縦断的研究	学校法人桜花学園 桜花学園大学 社会福祉法人ねむの木 キッズツ リーハウス認定こども園本郷	○ 浅 野 卓 司 小 島 千恵子
K-D-4-006	掲示から実践へ～「10の立ち姿」を通じた理念浸透と保育者意識の変容～	認可外保育施設わっはっは保育園	○ 眞 鍋 亜 樹

K-D-5 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月17日(日) 9:30～11:20

第12会場

座長：門田理世・佐藤康富

K-D-5-001	絵本の選書に内在する実践知 —保育者の語りに着目した可視化の試み—	青山学院大学 青山学院大学 青山学院大学 青山学院大学	○庭井史絵 高櫻綾子 奥野千夏 松下陽花
K-D-5-002	再構成される保育記録—省察の中で生まれる“生成”のプロセスを探る—	福山平成大学 中国短期大学	○小野順子 山本房子
K-D-5-003	語り合いが紡ぐ生成的保育記録—保育者養成における省察のプロセスに着目して—	奈良学園大学 中国短期大学 福山平成大学 奈良学園大学 倉敷市立短期大学 滋賀大学	○岡野聡子 山本房子 小野順子 石原由貴子 小久保圭一郎 山本一成
K-D-5-004	共創が生む生成的保育記録—対話を媒介とした学びの可視化—	中国短期大学 福山平成大学 奈良学園大学	○山本房子 小野順子 岡野聡子
K-D-5-005	保育者の共創的省察過程に関する研究 —保育者のドキュメンテーションと語りの分析をもとに—	東京家政大学短期大学部	○佐藤康富
K-D-5-006	保育者のやりがいを高める職場環境 —保育者の語りから見えてきた改善課題—	埼玉学園大学	○堀田正央

□頭発表 E

K-E-1 教育計画・保育計画・指導計画・評価など

5月17日(日) 11:40～13:15

第4会場

座長：清水陽子・阿部和子

- | | | | |
|-----------|--|--|--|
| K-E-1-001 | エマージェント・カリキュラムにおける技術の探究(1)－保育技術を捉え直す視点－ | (福)至宝福祉会
大阪総合保育大学大学院
大妻女子大学
安良保育園
下井保育園
文政保育園
文政第二保育園
下井保育園
安良保育園
文政保育園 | ○ 前原 寛
阿部 和子
久富 陽子
井上 裕美子
内村 真奈美
宇佐美 純代
松島 広美
丸山 由美子
谷口 理恵
榎田 小百合 |
| K-E-1-002 | モア・ザン・ヒューマン・アクターの媒介性に着目した幼児教育・保育実践の理論的整理：ペダゴジーのアッサンブラージュと分散型リーダーシップ現象の解明に向けて | | ○ 相馬 靖明 |
| K-E-1-003 | 園評価の現状と課題について | 東京経営短期大学
社会福祉法人武蔵村山育成会
文教大学 | ○ 吉野 満里恵
井村 礼恵 |
| K-E-1-004 | 生成AIによる保育記録は保育者の認知を変容するか
－保育の質の向上を目指す実践からの検討－ | 山口学芸大学
滋賀大学
宇治福祉園 | ○ 山本 幸子
山本 一成
杉本 一久 |
| K-E-1-005 | 保育者がドキュメンテーションに抱く葛藤を乗り越える過程－保育者の語りに着目して－ | 仙台青葉学院短期大学 | ○ 平山 淑希 |

K-E-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）

5月17日(日) 11:40～13:15

第6会場

座長：鈴木裕子・角地佳子

- | | | | |
|-----------|--|---|----------------------------|
| K-E-2-001 | 子どもが何かに「なりきる」姿に関する保育者の捉え | 十文字学園女子大学 | ○ 渡邊 孝枝 |
| K-E-2-002 | 食べもの絵本におけるオノマトペの表現と感覚的意味の分析 | 越谷保育専門学校
東京家政大学人間生活学 総合研究修士課程児童教育学専攻 | ○ 佐々木 優美 |
| K-E-2-003 | 幼児の自由画におけるゲームや動画の影響 | 大阪国際大学短期大学部 | ○ 角地 佳子 |
| K-E-2-004 | 乳幼児の生活を通じた関わりと集団作り
－さくらさくらんぼのメソッドから－ | 立正大学 | ○ 加藤 直子 |
| K-E-2-005 | 保育におけるICTを活用した表現活動(3)
－保育者養成校での学生の取り組みから－ | 竹早教員保育士養成所
NPO法人 東京学芸大こども未来研究所
竹早教員保育士養成所 | ○ 赤津 裕子
新名 佐和子
白井 真里 |

K-E-3 保育専門職の養成など

5月17日(日) 11:40～13:15

第8会場

座長：神 長 美津子・有 村 さやか

K-E-3-001	保育者養成校における地域連携実践事例の一考察 －アンケートから見えてくる学生の成長と課題－	新潟中央短期大学	○ 若 井 由 梨
K-E-3-002	D X時代に向けた保育者養成カリキュラムの再考2－実践に向けた展開の工夫－	江戸川大学 尚綱大学 江戸川大学	○ 波多野 和 彦 中 村 佐 里 大 塚 紫 乃
K-E-3-003	「保育 ICT」における子どものメディア体験理解を育む試み	尚綱大学 江戸川大学	○ 中 村 佐 里 波多野 和 彦
K-E-3-004	地域の音楽文化を保育者養成課程に導入する試み(3) －ルーブリック評価を活用した効果検証－	小田原短期大学 小田原短期大学	○ 山 本 華 子 有 村 さやか
K-E-3-005	保育者養成施設における人権保育教育の授業実践報告	聖ヶ丘保育専門学校	○ 蠣 崎 尚 美

K-E-4 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など

5月17日(日) 11:40～13:15

第10会場

座長：上垣内 伸 子・小 原 敏 郎

K-E-4-001	保育者養成における社会資源活用の実践研究1 －大学の資源を活用した社会教育と子育て支援－	九州産業大学 九州産業大学	○ 命 婦 恭 子 植 村 和 彦
K-E-4-002	保育者養成における社会資源活用の実践研究2 －大学の資源を活用したアウトリーチ活動－	京都文教短期大学	○ 岩 佐 明 子
K-E-4-003	産後パパ育休取得／非取得の要因と影響の検討	白百合女子大学 共立女子大学	○ 佐 藤 千 晶 小 原 敏 郎
K-E-4-004	感性をひらく親子の五感あそび－保護者の情緒的変化に着目した予備的考察－	小田原短期大学	○ 加 藤 由 紀 子
K-E-4-005	地域の子ども・子育て支援活動における応答的関係性と成熟のプロセス	桜美林大学健康福祉学群 保育学専攻	○ 金 井 玲 奈

K-E-5 保育マネジメントなど

5月17日(日) 11:40～13:15

第12会場

座長：岩立京子・小久保圭一郎

K-E-5-001	不適切な保育が生じる組織的構造の分析	認定こども園立花愛の園幼稚園	○ 濱名 潔
K-E-5-002	保育現場におけるノンコンタクトタイムの可能性を探る・3一質的データ分析から	倉敷市立短期大学 聖徳大学 川村学園女子大学 日本女子体育大学	○ 小久保 圭一郎 桐川 敦子 山下 佳香 百瀬 ユカリ
K-E-5-003	地震等による被災保育所の代替施設を利用した保育継続事例の分析	徳島大学 東京未来大学	○ 中野 晋 西村 実穂
K-E-5-004	猛暑下に発表された津波警報に保育施設はどうか対応したか？—カムチャツカ半島沖地震を事例として—	東京未来大学 徳島大学 名誉教授	○ 西村 実穂 中野 晋
K-E-5-005	保育職のキャリア形成への理論的枠組みの提案	横浜市立大学	○ 野澤 友美

□頭発表 F

K-F-1 保育環境・保育教材など

5月17日(日) 13:35～15:10

第4会場

座長：野 中 千 都・柴 田 千 賀 子

K-F-1-001	人間と自然の関係における今日的課題：『マルクス解体』から保育への示唆	埼玉学園大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学大学院 お茶の水女子大学大学院	○ 岡 南 愛 梨 光 橋 翠 森 永 純 子 野 本 綾 野
K-F-1-002	保育環境が子どもの行動に及ぼす影響 - ランダム化比較試験による実証的検討 -	仙台大学 東北大学大学院医学系研究科 郡山女子大学短期大学部	○ 柴 田 千 賀 子 柴 田 卓
K-F-1-003	自然とつながる保育環境のデザイン - 保育者を対象としたバイオフィリックデザインに関する情報提供の試み -	東京農業大学	○ 森 元 真 理
K-F-1-004	幼児のワークショップにおける机配置と動線計画に関する実践的考察	東京家政大学	○ 岡 本 恵
K-F-1-005	園内の物的環境と幼児の身体活動との関連について	九州産業大学 東京家政学院大学	○ 田 中 沙 織 田 中 千 晶

K-F-2 発達論・心身の発達など

5月17日(日) 13:35～14:55

第6会場

座長：西 本 望・菅 眞佐子

K-F-2-001	語られる幼児画から見る幼児の生活と発達	西九州大学	○ 末 次 絵 里 子
K-F-2-002	3歳以上児の午睡終了の目安とは？—保育と家庭の連携に基づく個別対応指標の提案—	茨城キリスト教大学 帝京大学大学院 NPO法人赤ちゃんの眠り研究所	○ 清 水 悦 子
K-F-2-003	保育室の音環境改善後にみられた2～4歳児の発話における質的变化	同志社大学	○ 嶋 田 容 子
K-F-2-004	幼少期の遊び経験と青年期後期における学びに向かう力との関係について—自律的な学習動機づけと知的好奇心に注目した検討—	白百合女子大学大学院文学研究科	○ 佐 藤 那 美

K-F-3 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など

5月17日(日) 13:35～14:55

第8会場

座長：榎 沢 良 彦・中 谷 奈津子

K-F-3-001	インクルーシブ保育における共主体の環境づくりー医療的ケア児の個と集団及びプロジェクト活動からの一考察ー	大阪健康福祉短期大学 松江キャンパス	○ 舟 越 美 幸
K-F-3-002	3歳未満児保育の実践報告に関する検討ーインクルーシブ保育の視点からー	大阪公立大学大学院 神戸大学大学院	○ 木 曾 陽 子 中 谷 奈津子
K-F-3-003	インクルーシブ保育実践の特質ー日本の実践記録を通してー	香川大学大学院創発科学研究科	○ 権 田 ゆきの
K-F-3-004	職種別・階層別インタビューにみる子ども理解と連携の多層的構造ー保育所・児童発達支援事業所・保育所等訪問支援事業所の比較分析ー	川崎医療福祉大学 くらしき作陽大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学	○ 種 村 暁 也 橋 本 勇 人 中 川 智 之 森 本 寛 訓 岡 正 寛 子 松 本 優 作

K-F-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月17日(日) 13:35～15:10

第10会場

座長：井 上 孝 之・井 上 果 子

K-F-4-001	園内での保育実践をめぐる保育士の気づきと対応	横浜国立大学 横浜市こども青少年局 保育・教育運営課 横浜国立大学	○ 田 村 和 子 高 岩 恭 子 井 上 果 子
K-F-4-002	保育理念の理解と保育の実際ー保育実践のズレへの対応に着目してー	洗足こども短期大学 星美学園短期大学	○ 伊 藤 路 香 大 井 美 緒
K-F-4-003	5歳児の協働活動における『見立て』に保育者はいかに応答しているかー保育実践における保育者の創造的応答性の質的研究	まちの保育園・こども園	○ 松 本 理寿輝
K-F-4-004	絵本に対する子どもの主体的関わりを促す保育実践のための評定尺度開発の試みー科学的知見に基づく絵本活用方法ー	大阪健康福祉短期大学	○ 増 原 真 緒
K-F-4-005	保育者を対象としたOff-JTの実施状況と課題ー全国の都道府県等の実態把握を踏まえてー	福島学院大学 福島学院大学 福島学院大学	○ 鈴 木 久米男 鈴 木 翔 太 宍 戸 和 博

K-F-5 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど

5月17日(日) 13:35～15:10

第12会場

座長：高田文子・内田千春

K-F-5-001	国(地域)の気候・環境・暮らしとともにある 保育①ーバンコクの安全に配慮した取り組みー	白梅学園大学 白梅学園大学	○ 林 薫 高田文子
K-F-5-002	国(地域)の気候・環境・暮らしとともにある 保育②ーシンガポールの人的環境の多様性を活 かした取り組みー	白梅学園大学 白梅学園大学	○ 高田文子 林 薫
K-F-5-003	多文化・多言語背景を持つ子どもへの接続期支 援の実践的検討ー在籍園とプレスクール事業の 事例を通して	東洋大学	○ 内田千春
K-F-5-004	多文化環境の保育	大阪国際大学短期大学部	○ 吉田貴子
K-F-5-005	多文化環境にいる子どもたちの母文化保持のた めの研究ーウズベキスタンとグアムの現地学術 調査を通してー	名古屋芸術大学 小田原短期大学	○ 谷口征子 西元咲文

□頭発表 G

K-G-1 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月17日(日) 15:30～17:05

第2会場

座長：北野幸子・久富陽子

K-G-1-001	子どもとの関わりにおける「判断の枠組み」の可視化(2)	大妻女子大学 家政学部 大妻女子大学 家政学部 大妻女子大学 家政学部 社会福祉法人至宝福祉会 大妻女子大学 人間関係学部 大阪総合保育大学	○坂田哲人 久富陽子 檜木彩 前原寛 山本真知子 阿部和子
K-G-1-002	公立保育所で勤務する保育士は自分たちの専門性をどのように捉えているのか	田園調布学園大学大学院	○矢嶋邦繁
K-G-1-003	保育の省察へのナラティブアプローチ ー保育者へのインタビューを通してー	相模女子大学 東京都市大学	○浅見佳子 横山草介
K-G-1-004	保育所・幼稚園間の往還を経験した保育者のキャリア形成 ー制度・文化差による葛藤から適応へー	関西保育福祉専門学校	○阪本満
K-G-1-005	保育現場におけるICT導入と保育者のICTリテラシーとの関連	福山市立大学	○太田直樹

K-G-2 保育環境・保育教材など、児童文化・児童文化財など

5月17日(日) 15:30～17:20

第4会場

座長：津金美智子・相澤京子

K-G-2-001	1960年代の保育雑誌における保育教材・児童文化財に関する一考察	浦和大学	○竹田恵
K-G-2-002	幼小接続を意識した栽培活動に関する考察	文教大学 東京経営短期大学 社会福祉法人武蔵村山育成会	○井村礼恵 吉野満里恵
K-G-2-003	基尺のそろった積み木遊びにおける子どもの発達と保育者の意識変容	小田原短期大学 保育学科	○小倉直子
K-G-2-004	エデュケーショナル・ランドスケープ：保育者が認識する良好な園外保育環境	筑波大学	○石田佳織
K-G-2-005	子どもの表現メディアとしてのパネルシアター	淑徳大学	○松家まきこ
K-G-2-006	おむすびころりんの変容(2)ー1960年代以降の作品を中心にー	フェリシアこども短期大学 東京未来大学	○相澤京子 佐々木由美子

K-G-3 保育専門職の養成など

5月17日(日) 15:30～17:05

第6会場

座長：岩田恵子・三浦主博

K-G-3-001	保育者養成通信教育の類型に関する考察	小田原短期大学	○山鹿貴史
K-G-3-002	動物との触れ合いが大学生の心の健康に与える影響に関する研究 ー学内でのモルモットの飼育や触れ合い活動を通してー	フェリシアこども短期大学 フェリシアこども短期大学 フェリシアこども短期大学	○舟生直美 中村麻衣子 八木真祈
K-G-3-003	実習日誌形式が保育現場における実習指導に及ぼす影響	福岡こども短期大学 筑紫女学園大学 埼玉東萌短期大学	○秀島剛徳 怡土ゆき絵 熊上藤子
K-G-3-004	ICT活用による保育学生の動線を用いたリフレクション支援ツールの開発2 ～効果の測定～	共立女子大学 日本体育大学 仙台白百合女子大学	○小原敏郎 恒川丹 三浦主博
K-G-3-005	保育者養成校における教育実習・保育実習(保育所)指導の在り方についてー現場からのアンケート調査結果からー	帝京学園短期大学	○井上聖子

K-G-4 児童福祉・児童の人権など

5月17日(日) 15:30～17:05

第8会場

座長：日浦直美・鶴宏史

K-G-4-001	保育における子ども支援に係る近年の暑さ対策の特性と課題：家庭との連携および地域との協働を含む検討を基に	国立音楽大学	○山本智子
K-G-4-002	保育所等における子ども家庭支援の充実を図る推進事業に関する研究(3)：W市家庭支援推進保育事業におけるロジックモデルの検討	関西国際大学 神戸大学 大阪公立大学 武庫川女子大学	○春木裕美 中谷奈津子 木曾陽子 鶴宏史
K-G-4-003	保育所等における子ども家庭支援の充実を図る推進事業に関する研究(4)：Z市家庭支援推進保育事業におけるロジックモデルの検討	神戸大学大学院 関西国際大学 大阪公立大学 武庫川女子大学	○中谷奈津子 春木裕美 木曾陽子 鶴宏史
K-G-4-004	保育におけるヤングケアラー支援の現状と課題ーヤングケアラーの語りに着目してー	北陸学院大学教育学部幼児教育学科	○松本理沙
K-G-4-005	子どもの権利教育における絵本の可能性についての研究	共立女子大学	○加納拓朗

ポスター発表 A

P-A-1 保育思想・保育理論・保育史など

5月16日(土) 13:00～14:00

ポスター会場

座長：増 田 まゆみ・福 元 真由美

P-A-1-001	明治期の日本の保育におけるフレーベル恩物遊び実践 -第3～6恩物に着目して-	小田原短期大学 保育学科 名古屋柳城女子大学 子ども学部	○ 竹 内 あゆみ 山 本 聡 子
P-A-1-002	キャサリン・ウノ『近代性への通路：20世紀初頭日本における母性と子ども観、社会改革』の保育史的意義	北海道教育大学	○ 稲 井 智 義
P-A-1-003	小林宗作のリズム教育における子どもと身体：リズム的秩序の芸術教育思想として	青山学院大学	○ 福 元 真由美
P-A-1-004	戦中・戦後における保育の展開とその社会的意義～一保育所の取り組みを通して～	湘南ケアアンドエデュケーション研究所 日本体育大学	○ 増 田 まゆみ 佐 藤 恵
P-A-1-005	大阪府女子師範学校附属幼稚園の園庭環境 -自然環境に着目して-	武庫川女子大学大学院	○ 福 田 篤 子
P-A-1-006	坂元彦太郎の保育観と現象学とのつながりについての一考察	十文字学園女子大学	○ 横 井 紘 子
P-A-1-007	社会に開かれたカリキュラムの原理的考察 -保育言説における「地域」の位置づけの検討を中心に-	埼玉県立大学 高崎健康福祉大学	○ 田 口 賢太郎 富 田 純 喜

P-A-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）

5月16日（土） 13:00～14:00

ポスター会場

座長：島田 由紀子・地下 まゆみ

P-A-2-001	幼児教育における音楽的遊びの有効性に関する調査研究10 ―幼稚園教諭における演奏録音データの活用について―	玄海ゆりの樹幼稚園 吉塚ゆりの樹幼稚園	○ 高杉 洋史 高杉 美稚子
P-A-2-002	環境教育を通じた子ども・教師・養成校学生の相互変容 ―地域の幼稚園との継続的な連携―	大阪大谷大学 大阪大谷大学	○ 地下 まゆみ 井上 美智子
P-A-2-003	音楽アウトリーチに関する研究動向 ―KH Coderによるテキストマイニング分析―	小田原短期大学	○ 澤田 優子
P-A-2-004	子ども会議のあり方を探る2～正解のないテーマ「おとなと子どもの違い」～	新生東志賀保育園 新生東志賀保育園	○ 亀井 慶子 森 美帆
P-A-2-005	わらべうたを用いた表現遊びにみる5領域の展開に関する研究	川口短期大学 川口短期大学	○ 岩崎 桂子 宮澤 多英子
P-A-2-006	登園時の情報環境によってどのような行動が生じるのか？一年長組の「お知らせボード」を中心とした探索的研究―	幅下幼稚園 桜花学園大学	○ 伊藤 直 森山 雅子
P-A-2-007	保育者養成課程における表現教育に関する研究(15)	國學院大學 千葉大学	○ 島田 由紀子 駒 久美子
P-A-2-008	保育者の感性を引き出す「表現」の授業	名古屋音楽学校	○ 荒木 裕子
P-A-2-009	保育者養成におけるリトミックを取り入れた音楽活動―幼児の表現と学生の学びに着目して―	大阪大谷大学	○ 峯 恭子
P-A-2-010	うえの式質的分析法を用いた森のようちえんのメリットとデメリット―一般的な園と森のようちえんの比較から見えてくるもの―	広島大学大学院 十文字学園女子大学	○ 大道 香織 二宮 穰

P-A-3 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など

5月16日(土) 13:00～14:00

ポスター会場

座長：上田敏丈・水野智美

P-A-3-001	「発達障がい児保育ベーシックプログラム」の効果評価－卒業生へのアンケート調査から－	星美学園短期大学 星美学園短期大学 文教大学	○ 竹 森 亜 美 坂 本 真 季 遠 藤 愛
P-A-3-002	就学移行期における個別の教育支援計画の活用－小学校担任・療育施設職員・就学支援委員の視点から－	静岡産業大学 静岡産業大学 静岡産業大学	○ 日 隈 美代子 神 尾 玲 子 川 端 奈津子
P-A-3-003	心理アセスメント結果はどのように“翻訳”され支援につながるのか－保護者・支援者の経験からみた課題と可能性	埼玉東萌短期大学	○ 熊 上 藤 子
P-A-3-004	韓国の保育における「正当な便宜」の理解と実施状況－現場の聞き取りを通じた一考察－	富山国際大学 愛知みずほ短期大学	○ 金 仙 玉 杉 山 佳菜子
P-A-3-005	特別な配慮を要する子どもを含む幼児間の関わりと保育者の援助(3)	共立女子大学	○ 広 瀬 由 紀
P-A-3-006	医療的ケア児の保育～「みんなの中で過ごすこと」の効果～	富山市こども保育課	○ 大 村 純 子
P-A-3-007	医療的ケア児の支援に関する一考察－児童発達支援の現場から保育施設への受入を展望して－	高松大学 関西国際大学 教育学部 非常勤講師 兵庫教育大学大学院	○ 川 口 めぐみ 下 里 里 枝 石 野 秀 明
P-A-3-008	保育士と音楽療法士協働による自閉スペクトラム症(ASD)児の音楽療法:語りを通じた保護者・保育士の変容プロセス	千葉大学大学院 NPO法人ユニークユニバース 千葉大学	○ 益 山 ゆ き 駒 久美子
P-A-3-009	発達障害傾向を有する幼児の感覚異常特性への気づきから支援導入へのプロセス－保育者および子どもの変容を中心に－	豊里もみじこども園 東京科学大学	○ 大和田 菜 子 水 野 智 美
P-A-3-010	発達に課題を持つ子どもを支援する保育者に向けた研修の実践	香川短期大学 観音寺市役所	○ 田 中 彩 入 江 輝
P-A-3-011	就学前保育施設と児童発達支援施設の連携の現状と課題について－児童発達支援施設へのインタビュー調査から－	佐賀大学	○ 名 倉 一 美

P-A-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月16日(土) 13:00～14:00

ポスター会場

座長：湯地宏樹・石動瑞代

P-A-4-001	保育者の生成 AI 利用とメタ AI リテラシーとの関係	鳴門教育大学大学院	○ 湯地宏樹
P-A-4-002	保育者はなぜ腰痛になるのか(1) 業務中の姿勢観察から推定する腰痛リスク	植草学園大学 植草学園大学	○ 窪谷珠江 實川慎子
P-A-4-003	保育士のウェルビーイング促進要因評定尺度の開発過程：概念の特定と初期項目の作成	創価大学大学院(博士後期課程) 一般社団法人日本ウェルビーイング教育・保育協会(代表理事) 創価大学(非常勤講師)	○ 高橋健司
P-A-4-004	保護者のポジティブメッセージから探る保育者の専門性ー保育者効力感への影響をふまえてー	富山短期大学	○ 石動瑞代
P-A-4-005	乳幼児期の性教育の現状について	東京未来大学 東京未来大学 東京未来大学	○ 鳥海弘子 橋元知子 浅井かおり
P-A-4-006	保護者に対する情報発信の工夫ー幼児の育ちを共有する取組からー	文京学院大学ふじみ野幼稚園 文京学院大学ふじみ野幼稚園 文京学院大学ふじみ野幼稚園 文京学院大学ふじみ野幼稚園 文京学院大学	○ 岩野芽衣花 松波恵美 安達祐亮 安藤美緒 椛島香代
P-A-4-007	保育者がモチーフをもとに保育実践を紡ぐ過程の考察(4)	京都市立中京もえぎ幼稚園	○ 中岡雄介
P-A-4-008	保育者養成におけるマインドフルネス教育の試作的実践ー五感への気づきを育む	北陸学院大学 北陸学院大学	○ ポーター倫子 松本理沙
P-A-4-009	アフターコロナにおける幼稚園・こども園が地域に果たす役割とは(2)	福岡県立大学 純真短期大学 東亜大学	○ 伊勢慎 高口知浩 井手裕子
P-A-4-010	生活場面における0歳児担任保育者の〈ていねいな〉関わりに関する研究	愛知淑徳大学	○ 村上明子

P-A-5 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月16日(土) 13:00～14:00

ポスター会場

座長：高嶋景子・小林みどり

P-A-5-001	保育を「おもしろがる」実践研究－パールマンの「6つのP」概念に着目して－	帝京短期大学	○ 山内陽子
P-A-5-002	保育の質向上を支える地域における「保育研修コーディネーター」に関する研究(3)	聖心女子大学 関東学院大学 玉川大学	○ 高嶋景子 三谷大紀 大豆生田啓友
P-A-5-003	特別な配慮を必要とする子どもに対する学生の意識(2)－外国籍の子どもに必要とされる保育教材について－	育英大学 育英短期大学	○ 望月文代 大屋陽祐
P-A-5-004	対等性を意識した語り合い研修の継続的な取り組み：新任職員を迎えた語り合いの展開	静岡大学教育学部附属幼稚園 静岡大学教育学部附属幼稚園 静岡大学教育学部	○ 瀬戸尾和紀 青山昌子 若林紀乃
P-A-5-005	環境構成における保育者の実践的思考－3歳児・4歳児の遊び場面における「モノを動かす」行為の分析から－	佛教大学	○ 小林みどり
P-A-5-006	特別な配慮を必要とする子どもに対する学生の意識(1)－外国籍の子どもに対する配慮の意識調査－	育英短期大学 育英大学	○ 大屋陽祐 望月文代
P-A-5-007	新規入職者の離職防止を目指した園内研修の取り組み～語り合いが作る自分の居場所感～	純真短期大学 福岡県立大学 東亜大学	○ 高口知浩 伊勢慎 井手裕子
P-A-5-008	保育者のレジリエンスが離職意向に与える影響	清和大学短期大学部 清和大学短期大学部	○ 後藤紗織 中島緑

P-A-6 保育専門職の養成など

5月16日(土) 13:00～14:00

ポスター会場

座長：石川 昭 義・佐野 真一郎

P-A-6-001	大学を拠点とした学生による子育て支援の取組について—学生における保育者受容効力感の分析を中心として—	高知大学 高知大学 高知大学 高知大学	○ 秀 真一郎 玉 瀬 友美 三ツ石 行 宏 竹 内 日登美
P-A-6-002	保育経験年数が現職保育者の学習観に及ぼす影響に関する実証的研究	創価大学 生田ひまわり幼稚園 東京福祉大学短期大学部 白梅大学大学院 創価大学(非) 育英大学	○ 戸 田 大 樹 岸 正 寿 荒 木 由紀子 後 藤 叶 南 佐久間 良 恵 田 中 卓 也
P-A-6-003	造形・音楽・身体表現を連携させた保育内容「表現」の指導法に関する研究(5) —指導計画に繋がる事前活動について—	岡崎女子短期大学 岡崎女子短期大学 岡崎女子短期大学	○ 横 田 典 子 山 田 悠 莉 滝 沢 ほだか
P-A-6-004	子育て支援イベント参加学生の意識	江戸川大学 江戸川大学	○ 今 村 麻 子 旭 彩 希
P-A-6-005	保育施設における交通安全教育—養成校との連携による取り組みを通じて—	豊橋創造大学短期大学部 豊橋創造大学短期大学部	○ 葛 谷 潔 昭 佐 野 真一郎
P-A-6-006	元保育系学生の進路選択をめぐる職業アイデンティティ変容の理論的検討—関係規定的存在の視点から—	同朋大学 同朋大学	○ 勝 野 愛 子 神 谷 良 恵
P-A-6-007	授業と連動した地域子育て支援活動2—保育学生の学修効果に関する検討—	和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学	○ 星 野 美穂子 弓削田 綾 乃 丸 谷 充 子 板 倉 香 子 三 島 秀 晃 池 谷 真梨子 北 川 葉 子
P-A-6-008	保育現場における復職保育者支援に関する研究—保育現場管理者へのインタビュー分析を通して—	中部学院大学短期大学部 中部学院大学 修文大学短期大学部 鈴鹿大学	○ 杉 山 祐 子 植 松 勝 子 友 永 良 子 南 谷 悠 子
P-A-6-009	語りあいから生まれる学び—保育者と養成校をつなぐ「パネルシアターラウンジ」の試み—	常磐大学 淑徳大学	○ 鈴 木 範 之 松 家 まきこ

P-A-7 保育専門職の養成など

5月16日(土) 13:00～14:00

ポスター会場

座長：脇 信明・中西利恵

P-A-7-001	保育職への肯定的態度と不安・ストレス —保育者と養成校生との比較から—	奈良教育大学	○ 藤 崎 亜由子
P-A-7-002	教育実習の指導方法に関する研究(3) —10年間の取り組みの成果と今後のあり方について—	相愛大学 びわこ学院大学 相愛大学 神戸常盤大学 相愛大学	○ 曲 田 映 世 中 井 清津子 中 西 利 恵 中 塚 景 子
P-A-7-003	乳児親子の子育て世代と大学生の交流における学びと次世代育成支援の検討(2) —保護者の語りから—	玉川大学 玉川大学	○ 上 田 よう子 青 木 雄 子
P-A-7-004	保育者の思い —パート保育者の思いに着目して—	愛知学泉大学 愛知学泉大学 名古屋柳城短期大学 椋山女学園大学 桜花学園大学	○ 田 村 佳 世 伊 藤 久美子 後 藤 由 美 朴 信 永 小 原 倫 子
P-A-7-005	保育実践につながる教授法を探る ～保育原理の学びを通して～	滋賀短期大学	○ 鶴 川 陽 子
P-A-7-006	卒業研究への取り組みが学生にもたらす効果について	愛国学園保育専門学校	○ 森 川 みゆき
P-A-7-007	AIモデル Simplissime が生成した簡易伴奏の自主学习支援効果の検討—保育者養成校の学生に対する試用後インタビューの分析より—	修文大学短期大学部 中部学院大学短期大学部	○ 友 永 良 子 杉 山 祐 子
P-A-7-008	身近な廃材を用いた造形活動への取り組み —ダンボールを用いたお面作りを通して—	大阪樟蔭女子大学 福山平成大学	○ 安 部 永 佐 伯 岳 春
P-A-7-009	心理的安全性が保育者養成校の学生の共感疲労に与える影響	東海大学	○ 小 池 はるか
P-A-7-010	実習担当者と科目担当者の実習中のピアノ演奏法に関する一考察	愛国学園保育専門学校 愛国学園保育専門学校	○ 石 井 久美子 船 田 鈴 子

P-A-8 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など

5月16日(土) 13:00～14:00

ポスター会場

座長：山本理絵・徳田克己

P-A-8-001	認定こども園におけるラーニングストーリーの活用と効果 その6：園内外に広がる「マジックモーメント・カフェ」の実践と深化	流通経済大学	○ 佐藤純子
P-A-8-002	保育ドキュメンテーションを活用した保護者への情報共有の実際ー導入以前と比較した質問紙調査の結果を受けてー	社会福祉法人睦会 幼保連携型認定こども園 平賀保育園	○ 千葉慎也
P-A-8-003	子どもの自主性を尊重する保護者からのクレーム	東京科学大学 アール医療専門職大学 豊里もみじこども園	○ 水野智美 徳田克己 大和田菜子
P-A-8-004	保育所における保護者支援の役割について～父親支援を中心に～	愛知淑徳大学	○ 鈴木順子
P-A-8-005	男性育休における父親の役割学習と家族関係の再構築ー「取得」から「構築」へー	金城大学	○ 浅井和毅
P-A-8-006	ショッピングモールへのカームダウンスペース設置の提案	アール医療専門職大学 東京科学大学	○ 徳田克己 水野智美
P-A-8-007	「スマホ育児」に関する一考察～学生のアンケート調査より～	姫路大学	○ 楠本洋子
P-A-8-008	保育所における家庭訪問の実態と課題 (3)一家庭訪問の意義、困難や課題に関するインタビュー調査結果の分析ー	大阪総合保育大学 関西学院短期大学 大阪キリスト教短期大学 大阪キリスト教短期大学 富山短期大学 富山国際大学	○ 丸目満弓 立花直樹 渡辺俊太郎 西川友理 明柴聰史 河崎美香
P-A-8-009	保育者が考える保護者との相談が継続するプロセスに関する質的検討	中村学園大学大学院 中村学園大学	○ 舩田亜紗美 笠原正洋

ポスター発表 B

P-B-1 保育制度・保育行財政など、発達論・心身の発達など

5月16日(土) 16:30～17:30

ポスター会場

座長：関 口 はつ江・岩 田 美 保

P-B-1-001	韓国における幼保一元化政策の推進動向と課題	四天王寺大学短期大学部	○ 韓 在 熙
P-B-1-002	イギリスの乳幼児教育における資格と基準	駒沢女子短期大学	○ 猪 熊 弘 子
P-B-1-003	認定こども園制度導入に対する自治体の姿勢と普及状況 —兵庫県と千葉県の比較—	聖徳大学	○ 菊 地 正 登
P-B-1-004	コロナ禍における幼児の発達評価におけるコホート分析(1) —3歳児における発達類型の横断的検討—	帝京短期大学 十文字学園女子大学名誉教授 十文字学園女子大学 船橋情報ビジネス専門学校	○ 押 部 直 也 関 口 はつ江 長 田 瑞 恵 生 越 雅 志
P-B-1-005	コロナ禍における幼児の発達評価におけるコホート分析(2) —3歳児から5歳児までの発達類型の縦断的検討—	船橋情報ビジネス専門学校 十文字学園女子大学名誉教授 十文字学園女子大学 帝京短期大学	○ 生 越 雅 志 関 口 はつ江 長 田 瑞 恵 押 部 直 也
P-B-1-006	園での仲間遊びにみる他者理解に関わるやりとりについての検討12	千葉大学	○ 岩 田 美 保
P-B-1-007	偶然の痕跡から「みる」をつくる子どもたち —シールはりを通した0～5歳児の縦断的検討—	京都市立芸術大学	○ 堀 田 千 絵
P-B-1-008	保育実践と理論の往還による新地平の創出に向けて —実践の背景にある理論的支えの可視化と創発的活用	日本女子大学	○ 吉 澤 一 弥
P-B-1-009	幼児のワーキングメモリと遊び場面に関する研究	中村学園大学	○ 福 丸 奈津子

P-B-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）

5月16日（土） 16:30～17:30

ポスター会場

座長：滝 口 圭 子・佐 野 美 奈

P-B-2-001	幼児の音楽的表現における手指の各中節骨の動きに関する定量的分析	常葉大学	○ 佐 野 美 奈
P-B-2-002	生態学的自然観から生態学的世界観へ －持続可能性のための保育実践－	大阪大谷大学	○ 井 上 美智子
P-B-2-003	芸術士®の実践における光を使った遊びに関する一考察Ⅱ － ILLUMME を用いた活動事例から －	香川大学	○ 吉 川 暢 子
P-B-2-004	園庭に命を吹き込む植樹と築山作りの実践 －運動場から“自然と対話するお庭”へ－	宮崎学園短期大学附属 みどり幼稚園	○ 新 名 里 美
P-B-2-005	五感と幼児の描画表現の関係 －感触を表す色を探る－	大阪大谷大学教育学部幼 児教育実践研究センター	○ 奥 美佐子
P-B-2-006	幼稚園4歳児クラスにおける5歳児クラス進級 及びクラス替えに向けた保育者の援助：大規模 園でのフィールド調査から	大阪信愛学院大学	○ 松 原 未 季
P-B-2-007	保育のなかの科学につながる探究場面の保育者 の解釈 5 －保育者のつぶやきから見えてくること－	金沢大学	○ 滝 口 圭 子
P-B-2-008	領域「表現」の変遷がもたらした現場の思いと 戸惑い	社会福祉法人野並福祉会 元愛知みずほ短期大学	○ 西 出 悦 子 原 友 美
P-B-2-009	「保育内容環境の指導法」と「子どもの食と栄養」 の領域縦断型授業 －じゃがいもの栽培・収穫・調理を通じて－	川村学園女子大学 川村学園女子大学	○ 叶 内 茜 山 下 佳 香

P-B-3 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）

5月16日（土） 16:30～17:30

ポスター会場

座長：岡田 暁子・山田 伸之

P-B-3-001	地震防災保育における幼児の主体的な思考を促す試み－振り返り活動の工夫－	高知大学 和歌山大学 誠昭学園 やまなみ幼稚園	○ 山田 伸之 丁子 かおる 田 中文 昭
P-B-3-002	転がし絵を活用した表現活動の試み －「音楽を生み出す遊び」プログラムの開発－	名古屋学芸大学 愛知教育大学 名古屋学芸大学	○ 水谷 誠 孝 麓 洋 介 岡田 暁子
P-B-3-003	乳・幼児の造形表現における保育施設での実施状況について－ Web 調査による結果と分析－	和歌山大学	○ 丁子 かおる
P-B-3-004	子どもの興味関心に寄り添った表現活動の実践的検討－音楽表現活動に着目して－	関西学院大学大学院	○ 友 國 花 南
P-B-3-005	幼児の言葉から捉える飼育活動の変容プロセス	東京福祉大学	○ 浅野 菜津子
P-B-3-006	流動的な異年齢保育における遊びの共有についての一考察－5歳児の「足場かけ」「立ち上がり」場面の事例検討から－	長浜市立長浜西幼稚園	○ 網 島 大 輔
P-B-3-007	自然体験の共有から生まれる創造的表現の展開－5歳児との「小さいきものかるた」づくりを通して－	奈良学園大学 奈良学園大学 奈良学園大学	○ 石 原 由貴子 岡 野 聡 子 高 岡 昌 子
P-B-3-008	玩具の特性が子どもの遊びの展開に与える影響－既成玩具と素材の比較から－	目白大学	○ 峰 友 航
P-B-3-009	楽器の自由探索によって育まれるものとは何か(2)－民族楽器を含む楽器遊び場面の観察を通して－	玉川大学	○ 伊 原 小百合

P-B-4 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）

5月16日（土） 16:30～17:30

ポスター会場

座長：児嶋輝美・山本直樹

P-B-4-001	幼児における歌唱指導の3つの<3要素> —ダルクローズ・リトミックの視点から—	白鷗大学	○ 柿 沼 美 恵
P-B-4-002	猛暑による環境の変化と保育現場の対応（2） —保育士・園長へのインタビュー調査より—	東亜大学 福岡県立大学 純真短期大学	○ 井 手 裕 子 伊 勢 慎 浩 高 口 知 浩
P-B-4-003	非認知能力を育成する表現活動の検討	福山平成大学 大阪樟蔭女子大学	○ 佐 伯 岳 春 永 安 部 永
P-B-4-004	環境の視点を入れた食育 ～5歳児の野菜づくりを通して～	社会福祉法人名古屋新生 福祉会 新生保育園	○ 飯 田 綾
P-B-4-005	演劇体験活動における学生の表現意欲を高める 工夫の検討—異学年での集中的な創作活動を土 台として—	長野県立大学	○ 山 本 直 樹
P-B-4-006	子どもの育ちを支える環境と保育Ⅲ —実習生から見た伝承遊び—	京都文教短期大学 関西学院短期大学	○ 張 貞 京 森 知 子
P-B-4-007	保育現場で受け継がれる手遊び歌 —保育実践における意味を考える—	徳島文理大学短期大学部 東京家政大学短期大学部	○ 児 嶋 輝 美 西 海 聡 子
P-B-4-008	教職課程における「音楽実技」科目の再考 —保育者を目指す学生の学びの実態に着目して—	帝京大学	○ 若 谷 啓 子

P-B-5 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など

5月16日（土） 16:30～17:30

ポスター会場

座長：井 桁 容 子・服 部 敬 子

P-B-5-001	ベルリンにおける Early Excellence Approach の導入と展開 —ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの実践から—	千葉明德短期大学	○ 池 谷 潤 子
P-B-5-002	しなやかに伸びていく子どもを育む保育	山梨大学教育学部附属幼稚園 山梨大学教育学部附属幼稚園 山梨大学教育学部附属幼稚園	○ 吉 岡 良 介 古 屋 あゆみ 野 田 多佳子
P-B-5-003	子どもの探求心の創発から探究活動への移行を促す外的要因に関する一考察	フェリシアこども短期大学 フェリシアこども短期大学	○ 石 見 容 子 舟 生 直 美
P-B-5-004	子どもとつくる保育とエンパシー—子どもたちの話し合いで育まれるものとは何か—		○ 奥 野 千 夏
P-B-5-005	保育の中で織りなされる子どもと保育者のやりとりから捉える共主体による保育実践に関する一考察	中村学園大学付属あさひ幼稚園 中村学園大学	○ 古 賀 萌 子 那 須 信 樹
P-B-5-006	帰りのあいさつ場面における A 児にとってのルーティン生成の過程	常葉大学短期大学部保育科 静岡大学教育学部附属幼稚園	○ 鈴 木 幸 子 青 山 昌 子
P-B-5-007	想像的探索遊びを支える保育者の協働性—2 歳児クラスを受け持つ複数担任に対するインタビュー—	学校法人創価大学	○ 高 橋 広 美
P-B-5-008	暴力的な言動が頻発する 4 歳児クラスにおける意図的なグループ編成と友だち関係の変化	京都府立大学	○ 服 部 敬 子
P-B-5-009	攻撃的な言葉が場の流れを決めるとき：未就学児 3 名の相互行為の会話分析	相山女学園大学	○ 丹 羽 健 太 郎

P-B-6 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月16日(土) 16:30～17:30

ポスター会場

座長：上村 晶・鈴木 裕子

P-B-6-001	語りの場で生成される保育観	比治山大学短期大学部	○ 児玉 理紗
P-B-6-002	保育者と保護者の子ども理解の焦点の違いが相補的に働く可能性	岡崎女子短期大学 名古屋柳城短期大学	○ 木田 千晶 鈴木 裕子
P-B-6-003	子どもの表現活動における保育者の援助が育む創造の螺旋的構造	横浜高等教育専門学校	○ 新井 貴子
P-B-6-004	園内研修の新たな可能性の背景を探る試み ―主任保育者の歩みと相談的支援の実践から―	富山国際大学	○ 本江 理子
P-B-6-005	主体的保育に移行1年目におけるミドルリーダーの意識と変化	名古屋市立大学	○ 安藤 香
P-B-6-006	保育記録にみる思考様式の分析と省察構造の質的検討	千葉明德短期大学	○ 小木曾 友則
P-B-6-007	「保育現場で働く男性保育者の現状と課題」について 質問紙調査の結果から	松蔭大学 育英幼稚園 育英幼稚園 東京家政大学 中九州短期大学 目白大学(非) 東京学芸大学(院)	○ 深谷 野 亜 河村 圭 河村 真理子 金城 悟 古野 愛子 斎藤 恵子 和田 奈々子
P-B-6-008	希薄化する地域関係の中で地域と子どもをつなぐ保育者の役割と課題	愛知学泉短期大学	○ 福井 千夏
P-B-6-009	熟達保育者の共主体的意識は1年間の保育を通じてどのように変容したのか	桜花学園大学	○ 上村 晶

P-B-7 保育専門職の養成など

5月16日(土) 16:30～17:30

ポスター会場

座長：橋本 勇人・阿南 寿美子

P-B-7-001	教育・保育実習を通じた言葉かけ指導の効果と学生の意識変容の検討	九州産業大学	○ 三原 詔子
P-B-7-002	保育者養成における模擬保育の意義—運動遊び実践での保育者役・観察者役・子ども役の経験を通して—	香川大学 京都女子大学	○ 藤元 恭子 大橋 奈希左
P-B-7-003	保育実習経験が学生の事故防止意識に与える影響の横断的分析	香川短期大学 鎌倉女子大学	○ 谷口 聖 浅井 拓久也
P-B-7-004	保育者養成における実習日誌に関する考察V—保育者の実習日誌指導の負担感と関連要因—	南九州大学 周南公立大学 西南女学院大学短期大学部 熊本学園大学 久留米大学 活水女子大学 西南女学院大学短期大学部 精華女子短期大学 長崎大学	○ 藤本 朋美 金子 幸 阿南 寿美子 上原 真幸 大谷 朝 島田 知和 末 嵩 雅美 古林 ゆり 脇 信明
P-B-7-005	保育者養成における実習日誌に関する考察VI—保育者が求める協働的な実習日誌指導のあり方—	周南公立大学 南九州大学 西南女学院大学短期大学部 熊本学園大学 久留米大学 活水女子大学 西南女学院大学短期大学部 精華女子短期大学 長崎大学	○ 金子 幸 藤本 朋美 阿南 寿美子 上原 真幸 大谷 朝 島田 知和 末 嵩 雅美 古林 ゆり 脇 信明
P-B-7-006	保育者養成校において「詩心」を醸成することの意味	淑徳大学 十文字学園女子大学	○ 桃枝 智子 金 允貞
P-B-7-007	保育者養成校の課題と可能性(1)—こども園における高校生と子どもとの出会いから—	作陽短期大学 作陽短期大学 作陽短期大学 くらしき作陽大学 作陽短期大学 くらしき作陽大学	○ 伊藤 美保子 山本 健志郎 古和 友子 中野 広大 藤井 伊津子 橋本 勇人
P-B-7-008	保育者による管理職への相談生起及びその影響プロセスの探索的検討	筑波大学 比治山大学 大阪総合保育大学 作新学院女子短期大学部	○ 松田 侑子 濱田 祥子 渡辺 俊太郎 設 楽 紗英子
P-B-7-009	幼稚園教育実習におけるヒヤリハット場面の現状と指導方法	東京未来大学 東京未来大学	○ 浅井 かおり 岩井 真澄

P-B-8 保育専門職の養成など

5月16日(土) 16:30～17:30

ポスター会場

座長：廣瀬真喜子・中村俊哉

P-B-8-001	保護者との交流会を経験した保育者を目指す学生の学び	中村学園大学	○野中千都
P-B-8-002	保育現場の実習における実行機能の個性	京都教育大学 沖縄女子短期大学	○田爪宏二 廣瀬真喜子
P-B-8-003	保育者養成課程における教材製作の現代的意義に関する一考察 —テキストスタイル素材を用いたアドベントカレンダーの製作を通して—	岡崎女子大学	○伊藤喬治
P-B-8-004	保育現場の魅力と課題、権利擁護に関する研究 —学生が保育実習を通して見た景色—	富山短期大学	○明柴聰史
P-B-8-005	保育所実習期間中の生活時間に関する研究	中村学園大学	○黒江絵里
P-B-8-006	オーストラリアの保育者養成課程から見る National Quality Framework	Victoria University 常葉大学	○中村春菜 中村俊哉
P-B-8-007	保育実習後の学生の変容にみる「指導法-環境」の理解	大和大学白鳳短期大学部 総合人間学科 こども教育専攻	○辻本有里恵
P-B-8-008	職業的同一性地位の違いが志望動機や保育士効力感に及ぼす影響	関西福祉大学	○大山摩希子
P-B-8-009	保育学生の職業意思決定の困難性に関する検討～CDDQ(職業意思決定の困難さ尺度)のメタ分析を通して～	千葉明德短期大学 東京家政学院大学	○郷家史芸 中田範子

P-B-9 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など

5月16日(土) 16:30～17:30

ポスター会場

座長：清水益治・岡村季光

P-B-9-001	地域子育て支援拠点事業の利用継続理由に及ぼす友人・知人の効果	奈良学園大学 仁愛大学 仁愛大学 あまのふたば会 名古屋柳城短期大学 関西学院短期大学 東大阪大学 関西学院短期大学 帝塚山大学	○ 岡村季光 森俊之 青井夕貴 中島一 成田朋子 碓氷ゆかり 吉岡眞知子 千葉武夫 清水益治
P-B-9-002	子育て支援に携わる特定非営利活動法人の自主事業に関する質問紙調査	大阪千代田短期大学	○ 鱒坂はるよ
P-B-9-003	ラーニング・ストーリー理論に基づく子育て支援講座の実践ーダウン症児保護者の育ちの捉え方に及ぼす影響ー	作新学院大学女子短期大学部 恵泉学園大学	○ 穴戸良子 丸橋亮子
P-B-9-004	乳児の非言語的表現に対する養育者の応答と信頼関係の萌芽		○ 菅原有香
P-B-9-005	地域子育て支援拠点事業の利用者の社会的居場所感に及ぼす利用のきっかけの効果	帝塚山大学 奈良学園大学 名古屋柳城短期大学 東大阪大学 関西学院短期大学 仁愛大学 あまのふたば会 関西学院短期大学 仁愛大学	○ 清水益治 岡村季光 成田朋子 吉岡眞知子 碓氷ゆかり 青井夕貴 中島一 千葉武夫 森俊之
P-B-9-006	社会資源の少ない自治体におけるのペアレント・トレーニングの役割と課題	釧路短期大学幼児教育学科	○ 小林麻如
P-B-9-007	孫育ての現状と課題(15) ー祖父の孫育てに対する意識ー	愛知みずほ短期大学 皇學館大学	○ 杉山佳菜子 小川真由子
P-B-9-008	孫育ての現状と課題(14) ー次世代保育者から見た祖父・祖母の孫育てー	皇學館大学 愛知みずほ短期大学 高田短期大学	○ 小川真由子 杉山佳菜子 榊原尉津子
P-B-9-009	社会的子育てを支える地域の子育て支援行動に関連する要因	東京未来大学 東海大学 高崎健康福祉大学	○ 藤後悦子 及川留美 野田敦史

P-B-10 児童福祉・児童の人権など、幼保一体化・幼保小連携など

5月16日(土) 16:30～17:30

ポスター会場

座長：藤 後 悦 子・菊 地 篤 子

P-B-10-001	保育現場における安全管理体制の一考察 —スクールバス事故を題材に検討—	八洲学園大学 千葉こども専門学校	○ 小 関 慶 太
P-B-10-002	社会的養護施設における職員の働きがいと魅力 に関する研究	名古屋芸術大学 岡崎女子大学 岐阜聖徳学園大学短期大学部	○ 吉 村 美由紀 吉 村 讓 藤 田 哲 也
P-B-10-003	就学前の子どもへの「子どもの権利」の伝達 —地方自治体が設置する子どもの権利擁護機関 の実践から—	名古屋市立大学 佛教大学	○ 谷 口 由希子 長 瀬 正 子
P-B-10-004	家庭参画を意識した幼保小接続教育の調査研究 1	静岡県立大学 こども教育宝仙大学	○ 菊 地 篤 子 宇佐美 かおる
P-B-10-005	「遊び」を媒介とした架け橋期の交流実践：偶発 性と日常性が育む小学校への意味づけ	山梨大学教育学部附属幼稚園 山梨大学	○ 泉 紗 恵 大 野 歩
P-B-10-006	15の島立ちに向けた幼保小の連携	東海大学 東京未来大学 高崎健康福祉大学	○ 及 川 留 美 藤 後 悦 子 野 田 敦 史
P-B-10-007	幼保小連携・接続における連続した学びへの提 案	帝京大学 帝京大学	○ 田 崎 教 子 阪 本 秀 典
P-B-10-008	架け橋期における他機関連携に関する管理職・ 担任の認識	桜花学園大学大学院	○ 日下部 笑

ポスター発表 C

P-C-1 教育計画・保育計画・指導計画・評価など、保育内容（保育内容総論・遊び）など

5月17日（日） 10:00～11:00

ポスター会場

座長：河 邊 貴 子・堀 建 治

P-C-1-001	2019 改訂ヌリ課程後の韓国の保育実践と評価	愛知淑徳大学 九州産業大学 九州大谷短期大学 九州産業大学 尾張旭市役所(ピンポンパン教室)	○ 吉 田 真 弓 清 水 陽 子 宮 地 あゆみ 諫 見 泰 彦 松 本 真理子
P-C-1-002	保育現場において子ども理解を支える対話型記録のはじまり	宮崎国際大学 宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園	○ 山 下 愛 実 新 名 里 美
P-C-1-003	「楽しさ」に関する基礎的研究（その14） －手遊びを中心に－	愛知東邦大学 愛知東邦大学 椋山女学園大学	○ 堀 建 治 松 本 亜香里 小 杉 裕 子
P-C-1-004	幼児はどのように遊び始めるのか －日常経験と社会的刺激の役割－	愛知教育大学	○ 石 原 綾 乃
P-C-1-005	「保育内容総論」における体験授業に関する学生の意識－幼稚園と連携した授業実践をもとに－	十文字学園女子大学	○ 曾 野 麻 紀
P-C-1-006	「劇」活動に対して子どもが主体的に取り組むプロセス－子どものすがたと保育者の指導の様子についての観察記録を基に－	大泉保育福祉専門学校	○ 根 本 朋 子
P-C-1-007	3歳児のごっこ遊びにおけるイメージの継続要因	東京学芸大学附属幼稚園	○ 丸 野 麻 里
P-C-1-008	持続可能な社会の創り手としての幼児を育む保育の在り方を求めて ～幼児期におけるSDGsの保育実践～	びわこ学院大学	○ 中 井 清津子
P-C-1-009	幼児クラスにおけるSTEAM保育の実践と非認知能力育成の可能性	社会福祉法人愛和会 なかよし保育園 社会福祉法人愛和会 なかよし保育園 社会福祉法人愛和会 なかよし保育園	○ 坂 本 美智子 植 田 拓 也 家 郷 恵美子
P-C-1-010	保育における「段差」の意味 －「ゆらぎ」の保育学構築を目指して－	白梅学園大学	○ 村 上 博 文
P-C-1-011	今だからこそ運動遊び	光徳保育園	○ 村 松 裕 平

P-C-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）

5月17日（日） 10:00～11:00

ポスター会場

座長：青木 一 永・森木 朋 佳

P-C-2-001	保育者養成校とこども園の協働による表現活動 の実践報告－養成校と保育現場の専門知による 音楽表現の協働モデル－	鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻 鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻	○ 大 迫 貴 森 木 朋 佳
P-C-2-002	保育現場における「劇あそび」の課題 －保育者の捉え方に着目して－	東京家政大学大学院人間生活学総合 研究科児童学児童教育学専攻	○ 田 代 梓
P-C-2-003	保育内容「健康」に関する研究動向と課題 －内容領域の偏りとその背景－	目白大学	○ 渡 辺 陽 介
P-C-2-004	「子どもカメラマン」の活動における子どものま なごしの軌跡～横断的写真分析から捉える環境 との関わりと発達的変容～	愛知学泉大学 愛知学泉大学	○ 伊 藤 久美子 田 村 佳 世
P-C-2-005	幼児と地域の人々が交流し触れ合う体験に関す る研究 －幼児教育施設における感染症との向き 合い方に着目した 2025 年度調査から－	東海大学	○ 天 野 美和子
P-C-2-006	子どもの音楽のとらえ方～ハーモニーに着目し て～	仁愛女子短期大学	○ 木 下 由 香
P-C-2-007	保育内容「言葉」の指導法における学生の保育 記述力を育む取り組みと課題	佐賀女子短期大学	○ 池 上 奈 摘
P-C-2-008	ノルウェー・イギリスの保育実践における音楽 教育の位置づけ～現地調査からの一考察～	郡山女子大学短期大学部 郡山女子大学短期大学部	○ 深 谷 悠里絵 柴 田 卓
P-C-2-009	「復刻版キンダーブック」にみる子どもと自然と のかかわり	江戸川大学	○ 旭 彩 希

P-C-3 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など

5月17日（日） 10:00～11:00

ポスター会場

座長：福 山 多江子・西 隆太郎

P-C-3-001	幼児の主体性が育まれる言葉がけに対する保育者の意識に関する研究	東京福祉大学大学院 通信教育課程 東京福祉大学大学院	○ 北 畠 香世子 戸 次 佳 子
P-C-3-002	幼児期の遊び「加減」の行為が育てる身体知（実践知）の研究（7）	東京成徳短期大学 東京成徳短期大学 板橋富士見幼稚園	○ 福 山 多江子 大 澤 洋 美 鍋 島 恵 美
P-C-3-003	幼児期の遊びに関する事例研究ー保育者の言葉がけと保育の展開	お茶の水女子大学 作陽短期大学	○ 西 隆太郎 伊 藤 美保子
P-C-3-004	スイッチ保育ではじめの一步を②～心のスイッチを入れて、切り替える子どもたち～	学校法人千葉学園 学校法人千葉学園 学校法人千葉学園	○ 大 西 智 花 島 慶 子 榎 谷 友紀子
P-C-3-005	異年齢保育におけるコーナー保育	葛飾こどもの園幼稚園 葛飾こどもの園幼稚園 葛飾こどもの園幼稚園 葛飾こどもの園幼稚園 千葉経済大学短期大学部	○ 吉 田 優 希 加 藤 美世子 小 出 馨 野 田 虹 花 浅 川 繭 子
P-C-3-006	協同的な活動から育まれる子どもの主体性について～子どもと保育者の相互的なかわりを通して～	札幌国際大学短期大学部 札幌国際大学短期大学部	○ 小 川 久 恵 田 村 めぐみ
P-C-3-007	預かり保育担当者とクラス担任の保育に関する意識の比較	駒沢女子短期大学 和泉短期大学 相模女子大学	○ 古 屋 真 松 山 洋 平 浅 見 佳 子
P-C-3-008	シュタイナー幼児教育における多様な実践形態の意義に関する考察	目白大学	○ 近 藤 千 草

P-C-4 保育環境・保育教材など

5月17日(日) 10:00～11:00

ポスター会場

座長：中 田 範 子・井 口 眞 美

P-C-4-001	保育士の捉える絵本の位置づけ ー保育所への実態調査を通してー	宇部フロンティア大学短期大学部 宇部フロンティア大学短期大学部	○ 重 村 美 帆 甘 麻 乃
P-C-4-002	保育環境における拠点性と幼児の夢中度に関する研究(2)：保育ドキュメンテーションの分析	千葉大学 宮城教育大学 國學院大學 東京家政学院大学 学校法人恵愛学園愛泉こども園	○ 駒 久美子 香曾我部 琢 島 田 由紀子 中 田 範 子 中 村 知 嗣
P-C-4-003	幼少期教育における紙芝居	東京未来大学	○ 橋 元 知 子
P-C-4-004	保育におけるパペットの力とパペットセラピーの可能性	尚綱学院大学	○ 東 義 也
P-C-4-005	森を活かす保育の教育的意義をめぐる保育者のまなざしー活用形態の異なる3園の語りからー	聖隷クリストファー大学 椛山女学園大学	○ 渡 邊 拓 真 磯 村 正 樹
P-C-4-006	保育施設における砂場遊びの水場配置による遊びへの影響 ー3歳児の遊び展開からみた環境構成の再考ー	姫路大学	○ 平 松 美由紀
P-C-4-007	保育環境が子どもと絵本との関わりに及ぼす影響の発達の検討	大阪教育大学	○ 金 谷 美 穂
P-C-4-008	小規模保育施設における3歳未満児の遊び環境に関する実態調査	大阪総合保育大学大学院	○ 安 藤 準 佑
P-C-4-009	保育者養成校におけるKAPLAの活用	実践女子大学	○ 井 口 眞 美

P-C-5 乳児保育（0.1.2 歳児保育）など、障害児保育・障害のある子どもを含む保育など

5月17日（日） 10:00～11:00

ポスター会場

座長：石倉卓子・向井美穂

P-C-5-001	0～2歳児に対する午睡時の言葉かけについて —年齢別傾向と保育者の意図の考察—	東京福祉大学短期大学部 創価大学 創価大学	○ 荒木 由紀子 戸田 大樹 岸 正寿
P-C-5-002	イタリアの『保育所保育指針』にみる保育哲学 (3) ピストイア市の保育における子ども間の協働と知の共有	十文字学園女子大学 元十文字学園女子大学 元十文字学園女子大学	○ 向井 美穂 上垣内 伸子 星 三和子
P-C-5-003	韓国の2024年改訂標準保育課程(0～2歳)の研究—領域「社会関係」の分析を中心に	十文字学園女子大学	○ 金 允貞
P-C-5-004	乳児クラス担当保育士が感じた困難さと課題	湊川短期大学 びわこ学院大学	○ 佐藤 奈美 南 雅則
P-C-5-005	1歳前後児の摂食に関わる行為と関わらない行為における保育者の援助の違いに関する研究	東京家政学院大学人間栄養学部人間栄養学科 東京家政学院大学人間栄養学部人間栄養学科	○ 田村 綾菜 酒井 治子
P-C-5-006	認定こども園における2歳児クラスから3歳児クラスへの進級に伴うクラス運営の変化について—1号園児、2号園児の生活時間の違いに着目して—	東京成徳大学	○ 中村 萌
P-C-5-007	インクルーシブな保育実践におけるICF-CYの活用⑩	東京家政大学・同短期大学部 文京学院大学	○ 石川 昌紀 茂井 万里絵
P-C-5-008	肢体不自由児を含む集団の保育における保育者の配慮—子どもたちの参加を促す保育場面での変更と調整—	桜花学園大学 インクルーシブおおぞら園	○ 小柳津 和博 野々山 貴
P-C-5-009	保育現場における障害児支援体制の現状と課題(2)～S県の実態調査より～	神崎市立ちよだ保育園	○ 坂元 美帆
P-C-5-010	フィンランドの早期教育のそだちの場とインクルーシブ保育—Raisio市のKindergartenへの視察と研究者へのインタビューから—	兵庫大学	○ 立本 千寿子
P-C-5-011	保育所等訪問支援にみる教育と福祉の支援構造と専門性—インクルーシブ教育を見据えて—	インクルーシブおおぞら園	○ 野々山 貴
P-C-5-012	保育者の語りにみるインクルーシブなまなざしの形成—重症心身障害児との関わりを通して—	富山国際大学 富山国際大学	○ 石倉 卓子 河崎 美香

P-C-6 児童文化・児童文化財など

5月17日(日) 10:00～11:00

ポスター会場

座長：花 輪 充・田 中 卓 也

P-C-6-001	地域に育つ子どもたち —野沢温泉村の保育者、保護者へのインタビューから—	聖心女子大学 聖心女子大学 東京藝術大学 玉川大学	○ 今 川 恭 子 杉 原 真 晃 市 川 恵 伊 原 小百合
P-C-6-002	保育者養成校における人形劇に関する授業の学びの振り返り～受講2年後のインタビュー調査による検討～	聖徳大学	○ 金 城 久美子
P-C-6-003	小学館および講談社の幼児教育雑誌の発刊と意義	育英大学	○ 田 中 卓 也
P-C-6-004	「妖怪なるもの」は子どもの心に何を育むのか —幼少期の儀礼的フィクション体験の語り直しから—	金城学院大学	○ 西 村 美 佳
P-C-6-005	遊びから創造へ。演出家関矢幸雄が目指した子どものための演劇とは	東京家政大学	○ 花 輪 充
P-C-6-006	保育学生の絵本の読み聞かせ実践とその学びに関する一考察 —保育実習後の質問紙調査に基づく質的分析—	富山短期大学 高松大学	○ 日 光 恵 利 川 口 めぐみ
P-C-6-007	「博多」の郷土玩具における児童文化的教育の探求	中村学園大学 中村学園大学	○ 田 中 るみこ 圓 入 智 仁
P-C-6-008	平面上の動的しかけを持つ絵本の乳幼児への有用性	日本女子体育大学	○ 並 木 真理子
P-C-6-009	音楽を伴ったパネルシアターに関する研究 —インクルーシブな保育における活動の検討—	名古屋市立大学大学院 人間文化研究科研究員	○ 溝 口 彩 子

P-C-7 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月17日(日) 10:00～11:00

ポスター会場

座長：田 甫 綾 野・片 岡 元 子

P-C-7-001	保育者が生き生きと働くために必要なこと	香川大学	○ 片 岡 元 子
P-C-7-002	保育現場の保育士における保育観と子どもへの関心	美作大学短期大学部	○ 樋 口 好 美
P-C-7-003	保育者一人ひとりの強みを生かすチーム保育につながる園内研修について (2) ～はまようオリジナル自己評価システム「学びシュラン®」～	鳴門教育大学 鳴門教育大学	○ 樋 口 詩 菜 佐々木 晃
P-C-7-004	保育の中で育ててほしいことは何か?ー保育者への年齢別調査から見たことー	日本福祉教育専門学校 聖学院みどり幼稚園	○ 岡 野 晶 子 金 谷 京 子
P-C-7-005	「保育施設職員の研修内容から保育の質向上の可能性を検討する」～1年間の研修受講内容と実践での活用法～	社会福祉法人榊園会レイモンド田無保育園 学校法人千葉学園	○ 花 原 真理子 花 島 慶 子
P-C-7-006	こどもの自己決定を保障する園組織の構造と課題	十文字学園女子大学 むくどりこども園 たいようこども園	○ 矢 野 景 子 舟 山 千 佳 山 下 博
P-C-7-007	ライフストーリーにみる男性保育者のアイデンティティの形成	玉川大学	○ 田 甫 綾 野
P-C-7-008	気になる子どもの援助要請行動を支える保育者の支援的関わり	学校法人七松学園 児童発達支援事業所ななつまつトレイン 兵庫教育大学大学院	○ 伊 藤 あゆみ
P-C-7-009	レジリエンスの様相にみる保育学生への支援の視座ー「日常生活スキル」と「発達特性困り感」による4類型の特徴分析からー	東京未来大学 保育・教職センター 東京未来大学 保育・教職センター	○ 北 濱 千枝子 浅 井 かおり

P-C-8 保育専門職の養成など

5月17日(日) 10:00～11:00

ポスター会場

座長：新井 美保子・岸川 良子

P-C-8-001	一般体育授業が育む『保育実践力』とは何か： 保育者コンピテンシー尺度の開発と信頼性・妥当性の検証	青森中央短期大学 筑波大学大学院 人間総合科学学術院 大学体育スポーツ高度化共同専攻	○ 鈴木 寛 康
P-C-8-002	保育所実習における育成支援型指導の理論的枠組みの検討ー実習指導者の自己評価尺度と役割行動の語り分析からー	名古屋短期大学	○ 嵐 田 弘 子
P-C-8-003	多様性尊重に基づく合理的配慮理解教育に関する研究 ー大学生を対象とした教育的介入の評価ー	フェリシアこども短期大学 武蔵野大学	○ 中 村 麻衣子 松 田 こずえ
P-C-8-004	保育実践を省察するらせん型授業展開	元聖セシリア女子短期大学 名古屋葵大学 国際学院埼玉短期大学	○ 仲 明 子 榊 原 剛 桐 原 由 美
P-C-8-005	絵本の読み聞かせのルーブリックの開発	郡山女子大学短期大学部	○ 佐々木 郁 子
P-C-8-006	幼稚園教育実習プログラムに関する研究(4) ー子ども主体の保育における実習プログラムの検討ー	修文大学 短期大学部 岡崎女子大学 名古屋学芸大学	○ 濱 口 実紗希 新 井 美保子 杉 江 栄 子
P-C-8-007	保育者養成校におけるピアノおよび弾き歌いに関する学生意識の変化 ー実習前後の比較ー	福岡こども短期大学 福岡こども短期大学 福岡こども短期大学	○ 岸 川 良 子 志 水 加奈絵 中 川 淳 一
P-C-8-008	保育の質に関する学生の意識の変容 ー1年次から3年次への縦断的検討ー	東京未来大学 東京未来大学	○ 岩 井 真 澄 北 濱 千枝子
P-C-8-009	保育士不足解消の取り組み(5) ー辞めたい気持ちと向き合った時ー	静岡福祉大学 静岡福祉大学 さくらママ	○ 永 田 恵実子 二 木 秀 幸 加 藤 真智子

P-C-9 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など

5月17日(日) 10:00～11:00

ポスター会場

座長：若月芳浩・小松歩

P-C-9-001	孫育ての現状と課題(13)－「孫育て手帳」に補足する思春期の孫との関わり－	高田短期大学 皇學館大学	○ 榊原 尉津子 小川 真由子
P-C-9-002	現代の子どもの生活技術に関する調査研究－鍵の開閉・蛇口の開閉・洗濯物を干す・袋を開ける－	NPO法人子ども研究所 NPO法人子ども研究所 横浜高等教育専門学校 松蔭大学 NPO法人子ども研究所 NPO法人子ども研究所 NPO法人子ども研究所	○ 高橋 弥生 室 矢 真弓 橋 本 樹 野 川 智子 藤 野 淳子 小 野 公子 野 口 智津子
P-C-9-003	0歳児をもつ父親の親育ちに関する研究～子育て講座後のアンケート分析を中心に～	至学館大学	○ 定 行 加保里
P-C-9-004	保育現場における絵本環境コーディネーターツールの開発研究Ⅱ－公式LINEを活用した「セレンの絵本棚」のシステム構築と運用方法－	白梅学園大学 城西国際大学	○ 仲 本 美 央 綿 貫 文 野
P-C-9-005	こども誰でも通園制度の自園での実施を保育者はどのように捉えているのか－試行的事業による担当保育者の語りの分析から－	幼保連携型認定こども園 やまなみ幼稚園	○ 田 中 文 昭
P-C-9-006	遊び体験と大人の遊び心	白鷗大学 白梅学園短期大学 フェリシアこども短期大学 白梅学園短期大学	○ 山 路 千 華 小 松 歩 金 田 利 子 瀧 口 優
P-C-9-007	子どもの多様な経験を支える産学連携の取り組み～キッズ・マルチアカデミーの実践より～	十文字学園女子大学 文教大学 十文字学園女子大学	○ 鈴 木 康 弘 宮 野 周 藪 崎 伸一郎
P-C-9-008	病児・病後児保育の見学	つくば国際短期大学	○ 桜 井 ますみ
P-C-9-009	子ども虐待予防のための子育て支援のあり方に関する一考察	白梅学園大学	○ 田 中 真 衣

P-C-10 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど

5月17日(日) 10:00～11:00

ポスター会場

座長：中 坪 史 典・伴 浩 美

- | | | | |
|------------|--|---------------|-----------|
| P-C-10-001 | A 保育園における多文化保育の一考察 | 名古屋柳城短期大学 | ○ 榊 原 菜々枝 |
| P-C-10-002 | 多文化共生の視点から見る日常保育の実践と保育者の関わり
一川崎市の認可保育園での取り組みを通して一 | 社会福祉法人檸檬会 | ○ 江 畑 順 子 |
| P-C-10-003 | 漫画 Peanuts を用いた公開講座の試み | 長岡大学 | ○ 伴 浩 美 |
| P-C-10-004 | エスニック・マイノリティのエンパワメントを保障するための乳幼児カリキュラム研究 | 桜美林大学 | ○ 爾 寛 明 |
| P-C-10-005 | ブラジル、セアラ州における幼保小連携の現状 | (特非)光の子どもたちの会 | ○ 鈴 木 真由美 |

ポスター発表 D

P-D-1 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）

5月17日（日） 14:00～15:00

ポスター会場

座長：三谷大紀・小杉裕子

P-D-1-001	保育における対話の場で生成される「問い」と保育者の構えに関する考察	東村山むさしの第二認定 こども園	○ 尾崎 絢子
P-D-1-002	音楽表現のための「作曲」に関する実践的研究	札幌国際大学短期大学部	○ 伊藤 桂子
P-D-1-003	保育系短期大学生の「表現」と「コミュニケーション」のとらえ方の意識変化－「保育内容－表現」の授業実践から－	高田短期大学 高田短期大学 高田短期大学	○ 亀澤 朋恵 福西 朋子 榊原 尉津子
P-D-1-004	美術教育におけるコミュニケーションの重要性	目白大学	○ おかもとみわこ
P-D-1-005	行事に向けた活動の中で育まれる子ども主体の表現活動－保育者との関係性の中で生まれる即興的な表現の事例から－	東京家政大学	○ 和田 靖子
P-D-1-006	子どもの表現と素材・環境との出会いについての一考察	福岡女子短期大学	○ 樋口 和美
P-D-1-007	保育士・教員養成課程における学生の歌唱技能の醸成に関する予備的考察	琉球大学	○ 持松 朋世
P-D-1-008	幼児の音楽的表現を引き出すには－学生が選ぶ絵本の教材意識について－	相山女学園大学 名古屋学院大学	○ 小杉 裕子 横井 志保

P-D-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）

5月17日（日） 14:00～15:00

ポスター会場

座長：田 爪 宏 二・大 森 雅 人

P-D-2-001	保育園における食育への取り組み ～クッキング保育に着目して～	学校法人国際学院 社会福祉法人誠心会 学校法人千葉学園	○ 上 原 典 子 大 野 智 子 花 島 慶 子
P-D-2-002	表現遊びを通して体験する音楽的要素	学校法人純真学園 埼玉純真短期大学	○ 眞 柄 絵 里
P-D-2-003	幼児教育における「科学的な探究」の扱いに関する比較と考察 – Te Whāriki、NGSS、および日本の幼稚園教育要領の記述に着目して–	神戸常盤大学	○ 大 森 雅 人
P-D-2-004	幼児の料理を作って味わう体験を通じた食の育ち～スイートポテトづくり行動・発話分析から～	東京家政学院大学	○ 酒 井 治 子
P-D-2-005	地域連携を通じた造形活動 – 祇園北地区・行燈絵制作を中心に–	京都女子大学 京都教育大学 熊本学園大学 京和幼稚園	○ 矢 野 真 田 爪 宏 二 吉 津 晶 子 矢ヶ部 奏 子
P-D-2-006	アコーディオンを活用した保育実践の可能性 – 戸外で遊ぶ子どもたちが楽器に出会う場面を通して–	千葉明德短期大学	○ 大 澤 ちづる
P-D-2-007	絵の具の色と感触が促す主体的な探究 – 5歳児の表現活動にみる「豊かな感性と表現」の萌芽–	大阪樟蔭女子大学	○ 丸 山 磨 美
P-D-2-008	保育者の音楽的感受性プログラム効果の検討 – 初任保育者を対象に–	武庫川女子大学大学院	○ 小 池 美知子
P-D-2-009	「表現」領域における多角的視点の涵養についての一考察 ～大学間および学部間の学生交流を目的とした造形ワークショップ等の取り組みから～	日本福祉大学 至学館大学	○ 江 村 和 彦 西 村 志 磨

P-D-3 保育環境・保育教材など

5月17日(日) 14:00～15:00

ポスター会場

座長：宮里 暁美・百瀬 ユカリ

P-D-3-001	実証実験「こども素材センター」の可能性① ～行政・企業・地域・教育の連携による素材循環モデル～	田園調布学園大学大学院 お茶の水女子大学	○ 宮里 耕太 宮里 暁美
P-D-3-002	実証実験「こども素材センター」の可能性② ～「ない」が「ある」に転じることの意味～	お茶の水女子大学 田園調布学園大学大学院	○ 宮里 暁美 宮里 耕太
P-D-3-003	STEAMの視点から探究心を育む自然を活かした保育実践	郡山女子大学短期大学部 仙台大学	○ 柴田 卓 柴田 千賀子
P-D-3-004	保育室環境の再構成プロセス	千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園	○ 小林 直実 田中 幸 井上 郁 斎藤 晶海 小原 啓樹
P-D-3-005	子ども同士のじゃれあいによるケガやヒヤリハットに関する保育者の経験	富山大学	○ 西館 有沙
P-D-3-006	おはなし会参加者の感想に基づくおはなし会の意義と学生指導への示唆	洗足こども短期大学 洗足こども短期大学	○ 岡本 かおり 坪井 葉子
P-D-3-007	幼児間における製作物の機能 — 「違い」を保持しながら多様な他者と共にいるための媒介として—	東京学芸大学教職大学院	○ 玉腰 碧
P-D-3-008	子育て支援センターにおける物的環境としてのコミュニケーションロボット導入の試み	日本女子体育大学	○ 百瀬 ユカリ
P-D-3-009	夏季猛暑下における保育施設の園庭環境と屋外活動の実態について	岡崎女子短期大学	○ 奥 蘭 知 明
P-D-3-010	人的環境が保育における相互作用に与える影響 — 保育者の語りから —	名寄市立大学保健福祉学部	○ 鹿嶋 桃子

P-D-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月17日(日) 14:00～15:00

ポスター会場

座長：實川 慎子・吉津 晶子

P-D-4-001	現役保育士における「保育士イメージ」について 4 - 保育士イメージは、保育士の成長・変化の様子を標榜する -	元京都文教大学	○ 柴田 長生
P-D-4-002	保育における保育者の行動規範の検討(2) 実践現場に内在する行動規範の分析から	日本社会事業大学 星の子保育園	○ 亀崎 美沙子 中西 淳也
P-D-4-003	遊びを発展させる即興性の検討 - 保育者のシンクロナイズドとナラティブを視点として -	岐阜聖徳学園大学	○ 西川 正晃
P-D-4-004	実習前における鍵盤楽器による伴奏の実践的な試み	びわこ学院大学短期大学部	○ 竹下 則子
P-D-4-005	ESD 評価スケール実施における保育者間の視点の差異 - 経験年数による検討	熊本学園大学 京都教育大学	○ 吉津 晶子 田爪 宏二
P-D-4-006	こどもの意見表明を支える保育者のケア倫理	華頂短期大学 華頂短期大学 華頂短期大学	○ 渋谷 郁子 山野 栄子 小島 佳子
P-D-4-007	対応が難しいと感じる子どもの行動と幼稚園教諭の心理的負担感との関連	横浜国立大学大学院	○ 池田 充里
P-D-4-008	乳児期の食事に焦点を当てた「食事の連絡帳」作成のプロセス	広島大学	○ 伊藤 優
P-D-4-009	保育カンファレンスにおける保育者の心の動きについて	中部学院大学短期大学部 うれしの東保育園	○ 西垣 直子 加藤 志保
P-D-4-010	保育者はなぜ腰痛になるのか(2) 保育中の保育者の意識について	植草学園大学 植草学園大学	○ 實川 慎子 窪谷 珠江

P-D-5 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月17日(日) 14:00～15:00

ポスター会場

座長：香曾我部 琢・打 越 みゆき

P-D-5-001	「子どもの権利」を意識した保育実践の試み —園内研修を受講した保育者の意識から—	千葉明德短期大学 幼保連携型認定こども園 むくどりこども園	○ 中 嶋 一 郎 舟 山 千 佳
P-D-5-002	保育施設における非管理職ミドルリーダーの多 方向ケア	千葉大学大学院	○ 前 田 恭 花
P-D-5-003	保育者養成における総合表現（子ども劇）の教 育的効果—TEM 図による卒業生インタビューの 分析から—	星美学園短期大学 星美学園短期大学 星美学園短期大学 星美学園短期大学	○ 打 越 みゆき 大 井 美 緒 中 島 千 恵 子 町 田 治
P-D-5-004	新人保育者が抱く困り感はどのように変容する のか（2）—複線径路・等至性モデル（TEM） による分析—	玉川大学大学院	○ 吉 岡 尊
P-D-5-005	未満児保育者間で高度な連携・協働ができてい る園って、どんなことしてるの？	帝塚山大学 宮城教育大学 大阪総合保育大学 兵庫教育大学	○ 永 井 久 美 子 香曾我部 琢 渡 辺 俊 太 郎 水 落 洋 志
P-D-5-006	長時間保育・延長保育における1歳児保育の困 難感	名古屋文化学園保育専門 学校	○ 川 合 真 由 美
P-D-5-007	保育者養成課程における子育て支援施設を活用 した教育方法Ⅱ	神戸常盤大学 神戸常盤大学 神戸常盤大学	○ 大 城 亜 水 中 西 利 恵 深 川 幹
P-D-5-008	園外研修と園内研修を接続する大学教員の役割 に関する実証的研究	小田原短期大学	○ 野 津 直 樹
P-D-5-009	保育者による保育内容の理解と評価Ⅶ —10の姿を基にした省察の方法を検討する—	東京家政大学 立正大学 愛隣幼稚園	○ 鈴 木 彬 子 高 橋 洋 行 浅 井 広
P-D-5-010	デジタル時代の保育実践とSNS活用：教育・広 報・倫理の視点からの文献レビュー	目白大学	○ 白 取 真 実

P-D-6 保育者の資質能力・保育者の専門性など

5月17日(日) 14:00～15:00

ポスター会場

座長：副 島 里 美・富貴田 智 子

- | | | | |
|-----------|--|--|---|
| P-D-6-001 | 乳児の探究心はどの瞬間に写るのかー保育者の写真選択に着目して | | ○ 新 家 智 子 |
| P-D-6-002 | 保育実習が学生の保育者効力感へ与える影響ー保育者効力感尺度を用いた先行研究のメタ分析より | 宮城教育大学
東北生活文化大学短期大学部
聖和学園短期大学
仙台青葉学院短期大学
宇都宮共和大学
福島大学 | ○ 香曾我部 琢
高 橋 恵 美
小森谷 一 郎
平 山 淑 希
小 野 貴 之
保木井 啓 史 |
| P-D-6-003 | 往還型研修によって中堅保育者はどのように変化するのか：研修前後のアンケートの分析から | 桜花学園大学大学院
一宮市役所保育課 | ○ 木 村 洋 子 |
| P-D-6-004 | 発達障害の特性を持つ保育者の調査～概要について～ | 長野短期大学 | ○ 副 島 里 美 |
| P-D-6-005 | 子どもの遊びをとらえるまなざし：継続研修から保育士は何をとらえたか | 名古屋芸術大学 | ○ 富貴田 智 子 |
| P-D-6-006 | 3歳児の好意を捉える保育者のありようの検討ー認定こども園におけるフィールドワークからー | 國學院大学 | ○ 西 山 萌 |
| P-D-6-007 | 保育者を志す学生の「子ども理解」に関する質的研究 | 柴田学園大学短期大学部 | ○ 高 橋 直 樹 |
| P-D-6-008 | 中堅保育者へのインタビューの可視化による「保育の質」の検討ー園規模の違いに着目してー | 愛知文教女子短期大学 | ○ 鈴 木 捺津美 |

P-D-7 保育専門職の養成など

5月17日(日) 14:00～15:00

ポスター会場

座長：ト 田 真一郎・藤 井 伊津子

P-D-7-001	保育者養成校における実習のふりかえりに関する一考察～ロールレタリングの手法を用いて～	福岡こども短期大学 福岡こども短期大学	○ 空 閑 ゆき子 秀 島 剛 徳
P-D-7-002	実習における指導案と保育実践のあり方について 2 一子どもの主体性の尊重とは一	新潟青陵大学短期大学部 新潟青陵大学短期大学部 新潟青陵大学短期大学部	○ 梨 本 竜 子 上 原 由 美 小 柳 桃 子
P-D-7-003	授業と連動した地域子育て支援活動1－カリキュラムと実践	和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学	○ 弓削田 綾 乃 星 野 美穂子 丸 谷 充 子 板 倉 香 子 三 島 秀 晃 池 谷 真梨子 北川(瀬尾)葉子
P-D-7-004	保育士不足解消の取り組み(6)－保育士と学生がコミュニケーションを深める遊び③－	静岡福祉大学 静岡福祉大学 さくらママ	○ 二 木 秀 幸 永 田 恵実子 加 藤 真智子
P-D-7-005	組織的表現創作活動の意義と新しい自己評価シートの評価(1)－「社会人基礎力(2006年)」に着目して－	豊岡短期大学 豊橋創造大学短期大学部	○ 佐々木 友 里 葛 谷 潔 昭
P-D-7-006	専門性向上を目指した保育現場との連携・協働による学生の学び(2)－“保育実践プロジェクト”における学生の経験内容の検討－	和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学	○ 矢 萩 恭 子 田 島 大 輔 小 山 朝 子 中 村 光 絵
P-D-7-007	保育学生のイメージする保育者像についての一考察－実習日誌を手がかりに－	清和大学短期大学部 清和大学短期大学部	○ 榎 本 真 美 中 西 綾 子
P-D-7-008	保育者養成校の課題と可能性(2)～高校生の子育て探究学習の試み～	作陽短期大学 くらしき作陽大学 作陽短期大学 作陽短期大学 作陽短期大学 くらしき作陽大学	○ 山 本 健志郎 中 野 広 大 古 和 友 子 藤 井 伊津子 伊 藤 美保子 橋 本 勇 人
P-D-7-009	ICTを活用したドキュメンテーション型実習日誌に関する研究	学校法人明泉学園 フェリシアこども短期大学 学校法人明泉学園 フェリシアこども短期大学 学校法人明泉学園 フェリシアこども短期大学 学校法人明泉学園 フェリシアこども短期大学 学校法人明泉学園 フェリシアこども短期大学	○ 赤 松 広 美 中 村 麻衣子 舟 生 直 美 織 壁 佐和子 石 見 容 子
P-D-7-010	養成校での学びの深化による保育学生の子どもの理解の視点の違い－砂場場面の遊びに着目して－	千葉大学大学院 千葉大学大学院 千葉大学 千葉大学	○ 佐土島 音 々 関 根 映 子 淀 川 裕 美 中 道 圭 人

P-D-8 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など

5月17日(日) 14:00～15:00

ポスター会場

座長：高橋 弥生・小崎 恭弘

P-D-8-001	生活技術の家庭での指導に関する調査研究Ⅱ	横浜高等教育専門学校 NPO法人 子ども研究所 松蔭大学 NPO法人 子ども研究所	○ 橋本 樹 高橋 弥生 大沢 裕 飯塚 広美
P-D-8-002	地域の資源を活用した保育実践 ーさかな丸ごと食育の取り組みー	東北生活文化大学短期大 学部	○ 高橋 恵美
P-D-8-003	大学における親子関係支援のための講座の意義 に関する研究 ー参加者アンケートの結果による一考察ー	奈良学園大学 奈良学園大学 奈良学園大学 奈良学園大学 高野山大学	○ 高橋 千香子 石原 由貴子 高岡 昌子 服部 律子 善野 八千子
P-D-8-004	大学等が取り組む子育て支援活動の実施状況と その概要について	九州女子短期大学 福岡県立大学大学院	○ 宮嶋 晴子 能美 佳奈
P-D-8-005	父親支援マニュアルの子育て支援への援用につ いて	大阪教育大学	○ 小崎 恭弘
P-D-8-006	若手保育者が抱える保護者支援・子育て支援の 現状と課題～インタビュー調査を参考に～	九州ルーテル学院大学	○ 香崎 智郁代
P-D-8-007	保育者による精神疾患等がある保護者への支援 について	帝京大学	○ 佐々木 沙和子
P-D-8-008	親子で野外活動を行うことによって親子の変容 についてⅡ ー乳幼児期の子どもと保護者の野 外活動を通してー	千里金蘭大学	○ 中根 佳江
P-D-8-009	保育者の保護者支援観の構成に関する探索的検 討ー先行研究と自由記述の分析を通してー	東京家政大学 子ども支 援学部	○ 平石 実奈子
P-D-8-010	音楽を使った子育て支援活動の比較 ー人形劇を手がかりにー	明石市立明石養護学校	○ 田中 万紀

P-D-9 保育マネジメントなど

5月17日(日) 14:00～15:00

ポスター会場

座長：瀧川光治・松山洋平

P-D-9-001	教育・保育の質向上のための管理職のリーダーシップに関する実証的研究	生田ひまわり幼稚園 創価大学 創価大学(非) 白梅大学大学院	○ 岸 正 寿 戸 田 大 樹 佐久間 良 恵 後 藤 叶 南 荒 木 由 紀 子
P-D-9-002	保育者の労働の実態と満足度：2023年の全国調査より	日本体育大学	○ 若 尾 良 徳
P-D-9-003	専門職人材の採用における法的安全性と心理的安全性（採用を巡る人事管理） ー日本版DBSの方向性とともー	職業教育研究開発センター	○ 笹 本 良 行
P-D-9-004	「やってみるか」から広がった教育的ドキュメンテーションの実践 ～ミドルリーダーと現場保育者の協働～	(福)聖愛学舎もみの木保育園太子堂	○ 小 栗 由 樹
P-D-9-005	保育者の勤務園に対する所属感と仕事に対する認識、同僚性や支援体制に関する分析ー勤務年数1～7年目の保育者への質問紙調査からー	千葉大学大学院 千葉大学	○ 谷 口 真 紀 淀 川 裕 美
P-D-9-006	保育者の継続的就業を支える機能的マネジメントに関する研究（その3）	長野県立大学 関西学院短期大学	○ 渡 邊 望 小 山 顕
P-D-9-007	往還型園長研修を通じた園内の保育実践と保育者意識の変容について	和泉短期大学 相模女子大学	○ 松 山 洋 平 浅 見 佳 子
P-D-9-008	ストライキの予兆と回避：A園（フランス）の事例から	奈良県立大学	○ 木 下 裕 美 子
P-D-9-009	保育現場のチームで保育する意識と心理的安全性の関連性の概念整理ー先行研究や文献調査を踏まえてー	大阪総合保育大学大学院 大阪総合保育大学	○ 西 中 直 子 瀧 川 光 治
P-D-9-010	幼児の生活場面における不安全行動の認識とリスクマネジメントの方向性	鹿児島大学	○ 金 娟 鏡
P-D-9-011	マネジメント戦略の立案と実践	檀原市立白檀幼稚園	○ 坪 井 順 子
P-D-9-012	保育者が「やりがい」をもって働くための要因とは ー保育者へのアンケート調査に基づいた分析ー	清和大学短期大学部 清和大学短期大学部	○ 中 島 緑 後 藤 紗 織

6. 人名索引

人名索引

A-Z

Dahlberg Gunilla J-G-1
 Elfström Ingela J-G-1
 Halvars Bodil J-G-1
 Gunilla Dahlberg 国際シンポジウム
 NelsonNarda J-G-1
 Pacini-Ketchabaw J-G-1
 Veronica
 Smith Teresa J-G-1
 Veronica Pacini- 国際シンポジウム
 Ketchabaw

あ

相沢 和恵 K-B-3-004
 相澤 京子 K-G-2-006
 相原絵利那 K-D-3-005
 青井 郁美 K-D-2-002
 青井 夕貴 P-B-9-001
 P-B-9-005
 青木 一永 J-G-11
 国際シンポジウム
 青木 隆男 J-B-5
 青木美智子 J-D-9
 青木 雄子 P-A-7-003
 青山 昌子 P-A-5-004
 P-B-5-006
 青山 優子 J-E-9
 赤川 陽子 K-A-2-003
 赤木 和重 J-E-5
 赤倉 健 J-G-9
 赤津 裕子 K-E-2-005
 赤松 広美 P-D-7-009
 秋田喜代美 J-C-2
 K-A-4-006
 メイン・シンポジウム
 上石 恭太 J-G-9
 明柴 聰史 P-A-8-008
 P-B-8-004
 浅井かおり P-A-4-005
 P-B-7-009
 P-C-7-009
 浅井 和毅 P-A-8-005
 浅井 幸子 J-G-1
 K-D-1-005
 メイン・シンポジウム

浅井拓久也 P-B-7-003
 浅井 広 P-D-5-009
 浅香 総彦 J-F-7
 浅川 茂実 K-B-3-004
 浅川 繭子 P-C-3-005
 浅野 卓司 K-D-4-005
 浅野菜津子 P-B-3-005
 旭 彩希 P-A-6-004
 P-C-2-010
 浅見 優哉 J-G-3
 浅見 佳子 K-G-1-003
 P-C-3-007
 P-D-9-007
 朝元 尊 J-D-4
 鯨坂はるよ P-B-9-002
 安達 祐亮 P-A-4-006
 阿南寿美子 P-B-7-004
 P-B-7-005
 油川さゆり J-E-2
 阿部 明恵 J-B-3
 阿部 和子 K-E-1-001
 K-G-1-001
 安部 永 P-A-7-008
 P-B-4-003
 企画シンポジウム2
 天井 響子 J-C-7
 天野 諭 P-C-2-005
 天野美和子 P-B-3-006
 網島 大輔 K-A-4-002
 網 弥生 P-B-6-003
 新井 貴子 P-C-8-006
 新井美保子 K-B-1-005
 荒井 梨菜 K-A-2-004
 荒尾 貞一 P-A-2-008
 荒木 裕子 P-A-6-002
 荒木由紀子 P-C-5-001
 P-D-9-001
 アリソンクラーク J-C-2
 有村さやか K-E-3-004
 安藤 香 P-B-6-005
 安藤 浩太 K-C-1-002
 安藤 準佑 P-C-4-008
 安藤 美緒 P-A-4-006
 安藤みゆき J-C-9
 安納 香哉 K-C-5-005

国際シンポジウム

い

飯田 綾 P-B-4-004
 飯塚 広美 P-D-8-001
 井内 聖 課題研究委員会シンポジウム
 家郷恵美子 P-C-1-009
 五十嵐紗織 K-D-1-004
 伊川 千晶 J-G-5
 井口 眞美 P-C-4-009
 池上 奈摘 P-C-2-007
 池谷 潤子 P-B-5-001
 池田 充里 P-D-4-007
 池田 三鈴 J-E-3
 池田 美穂 J-C-1
 池田 幸代 J-B-4
 池谷真梨子 K-D-2-004
 P-A-6-007
 P-D-7-003
 諫見 泰彦 P-C-1-001
 伊澤こずえ J-C-1
 石井 章仁 J-F-4
 石井久美子 P-A-7-010
 石川かおる K-C-1-001
 石川 徹 J-C-7
 K-A-2-005
 石川 昌紀 P-C-5-007
 石川 幸枝 J-D-7
 石倉 卓子 P-C-5-012
 石沢 順子 K-B-2-002
 K-B-2-004
 石島このみ J-E-2
 石田 佳織 K-G-2-004
 石野 秀明 P-A-3-007
 石濱 丈司 J-A-4
 石原 綾乃 P-C-1-004
 石原由貴子 K-D-5-003
 P-B-3-007
 P-D-8-003
 石丸 るみ J-B-8
 石山 幸恵 J-C-5
 泉 紗恵 P-B-10-005
 石動 瑞代 P-A-4-004
 伊勢 慎 P-A-4-009
 P-A-5-007
 P-B-4-002
 磯村 正樹 P-C-4-005
 板倉 香子 K-B-1-003

P-A-6-007
 P-D-7-003
 市川ちさと J-C-1
 市川 恵 P-C-6-001
 市野 繁子 J-G-3
 井手 裕子 P-A-4-009
 P-A-5-007
 P-B-4-002
 伊藤あゆみ P-C-7-008
 伊藤久美子 P-A-7-004
 P-C-2-004
 伊藤 桂子 P-D-1-002
 伊藤 喬治 P-B-8-003
 伊藤 貴大 J-B-5
 伊藤 直 P-A-2-006
 伊藤美保子 P-B-7-007
 P-C-3-003
 P-D-7-008
 伊藤 優 P-D-4-008
 伊藤 理絵 J-E-4
 伊藤 路香 K-F-4-002
 怡土ゆき絵 K-G-3-003
 稲井 智義 P-A-1-002
 稲葉いぶき J-E-7
 犬塚 典子 J-B-2
 井上 郁 P-D-3-004
 井上 果子 K-F-4-001
 井上 聖子 K-G-3-005
 井上 知香 J-B-7
 井上 寿美 J-E-6
 井上美智子 P-A-2-002
 P-B-2-002
 井上裕美子 K-E-1-001
 伊能 恵子 K-C-4-003
 猪熊 弘子 J-F-2
 P-B-1-002
 猪原 貴子 J-B-2
 伊原小百合 J-B-1
 P-B-3-009
 P-C-6-001
 今泉 良一 J-E-3
 今川 恭子 J-B-1
 P-C-6-001
 今西 幸代 J-A-8
 今村 麻子 P-A-6-004
 井村 礼恵 K-E-1-003
 K-G-2-002
 入江 輝 P-A-3-010
 岩井 真澄 P-B-7-009
 P-C-8-008
 岩倉 政城 K-A-2-004

岩佐 明子 K-E-4-002
 岩崎 桂子 P-A-2-005
 岩狭 匡志 J-D-7
 岩田 恵子 J-C-6
 岩田 遵子 K-A-4-003
 K-A-4-004
 岩田 千晶 J-B-2
 岩田 美保 P-B-1-006
 岩野芽衣花 P-A-4-006
 石見 容子 P-B-5-003
 P-D-7-009
 岩本 哲也 K-A-6-002
 K-C-3-002
 井辺 和杜 J-C-7

う

植田 拓也 P-C-1-009
 上田 敏丈 J-G-11
 編集常任委員会シンポジウム
 上田よう子 P-A-7-003
 上原 典子 P-D-2-001
 上原 真幸 J-D-2
 P-B-7-004
 P-B-7-005
 上原 由美 K-A-3-001
 P-D-7-002
 植松 勝子 P-A-6-008
 上村 晶 P-B-6-009
 植村 和彦 K-E-4-001
 植村 朋弘 J-B-6
 宇梶 達也 企画シンポジウム3
 鵜川 陽子 P-A-7-005
 請川 滋大 J-G-9
 K-C-5-005
 宇佐美かおる P-B-10-004
 宇佐美純代 K-E-1-001
 碓氷ゆかり P-B-9-001
 P-B-9-005
 打越みゆき P-D-5-003
 内田 千春 J-G-4
 K-F-5-003
 内村真奈美 K-E-1-001
 内山伊知郎 J-E-9
 内海 緒香 J-D-8
 生越 雅志 P-B-1-004
 P-B-1-005
 海野 展由 J-F-5

え

越中 康治 K-B-1-004
 榎田小百合 K-E-1-001
 榎谷友紀子 P-C-3-004
 榎本 真美 J-C-6
 P-D-7-007
 江畑 順子 P-C-10-002
 江村 和彦 P-D-2-009
 遠藤 愛 P-A-3-001
 遠藤 利彦 メイン・シンポジウム
 圓入 智仁 P-C-6-007

お

及川 智博 J-C-7
 及川 留美 P-B-9-009
 P-B-10-006
 王 ギョク J-G-8
 大井 美緒 K-F-4-002
 P-D-5-003
 大方 美香 J-B-8
 大金 保穂 K-C-4-001
 大久保圭介 J-G-8
 大久保 舞 K-A-6-002
 K-C-3-002
 大迫 貴 P-C-2-001
 大澤 香織 J-F-1
 大澤ちづる P-D-2-006
 大沢 裕 P-D-8-001
 大澤 洋美 J-D-3
 P-C-3-002
 大城 亜水 P-D-5-007
 太田 顕子 K-B-3-004
 太田 茂行 J-A-2
 太田 直樹 K-G-1-005
 大谷 朝 P-B-7-004
 P-B-7-005
 大谷 忠 J-D-6
 太田 素子 K-D-1-002
 大塚 紫乃 J-F-7
 K-E-3-002
 大西 智 P-C-3-004
 大貫 麻美 K-B-2-004
 K-B-2-005
 大野 歩 K-C-5-002
 P-B-10-005
 大野 智子 P-D-2-001
 大橋奈希左 P-B-7-002
 大豆生田啓友 J-E-1
 P-A-5-002

P-C-5-001
 P-D-9-001
 木曾 陽子 K-F-3-002
 K-G-4-002
 K-G-4-003
 北川 葉子 P-A-6-007
 北川(瀬尾)葉子 P-D-7-003
 北澤 明子 J-D-6
 北島 孝通 J-G-11
 木田 千晶 P-B-6-002
 北畠香世子 P-C-3-001
 北濱千枝子 P-C-7-009
 P-C-8-008
 木下 育子 K-B-1-005
 木下 考司 J-A-4
 木下 由香 P-C-2-006
 木下裕美子 P-D-9-008
 木原 圭 J-B-6
 金 仙玉 P-A-3-004
 金 珉呈 J-D-2
 金 允貞 P-B-7-006
 P-C-5-003
 金 娟鏡 P-D-9-010
 木村 治郎 J-B-7
 木村 直子 J-D-3
 K-A-2-003
 K-B-1-001
 木村 奈々 K-D-3-001
 木村 創 J-G-9
 木村由紀恵 K-B-4-004
 木村 洋子 P-D-6-003
 刑部 育子 J-D-8
 清重 めい J-A-1
 桐川 敦子 K-E-5-002
 桐原 由美 P-C-8-004
 金城久美子 J-G-3
 K-D-3-004
 P-C-6-002
 金城 悟 K-A-5-003
 K-D-3-004
 P-B-6-007

<

空閑ゆき子 P-D-7-001
 日下部 笑 P-B-10-008
 楠見 友輔 J-G-10
 楠本 洋子 P-A-8-007
 葛谷 潔昭 P-A-6-005
 P-D-7-005
 久保 健太 J-A-7

久保田健一郎 K-C-4-004
 久保田真規子 K-B-4-004
 窪谷 珠江 P-A-4-002
 P-D-4-010
 久保山茂樹 J-C-3
 熊上 藤子 K-G-3-003
 P-A-3-003
 熊田 凡子 J-F-5
 栗栖 朱里 J-E-7
 久留島太郎 J-E-4
 黒江 絵里 P-B-8-005
 郡司 明子 J-B-6

こ

小池はるか P-A-7-009
 小池美知子 P-D-2-008
 小坂美奈子 K-C-4-002
 小出 馨 P-C-3-005
 甲賀 崇史 K-B-3-003
 郷家 史芸 P-B-8-009
 香崎智郁代 P-D-8-006
 香曾我部琢 J-D-5

P-C-4-002
 P-D-5-005
 P-D-6-002
 国府田はるか K-B-5-003
 古賀 松香 J-G-7
 古賀 萌子 P-B-5-005
 小木曾友則 P-B-6-006
 小木曾隼人 K-C-5-001
 小久保圭一郎 K-D-5-003
 K-E-5-002

小崎 恭弘 J-G-8
 P-D-8-005
 小島千恵子 K-D-4-005
 児嶋 輝美 P-B-4-007
 小島 佳子 P-D-4-006
 小杉 裕子 P-C-1-003
 P-D-1-008

P-B-10-001
 小谷 正登 K-D-4-004
 小玉 重夫 企画シンポジウム3
 児玉 理紗 P-B-6-001
 小玉 亮子 J-G-1

後藤 叶南 P-A-6-002
 P-D-9-001
 後藤 紗織 P-A-5-008
 P-D-9-012
 後藤 由美 P-A-7-004
 古野 愛子 K-A-5-003

P-B-6-007
 小林さゆり K-B-3-001
 小林 純平 J-G-6
 小林 祥子 K-C-1-003
 小林 千紘 J-F-8
 小林 直実 P-D-3-004
 小林 麻如 P-B-9-006
 小林みどり P-A-5-005
 小林 洋子 K-A-4-005
 小原 啓樹 P-D-3-004
 駒 久美子 P-A-2-007
 P-A-3-008
 P-C-4-002

小松 歩 P-C-9-006
 小松 和佳 K-A-3-002
 小森谷一郎 P-D-6-002
 小山 朝子 P-D-7-006
 小屋 美香 J-E-2
 古和 友子 P-B-7-007
 P-D-7-008
 権田ゆきの K-F-3-003
 近藤 千草 P-C-3-008

さ

才賀 敬 J-E-3
 斎藤 晶海 P-D-3-004
 斎藤 恵子 K-A-5-003
 斎藤 恵子 P-B-6-007
 佐伯 岳春 P-A-7-008
 P-B-4-003

坂井 克行 J-B-2
 酒井 治子 P-C-5-005
 P-D-2-004

境 佑二 J-F-7
 榊原尉津子 P-B-9-008
 P-C-9-001
 P-D-1-003

榊原 剛 P-C-8-004
 榊原 知美 J-D-1
 榊原菜々枝 P-C-10-001
 榊原 美帆 J-C-6
 坂田 哲人 K-G-1-001
 坂田 紘子 K-A-6-002
 K-C-3-002

坂平 真弓 J-E-2
 阪本 秀典 P-B-10-007
 坂本 真季 P-A-3-001
 坂本美智子 P-C-1-009
 阪本 満 K-G-1-004
 坂元 美帆 P-C-5-009

相樂真樹子 K-C-2-001
 佐川早季子 J-B-9
 佐久間良恵 P-A-6-002
 P-D-9-001
 桜井ますみ P-C-9-008
 佐々木 晃 J-D-3
 K-A-6-003
 P-C-7-003
 佐々木麻美 J-G-7
 佐々木郁子 P-C-8-005
 佐々木沙和子 P-D-8-007
 佐々木優美 K-E-2-002
 佐々木由美子 K-C-1-001
 K-G-2-006
 佐々木友里 P-D-7-005
 笹本 良行 P-D-9-003
 佐治由美子 J-A-2
 定行加保里 P-C-9-003
 佐藤 賢輔 企画シンポジウム1
 佐藤 聡子 J-E-7
 佐藤 純子 P-A-8-001
 佐藤 千晶 K-E-4-003
 佐藤 朝美 J-A-5
 佐藤 那美 K-F-2-004
 佐藤 奈美 P-C-5-004
 佐藤 浩代 J-F-5
 K-C-2-004
 佐藤 恵 P-A-1-004
 佐藤 康富 K-D-5-005
 佐土島音々 P-D-7-010
 佐野真一郎 P-A-6-005
 佐野 美奈 P-B-2-001
 佐柳 信男 J-F-6
 澤田 優子 P-A-2-003

し

塩崎 美穂 J-E-5
 塩路 晶子 J-D-3
 汐見 和恵 J-C-5
 茂井万里絵 P-C-5-007
 地下まゆみ P-A-2-002
 重村 美帆 P-C-4-001
 穴戸佳央理 K-D-4-001
 穴戸 和博 K-F-4-005
 穴戸 良子 P-B-9-003
 設楽紗英子 P-B-7-008
 實川 慎子 P-A-4-002
 P-D-4-010
 品川ひろみ K-D-4-003
 司馬 政一 J-F-2

柴田 卓 K-F-1-002
 P-C-2-008
 P-D-3-003
 柴田千賀子 K-F-1-002
 P-D-3-003
 柴田 長生 P-D-4-001
 芝山 裕子 J-B-2
 渋谷 郁子 P-D-4-006
 島田 知和 P-B-7-004
 P-B-7-005
 嶋田 弘子 P-C-8-002
 島田由紀子 P-A-2-007
 P-C-4-002
 嶋田 容子 K-F-2-003
 清水 悦子 K-F-2-002
 志水加奈絵 P-C-8-007
 清水 憲志 K-A-5-005
 清水 益治 P-B-9-001
 P-B-9-005
 清水 陽子 P-C-1-001
 下里 里枝 P-A-3-007
 下平なをみ J-C-4
 城倉登代子 K-B-3-004
 白石 仁美 K-C-4-005
 白石 淑江 J-A-3
 白井 真里 K-E-2-005
 白取 真実 J-B-5
 P-D-5-010
 新保 雄希 J-F-7
 新家 智子 P-D-6-001
 新屋 裕太 企画シンポジウム1

す

水津 幸恵 J-A-7
 末寄 雅美 P-B-7-004
 P-B-7-005
 末次絵里子 K-F-2-001
 末次 有加 J-F-3
 菅原 有香 P-B-9-004
 杉江 栄子 P-C-8-006
 杉崎 雅子 K-B-3-004
 杉原 真晃 P-C-6-001
 杉本 一久 K-E-1-004
 杉本 圭隆 J-C-8
 杉山佳菜子 P-A-3-004
 P-B-9-007
 P-B-9-008
 杉山沙旺美 J-D-8
 K-A-3-004
 杉山 和 J-A-3

杉山 祐子 P-A-6-008
 P-A-7-007
 助川 夏菜 J-C-9
 鈴木 彬子 P-D-5-009
 鈴木 敦子 K-C-5-004
 鈴木久米男 K-F-4-005
 鈴木 光海 J-F-6
 鈴木 幸子 P-B-5-006
 鈴木 順子 P-A-8-004
 鈴木 翔太 K-F-4-005
 鈴木捺津美 P-D-6-008
 鈴木 範之 P-A-6-009
 鈴木 寛康 P-C-8-001
 鈴木真由美 P-C-10-005
 鈴木 まり K-A-4-003
 K-A-4-004
 鈴木美枝子 企画シンポジウム1
 鈴木美枝子 K-C-3-004
 鈴木 芽衣 J-C-6
 鈴木 康弘 P-C-9-007
 鈴木 裕子 P-B-6-002

せ

関口はつ江 P-B-1-004
 P-B-1-005
 関口 茉莉 K-A-1-003
 関根 映子 P-D-7-010
 瀬戸尾和紀 P-A-5-004
 瀬沼 幹太 J-F-2
 瀬山さと子 J-C-3
 仙田 考 J-C-3
 善野八千子 P-D-8-003

そ

相馬 靖明 J-G-10
 K-E-1-002
 副島 里美 J-C-1
 P-D-6-004
 園田あすか J-F-8
 爾 寛明 J-G-6
 P-C-10-004
 曾野 麻紀 P-C-1-005
 染井順一郎 J-B-7

た

ダーリンブル親子 J-G-7
 K-A-5-006
 高岩 恭子 K-F-4-001

高岡 純子	J-G-8	田島 美帆	J-F-1
高岡 昌子	P-B-3-007		K-C-2-005
	P-D-8-003	田代 梓	P-C-2-002
高岸 益子	J-E-6	立花 直樹	P-A-8-008
高口 知浩	P-A-4-009	田爪 宏二	P-B-8-002
	P-A-5-007		P-D-2-005
	P-B-4-002		P-D-4-005
高久 結衣	K-D-3-002	立本千寿子	P-C-5-010
多賀巖太郎	メイン・シンポジウム	田中 彩	P-A-3-010
高櫻 綾子	K-D-5-001	田中 謙	J-B-4
高嶋 景子	J-E-1		K-A-6-004
	P-A-5-002	田中 健介	J-C-6
高杉 洋史	P-A-2-001	田中 浩司	J-D-1
高杉美稚子	P-A-2-001	田中 沙織	K-F-1-005
高田 文子	K-F-5-001	田中 卓也	J-G-3
	K-F-5-002		P-A-6-002
高根沢康浩	J-B-4		P-C-6-003
高野 史朗	J-B-9	田中 千晶	K-F-1-005
高橋亜希子	J-C-4	田中 敏明	K-A-1-002
高橋 恵美	P-D-6-002	田中 浩之	J-G-3
	P-D-8-002	田中 文昭	P-B-3-001
高橋 健司	P-A-4-003		P-C-9-005
高橋千香子	P-D-8-003	田中 真衣	P-C-9-009
高橋 直樹	P-D-6-007	田中 万紀	P-D-8-010
高橋 広美	P-B-5-007	田中 路	J-G-3
高橋 学	J-G-2	田中 幸	P-D-3-004
高橋 弥生	J-B-5		編集常任委員会シンポジウム
	P-C-9-002	田中るみこ	P-C-6-007
	P-D-8-001	谷口 祥子	K-A-4-003
高橋 陽子	J-G-7		K-A-4-004
高橋 洋行	P-D-5-009	谷口 聖	P-B-7-003
高村 真希	J-F-7	谷口 真紀	P-D-9-005
高良 美香	J-E-9	谷口 征子	K-F-5-005
瀧川 光治	P-D-9-009	谷口由希子	P-B-10-003
瀧川 直樹	J-G-2	谷口 理恵	K-E-1-001
滝口 圭子	J-A-8	谷戸 諒太	J-F-9
	P-B-2-007	種村 暁也	K-D-4-002
瀧口 優	P-C-9-006		K-F-3-004
滝沢ほだか	P-A-6-003	梶 瑞希子	J-G-1
田口賢太郎	P-A-1-007		K-D-1-005
竹内あゆみ	P-A-1-001	玉城美千子	K-B-4-005
竹内日登美	P-A-6-001	玉腰 碧	P-D-3-007
竹澤 宏美	J-G-2	玉瀬 友美	P-A-6-001
竹下 則子	P-D-4-004	田村 綾菜	P-C-5-005
武田 健	K-A-2-004	田村 郁	J-G-5
竹田 恵	K-G-2-001	田村 和子	K-F-4-001
竹森 亜美	P-A-3-001	田村 佳世	P-A-7-004
田崎 教子	P-B-10-007		P-C-2-004
田島 大輔	J-G-10	田村めぐみ	P-C-3-006
	K-C-3-005	田村 優子	J-F-8
	P-D-7-006	田甫 綾野	P-C-7-007

ち

千葉 慎也	P-A-8-002
千葉 武夫	P-B-9-001
	P-B-9-005
千葉千恵美	J-C-9
張 貞京	P-B-4-006
丁子かおる	P-B-3-001
	P-B-3-003

つ

塚越亜希子	K-C-5-003
津金美智子	J-C-1
辻岡 美希	K-D-4-001
辻谷真知子	J-A-6
辻本有里恵	P-B-8-007
恒川 丹	K-G-3-004
坪井 順子	P-D-9-011
坪井 葉子	P-D-3-007
鶴田 智子	J-B-3
鶴 宏史	K-G-4-002
	K-G-4-003
鶴巻 直子	J-F-3
	K-B-3-001

て

勅使 千鶴	J-D-2
寺見 陽子	K-D-2-006
天願 順優	J-C-7
	K-D-1-003

と

藤後 悦子	P-B-9-009
	P-B-10-006
時田 詠子	K-C-5-003
徳田 克己	P-A-8-003
	P-A-8-006
徳留 由貴	K-A-3-005
徳野 慎一	企画シンポジウム 3
戸田 大樹	P-A-6-002
	P-C-5-001
	P-D-9-001
戸田 雅美	J-A-2
	課題研究委員会シンポジウム
土橋久美子	K-B-2-002
泊 明希佳	J-G-3
富田 純喜	P-A-1-007
友國 花南	P-B-3-004

友永 良子	P-A-6-008		P-D-5-007	二木 秀幸	P-C-8-009
	P-A-7-007	中根 佳江	P-D-8-008		P-D-7-004
豊田 泉	J-G-6	中野 広大	P-B-7-007	西海 聡子	K-D-1-001
豊田 一秀	J-A-2		P-D-7-008		P-B-4-007
鳥海 弘子	P-A-4-005	中野 晋	K-E-5-003	西垣 直子	P-D-4-009
			K-E-5-004	西垣 浩文	J-G-10
		中野 弘子	J-D-3	西川 正晃	P-D-4-003
			K-B-1-001	西川 友理	P-A-8-008
仲 明子	P-C-8-004	長野 未来	K-D-2-005	西田 季里	企画シンポジウム 2
永井久美子	J-D-5	長橋 聡	J-D-9	西館 有沙	P-D-3-005
	P-D-5-005	永渕美香子	K-A-1-002	西出 悦子	P-B-2-008
長井 覚子	J-B-1	中道 圭人	P-D-7-010	西中 直子	P-D-9-009
中井清津子	P-A-7-002	中道 直子	企画シンポジウム 1	西村 志磨	P-D-2-009
	P-C-1-008	中村 章啓	J-F-2	西村 美佳	P-C-6-004
中岡 雄介	J-C-8	中村 絵里	J-G-1	西村 実穂	K-E-5-003
	P-A-4-007	中村 佐里	K-E-3-002		K-E-5-004
			K-E-3-003	西元 咲文	K-F-5-005
中尾 繭子	J-G-10	中村 俊哉	P-B-8-006	西山 萌	P-D-6-006
中川 淳一	P-C-8-007	中村 知嗣	P-C-4-002	西 隆太郎	J-A-2
中川 智之	K-D-4-002	中村 春菜	P-B-8-006		P-C-3-003
	K-F-3-004	中村 瞳	J-C-8	日光 恵利	P-C-6-006
長岐 裕美	J-C-3	中村麻衣子	K-G-3-002	二宮 穰	P-A-2-010
中嶋 一郎	J-E-7		P-C-8-003	庭井 史絵	K-D-5-001
	P-D-5-001		P-D-7-009	丹羽健太郎	K-B-3-004
永島さくら	K-D-1-006		J-B-3		P-B-5-009
	K-D-2-003	中村 正彦	P-D-7-006		
中島 眞吾	K-C-5-003	中村 光絵	J-A-5		
中島千恵子	P-D-5-003	中村 恵	P-C-5-006		
中島 一	P-B-9-001	中村 萌	J-E-2		
	P-B-9-005	仲本 美央	K-B-3-005		
中島 緑	P-A-5-008		P-C-9-004		
	P-D-9-012	名倉 一美	P-A-3-011		
中島美那子	J-C-9	梨本 竜子	P-D-7-002		
長瀬 正子	P-B-10-003	名須川知子	J-E-3		
永田恵実子	P-C-8-009	那須 信樹	P-B-5-005		
	P-D-7-004	七木 田敦	編集常任委員会シンポジウム		
中田 淳子	J-G-2	鍋島 恵美	P-C-3-002		
中谷奈津子	K-F-3-002	並木真理子	P-C-6-008		
	K-G-4-002	浪波由紀子	K-B-3-005		
	K-G-4-003	檜木 彩	K-G-1-001		
中田 範子	J-B-8	成田寛一郎	J-G-2		
	P-B-8-009	成田 朋子	P-B-9-001		
	P-C-4-002		P-B-9-005		
長田 瑞恵	P-B-1-004	難波 和子	J-D-9		
	P-B-1-005	南谷 悠子	P-A-6-008		
中田 麗子	K-C-2-002				
中塚 景子	P-A-7-002				
中坪 史典	J-F-6				
中西 綾子	P-D-7-007				
中西 淳也	P-D-4-002				
中西 昌子	J-B-9				
中西 利恵	P-A-7-002				

な

ね

の

に

野中 千都 P-B-8-001
野中 哲士 K-D-2-002
野々山 貴 P-C-5-008
P-C-5-011
野本 綾野 K-F-1-001

は

灰谷 和代 J-B-3
灰谷 知子 J-G-5
朴 信永 P-A-7-004
橋本 樹 P-C-9-002
P-D-8-001
橋元 知子 P-A-4-005
P-C-4-003
橋本 勇人 K-F-3-004
P-D-7-008
P-B-7-007
長谷川葵月 J-G-3
甘 麻乃 P-C-4-001
波多野和彦 K-E-3-002
K-E-3-003
服部 敬子 J-D-7
P-B-5-008
服部 伸一 J-E-6
服部 律子 P-D-8-003
花島 慶子 P-C-3-004
P-C-7-005
P-D-2-001
花原真理子 P-C-7-005
花輪 充 P-C-6-005
濱口実紗希 P-C-8-006
濱田 祥子 K-B-1-004
P-B-7-008
瀧名 潔 J-G-11
K-E-5-001
企画シンポジウム2
浜名 真以 J-B-3
早坂 聡子 K-F-5-001
林 薫 K-F-5-002
林田 真理 J-F-9
林 秀紀 J-D-6
林 悠子 J-F-4
原口 るみ K-B-2-004
K-B-2-005
原 友美 J-E-3
P-B-2-008
春木 裕美 K-G-4-002
K-G-4-003
韓 在熙 J-F-4
P-B-1-001

半田 結 J-E-6
板東愛理香 J-A-6
坂内紀巳子 J-E-1
伴 浩美 P-C-10-003

ひ

東村 知子 J-B-9
東 義也 J-F-5
K-A-2-004
P-C-4-004
樋口 詩菜 P-C-7-003
樋口 和美 P-D-1-006
ひぐちけえこ J-C-4
樋口 好美 P-C-7-002
日隈美代子 P-A-3-002
久富 陽子 K-E-1-001
K-G-1-001
肥田 武 J-G-4
秀島 剛徳 K-G-3-003
P-D-7-001
秀 真一郎 P-A-6-001
日吉みゆき K-A-2-004
平石実奈子 P-D-8-009
平田 修三 J-C-9
平沼 博将 J-D-7
平松 知子 J-A-4
平松美由紀 P-C-4-006
平山 淑希 K-E-1-005
P-D-6-002
廣 陽子 J-E-6
廣瀬真喜子 P-B-8-002
広瀬 由紀 K-B-3-001
K-B-3-003
P-A-3-005
廣戸 健悟 J-C-5

ふ

深井 太洋 企画シンポジウム2
深川 幹 P-D-5-007
深沢佐恵香 K-D-2-003
深町 穰 企画シンポジウム2
深谷 野亜 K-A-5-003
P-B-6-007
深谷悠里絵 P-C-2-008
富貴田智子 P-D-6-005
福井 千夏 P-B-6-008
福井 麻紀 K-A-6-003
福岡 龍太 K-A-3-001
福田 篤子 P-A-1-005

福西 朋子 P-D-1-003
福丸奈津子 P-B-1-009
福元真由美 P-A-1-003
福山多江子 P-C-3-002
藤井伊津子 P-B-7-007
P-D-7-008
藤井 真希 J-D-7
藤崎亜由子 K-B-1-005
P-A-7-001
藤澤 啓子 J-D-1
藤田 哲也 P-B-10-002
藤谷 未央 J-A-1
藤田 寿伸 J-B-6
藤沼 美羽 J-F-8
藤野 淳子 P-C-9-002
藤元 恭子 P-B-7-002
藤本 朋美 P-B-7-004
P-B-7-005
藤森 平司 J-G-6
舟越 美幸 K-F-3-001
船瀬紗代子 J-G-11
船田 鈴子 P-A-7-010
舟山 千佳 P-C-7-006
P-D-5-001
舟生 直美 K-G-3-002
P-B-5-003
P-D-7-009
麓 洋介 P-B-3-002
古林 ゆり P-B-7-004
P-B-7-005
古屋 真 P-C-3-007
古屋あゆみ P-B-5-002

へ

戸次 佳子 P-C-3-001

ほ

ポーター倫子 J-G-4
P-A-4-008
保木井啓史 P-D-6-002
星野美穂子 K-B-1-003
P-A-6-007
P-D-7-003
星 三和子 P-C-5-002
細川 梢 J-C-9
堀田 千絵 P-B-1-007
堀田 博史 J-A-5
堀田 正央 K-C-4-005
K-D-5-006

堀 建治 P-C-1-003
堀 祥子 K-B-5-004
堀 科 K-C-3-001
本江 理子 P-B-6-004
本多 舞 J-F-8
本保友梨香 K-D-3-001

ま

前田 和代 K-C-3-001
前田 剛史 K-B-1-002
前田 典子 J-D-9
前田 恭花 P-D-5-002
前原 寛 K-E-1-001
K-G-1-001
曲田 映世 P-A-7-002
眞柄 絵里 P-D-2-002
舛田亜紗美 P-A-8-009
増田まゆみ P-A-1-004
増原 真緒 K-F-4-004
益山 ゆき P-A-3-008
町田 治 P-D-5-003
松井 剛太 J-A-8
松井 剛太 K-B-1-004
松井 泰子 J-F-9
松尾 杏菜 J-A-1
松尾 寛子 J-B-2
松家まきこ K-G-2-005
P-A-6-009
松木 栄子 J-E-9
松崎 恭子 J-G-2
松崎 洋子 K-B-2-002
松崎 亮 J-D-8
松下 陽花 K-D-5-001
松島 英恵 K-B-4-003
松島 広美 K-E-1-001
松田こずえ K-C-2-003
P-C-8-003
松田 登紀 K-A-6-001
K-D-4-001
松田 侑子 P-B-7-008
松波 恵美 P-A-4-006
松原 未季 P-B-2-006
松本亜香里 P-C-1-003
松本 信吾 編集常任委員会シンポジウム
松本真理子 P-C-1-001
松本 優作 K-D-4-002
K-F-3-004
松本 理沙 K-G-4-004
P-A-4-008
松本理寿輝 K-F-4-003

松山 有美 J-F-4
松山由美子 J-A-5
松山 洋平 P-C-3-007
P-D-9-007
眞鍋 亜樹 K-D-4-006
眞鍋 健 K-B-3-003
丸井 卓 J-G-2
丸野 麻里 P-C-1-007
丸橋 亮子 P-B-9-003
丸目 満弓 P-A-8-008
丸山 慎 J-B-1
丸山 磨美 P-D-2-007
丸山由美子 K-E-1-001
丸山 和彦 J-B-1
丸谷 充子 P-A-6-007
P-D-7-003

み

三浦 悦子 J-G-2
三浦 主博 K-G-3-004
三島 秀晃 K-B-1-003
P-A-6-007
三坂 巧 企画シンポジウム1
P-D-7-003
水落 洋志 J-D-5
K-A-4-002
P-D-5-005
水谷 誠孝 P-B-3-002
水野 智美 P-A-3-009
P-A-8-003
P-A-8-006
溝口 彩子 P-C-6-009
三谷 大紀 J-E-1
P-A-5-002
道下 亜子 J-G-2
三ツ石 行宏 P-A-6-001
三井 真紀 J-F-4
密城 吉夫 K-B-5-002
光橋 翠 K-B-2-001
K-F-1-001
南 雅則 P-C-5-004
峯 恭子 P-A-2-009
峰友 航 P-B-3-008
箕輪 潤子 J-C-8
K-A-4-006
三原 詔子 P-B-7-001
宮城 恵子 J-C-1
三宅美由紀 K-B-3-003
三宅 理恵 K-A-6-002
K-C-3-002

宮坂 理央 J-B-6
宮里 暁美 J-D-8
P-D-3-001
P-D-3-002
宮里 耕太 P-D-3-001
P-D-3-002
宮澤多英子 P-A-2-005
宮下 祐子 J-A-8
宮島 衣瑛 J-F-1
宮嶋 晴子 P-D-8-004
宮田まり子 J-C-2
企画シンポジウム3
宮地あゆみ P-C-1-001
宮野 周 P-C-9-007
宮本 雄太 J-C-2
K-A-5-001
K-A-5-002
三好 伸子 J-E-8

む

向井 美穂 P-C-5-002
向野 光 J-A-2
虫明 淑子 K-B-4-002
無藤 隆 J-E-1
メイン・シンポジウム
村上 明子 P-A-4-010
村上 博文 P-C-1-010
村上 佑介 企画シンポジウム2
頓橋 智樹 J-G-6
村松 裕平 P-C-1-011
室矢 真弓 P-C-9-002

め

命婦 恭子 K-E-4-001

も

望月 文代 P-A-5-003
P-A-5-006
持松 朋世 P-D-1-007
本岡美保子 J-C-7
本村 真弓 K-C-3-001
桃枝 智子 P-B-7-006
百瀬ユカリ K-E-5-002
P-D-3-008
森 枝美 J-D-9
森川みゆき P-A-7-006
森木 朋佳 P-C-2-001
守 巧 K-B-3-002

7. 大会実行委員会について

一般社団法人日本保育学会 大会実行委員会規程

(目的)

第1条 日本保育学会大会実行委員会（以下、委員会）は、学会年次大会開催のために業務に当たることを目的として、組織される。

(開催ブロックの決定)

第2条 大会開催地区は、大会開催細則によって開催2年前の理事会で決定し、評議員会、社員総会において承認される。

2 大会開催地区および開催順については、大会開催細則による。

(委員会の発足および終了)

第3条 委員会の発足については、各ブロックの理事および評議員が協議し、組織発足および終了の任を負う。

(委員会の構成)

第4条 委員会は、委員長、事務局長ならびに実行委員によって構成される。

2 委員長は、会長により委嘱される。

(委員長、事務局長および委員会の業務)

第5条 委員長が評議員でない場合には、会長の推薦により評議員に任命される。

2 委員長は、理事会ならびに評議員会に出席する。また大会検討委員会のメンバーとなる。

3 事務局長は、委員長の代理を務めることができる。また大会検討委員会のメンバーとなる。

4 委員会は、大会日、大会会場の決定および運営を委託する場合は委託業者を決定する。

5 委員会は、大会に関する会計管理を行う。会計管理は、学会の規準による。

6 委員会は、大会に関する通信の作成および発送を行う。発送のための会員名簿の管理は、学会事務局で行う。

7 委員会は、講演、実行委員会主催シンポジウム等の企画・実施を行う。

8 委員会は、会員からの申し込みによる口頭発表・ポスター発表、自主シンポジウム発表等の受理・決定、座長の決定および依頼を行う。

9 委員会は、学会企画諸シンポジウムの受託を行う。

10 委員会は、大会プログラムを編成する。

11 委員会は、大会発表論文集の作成および発送を行う。

12 委員会は、大会会場の設営および当日の運営を行う。

13 委員会は、大会終了後、大会に関する決算報告、『保育学研究』掲載の大会諸報告、大会参加者・発表者数（発表取り消し、取り下げの確認を含む）の報告を行う。また大会発表論文集の残部を学会事務局へ引渡す。さらに、次回大会実行委員会への申し渡しを行う。

14 委員会は、その他大会運営に関わる業務を行う。

(改廃)

第6条 本規程の改廃は理事会が行う。

附則 本規程は平成20年9月14日（第63回大会）より実施する。

一部 平成22年4月1日改正

一部 平成27年9月26日改正

一部 平成30年9月1日改正

一部 令和5年9月17日改正

一般社団法人日本保育学会 大会開催細則

(開催ブロックの決定)

- 第1条 大会開催の6ブロックは、〈北海道・東北〉、〈関東〉、〈中部〉、〈近畿〉、〈中国・四国〉、〈九州・沖縄〉の6ブロックとする。
- 2 大会開催は全国を6ブロックで、持ち回りで行う。その開催順序は以下に定める。
①近畿 ②中部 ③関東 ④北海道・東北 ⑤近畿 ⑥関東 ⑦中部 ⑧中国・四国 ⑨関東
⑩近畿 ⑪関東 ⑫九州・沖縄 ①へ戻る
関東4、近畿3、中部2、その他1は、会員数に応じての回数である。
- 3 特別な事情がある場合、開催順序を変更することができる。その場合は、開催3年前までに会長に申し出て、理事会の承認を得なければならない。

(大会実行委員会の発足)

- 第2条 各ブロックの理事および評議員は、委員会発足の任を負う。
- 2 各ブロックの理事および評議員は、開催実績や利便性等を考慮して相談のうえ、2年前までに開催地を決め、大会実行委員会を組織する。
- 3 各ブロックの理事および評議員は、各ブロック内において大会開催に係る検討委員会等を設置し、大会開催地や開催方法を検討する。

(大会開催に向けた評議員の役割)

- 第3条 各ブロックの理事および評議員は、実行委員会とともに、大会開催に先立ち研究集会等を開催し、ブロック内の会員の学術・実践交流を活性化できるように努める。

- 附則 本細則は、第77回大会より施行する。
一部 令和6(2024)年4月9日改正

日本保育学会第 79 回大会 協賛企業・団体

〔広告掲載企業〕

(賛助会員)

株式会社ミネルヴァ書房

中央法規出版株式会社

株式会社萌文書林

株式会社建帛社

株式会社北大路書房

(その他の協力企業・団体)

教育情報出版

株式会社創成社

公益財団法人ソニー教育財団

〔オンライン展示〕

(賛助会員)

ななみ書房

(その他の協力企業・団体)

公益財団法人ソニー教育財団

本大会を開催するにあたりまして、上記の諸団体の皆様よりご協力いただきました。
ここにそのご芳名を記して、心からの感謝の意を表します。

2026年4月

一般社団法人日本保育学会第79回大会実行委員長 遠藤 利彦

日本保育学会第 79 回大会 実行委員会

実行委員長 遠藤 利彦 (東京大学)

事務局長 浅井 幸子 (東京大学)

副事務局長 野澤 祥子 (東京大学)

(2026 年 4 月 1 日現在)



[対象]

幼稚園
保育所
認定こども園

受付期間

2026年 2026年
8月1日^土～9月2日^水
15時 送信完了分まで

助成

最優秀園
300万円

全応募園に審査講評と
ソニー製品等を贈呈

対象年齢

0歳～5歳児

2026年度 ソニー幼児教育支援プログラム

保育実践 論文募集

貴園の取り組みや子どもたちの生き生きとした姿を論文にまとめて応募してみませんか

主題「科学する心を育てる」ために、日々の子どもの姿や記録をまとめた論文を募集しています。

主 題	「科学する心を育てる」～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～	
対 象	国・公・私立の幼稚園・保育所・認定こども園など全ての乳幼児施設	
内 容	子どもたちの主体的な遊びや生活を大切に、「豊かな感性」と「創造性の芽生え」を育むための保育実践とその考察に基づく今後の方向性を募集します。	
受 付 期 間	2026年8月1日(土)～2026年9月2日(水)15時 送信完了分まで	
応 募 方 法	ソニー教育財団ウェブサイトの専用応募フォームから送信	
助 成 内 容	[最優秀園]300万円とソニー製品等 [優秀園]50万円とソニー製品等 [奨励園]10万円とソニー製品等 [保育みらい賞]15万円とソニー製品等	
入 選 発 表	2027年1月中旬以降 当財団ウェブサイトにて発表予定	

審査委員会	[審査委員長] 安井 正人	慶應義塾大学 教授
	[審査委員]	秋田 喜代美 学習院大学 教授
	50音順	安梅 勅江 筑波大学 教授
		大豆生田 啓友 玉川大学 教授
		河合 優子 聖徳大学 教授
		島田 啓一郎 ソニーグループ株式会社 社友

可能性の育み 芸術士

アーティストと子どもたち15年の歩み

特定非営利活動法人アーキペラゴ著

B5変形判美装カバー208頁 2750円 [巻頭言/秋田喜代美氏]

レジャ・アプローチに触発され香川県で始まった芸術士派遣事業。その活動記録・ドキュメンテーションをオールカラーで紹介。

発達

秋田喜代美/大豆生田啓友/川田 学 監修

B5判美装120頁/1650円
2・5・8・11月10日発売

子どもたちが社会の担い手になる未来をみつめつつ、保育・発達の今を捉えなおす特集を展開。研究と実践の両面から、子どもの生活や育ちを支える営みについて、持続可能なあり方を探ります。

182

特集 2050年の子どもたちの生活と保育をみつめて (2025年5月10日刊)

秋田喜代美/大豆生田啓友/川田 学/永田佳之/柴田 悠/池本美香/藤原辰史/小玉重夫/
カンチェーミ潤子/小西貴士/齋藤紘良/三輪律江/柿沼平太郎/塩崎美穂/天願順優

183

特集 子ども社会と子ども観 (2025年8月10日刊)

川田 学/本岡美保子/天野 諭/松原未季/石川 徹/山下智也/小島康生/長津詩織/寺本 潔/元森絵里子/
秋田喜代美/大豆生田啓友

184

特集 保育者養成のあり方を考える (2025年11月10日刊)

大豆生田啓友/矢藤誠慈郎/松島のり子/北野幸子/横井紘子/吉永早苗/小櫃智子/岩田恵子/亀ヶ谷元讓/
木戸啓子/増田 翼/秋田喜代美/川田 学

185

特集 子どもの可能性を拓くアートと保育 (2026年2月10日刊)

秋田喜代美/佐藤 学/佐川早季子/和泉 誠/ひぐちえこ/栗原啓祥/木内奈巳/伊藤史子/山岸日登美/
宮本雄太/鍋島恵美/大豆生田啓友/川田 学

指導校を日本一に導いた歯科医師に学ぶ 子どもの歯と口の健康法

江口康久万著

A5判美装カバー192頁 2200円

場面緘黙の子どもが話せるようになるための練習ガイド

R・バスマン著 L・フォスター まえがき 園山繁樹/佐藤久美訳 ●親子で取り組む5ステップ

B5判美装カバー160頁 2420円

創造的音楽療法 クリニカル・ミュージシャンシップ育成のためのガイド

P・ノードフ/C・ロビンス著 林 庸二/岡崎香奈/古平孝子監訳

B5判上製カバー562頁 19800円【160のセッションの音源(約5時間分)を収めたDVD付き】

ブッシュマンの子育て

高田 明著 ●狩猟採集社会の自然誌
四六判上製カバー272頁 2970円

小児神経科医が「ゆくり学」のススメ 伝える！

湯浅正太著 ●親子のつながりを深め、子どもに愛を注ぐための秘訣
四六判美装カバー216頁 2200円

最新保育小六法・資料集 2026

大豆生田啓友/三谷大紀編

A5判美装カバー880頁 2200円 【2026年4月中旬刊行】

4月
刊行
予定

ことばの獲得を考える

小山 正著 ●子どもの言語発達を支える知識と視点

A5判美装カバー 2750円

こどもを支える地域づくり入門

新谷龍太郎著 ●日本・アメリカの「つながり」の実践から

A5判美装カバー 2640円



ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 ☎075-581-0296 宅配可/価格税込
E-mail eigyo@minervashobo.co.jp URL https://www.minervashobo.co.jp/

2026年 新刊・近刊案内

新刊

*テキスト採用の見本をご希望の場合は、弊社HPのお申込みフォーム、またはE-mail、FAXにてお申込みください。

図解で学ぶ保育+教育 レポート・論文の書き方

井戸ゆかり・横山草介・紺野道子 著 A5判 160頁
2色刷 定価2,420円(税込) ISBN 978-4-89347-449-0

栄養学英語の練習帳

—健康な体づくりのための英語表現—

宮田 学 編 伊東田恵・太田晴美 著 B5判 92頁
2色刷+赤シート付 定価2,090円(税込)
ISBN 978-4-89347-456-8

現場保育者が実践事例から考えた 部分実習指導案集

～幼・保・縦割り、施設実習まで

山本陽子・富永由佳 編著 B5判 148頁
定価1,980円(税込) ISBN 978-4-89347-454-4

保育を綴る

—対話型マップ記録の提案—

お茶の水女子大学附属幼稚園幼児教育研究会 編著
A4変形判オールカラー(マルチ言語:日本語/英語) 122頁
定価2,640円(税込) ISBN 978-4-89347-451-3

レッジョ・インスピレーション

—驚きと発見、対話と思索の教育のために—

太田素子・小玉亮子 編著 浅井幸子・北田佳子・黒田友紀・
小林美帆子・榊瑞希子・藤谷未央 著 B5判カラー口絵付 220頁
定価2,860円(税込) ISBN 978-4-89347-428-5

環境から考える新しい子ども学

—DGXで新たな地平をひらく—

朝岡幸彦・高田文子 編著 A5判 205頁
定価2,200円(税込) ISBN 978-4-89347-452-0

改訂新版

★ アクティブラーニング対応 乳児保育II 〈第2版〉

1日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践

尾野明美 編著 B5判 224頁 定価2,200円(税込)
ISBN 978-4-89347-455-1

★ 保育実践に生きる「言語表現」 〈第3版〉

—保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす—

馬見塚昭久・清家弘子 著 B5判 152頁 定価2,200円(税込)
ISBN 978-4-89347-453-7

★ より深く理解できる施設実習 〈第4版〉

—施設種別の計画と記録の書き方

松本峰雄 監修 藤 京子・増南太志・中島健一朗 著
B5判 224頁 定価2,200円(税込) ISBN 978-4-89347-221-2

★ 子育て支援 〈第2版〉

15のストーリーで学ぶワークブック

二宮祐子 著 A4判(切り取り式ワークシート付) 172頁
定価2,090円(税込) ISBN 978-4-89347-434-6

★ 子どもが共に育つための障害児保育 〈第2版〉

障害児についての深い学びから子どもの支援に生かす

齊藤勇紀・守 巧 編著/山田謙一 医療監修・著 B5判
272頁 定価2,200円(税込) ISBN 978-4-89347-450-6

★ 図解で学ぶ保育

子ども家庭福祉 〈第2版〉

直島正樹・河野清志 編著 A5判 220頁 2色刷
定価2,310円(税込) ISBN 978-4-89347-444-5

好評既刊

カラー5領域

新訂
事例で学ぶ
保育内容

〈領域〉健康 無藤 隆 監修/倉持清美 編者代表
〈領域〉人間関係 無藤 隆 監修/岩立京子 編者代表
〈領域〉環境 無藤 隆 監修/福元真由美 編者代表
〈領域〉言葉 無藤 隆 監修/宮里暁美 編者代表
〈領域〉表現 無藤 隆 監修/浜口順子 編者代表

各巻 定価2,200円(税込)



*書籍詳細は、左のQRコードから
弊社HPでご覧ください。

<https://houbun.com>



株式会社 萌文書林

〒113-0021 東京都文京区本駒込6-15-11 TEL 03-3943-0576 FAX 03-0943-0567 E-mail: info@houbun.com

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

https://www.kitaohji.com(価格税込)

よい保育とは何か

—技術的实践から倫理的・政治的实践へ— グニラ・ダールベリ、ピーター・モス著 浅井幸子、佐川早季子監訳 A5・280頁・定価4620円 「保育の質評価」を中核とする現代保育における支配的言説に警鐘をならし、議論のオルタナティブを提供。倫理的・政治的实践であるべき保育が技術的实践に還元されている現状を問い直す。「保育の質」のさらに先へ。

「愛と知の循環」としての保育

—世界を愛することを学ぶ— 無藤 隆著 四六・432頁・定価3300円 保育とは「愛と知の循環である」——保育の場とは、子どもたちが周りの世界に関わり、「愛と知」という情動と知性が循環していく中で生成されていく。その場において保育実践を見つめ、実践者と協働し実践志向の研究を重ねる中で到達した思考の数々。無藤隆の集大成としての保育論。

レヅジョ・エミリアのアートと創造性

—保育におけるアトリエの役割と可能性を探る— ヴェア・ヴェッキ著 森 眞理、刑部育子監訳 A5・368頁・定価4620円 アトリエリスタとして、レヅジョ・エミリアの実践を支え続けてきたヴェア・ヴェッキ氏が歩んできた道のりをもとに、アートや創造性が保育にいかに関与し得るのかについて、自身の回想と仲間たちとの対話を通して探究する。

子どもの権利との対話から学ぶ 保育原理

森 眞理、猪田裕子編著 B5・224頁・定価2640円 子どもの権利保障を軸に、保育の理念や制度、保育者の専門性、遊びと学びの関係をはじめとする保育の原理を学び、その面白さや奥深さを探究する。学習ポイント「MVP (Mission, Vision, Passion)」, 演習課題、ワークシートなど学びを支える工夫が満載。

保育の場を主体として共に生きる

—子どもの「心の動き」をエピソードで描くことから見えてくること— 鯨岡峻著 A5・264頁・定価2640円 「関係発達論」や「エピソード記述」等実践研究にも影響を与え続けてきた鯨岡氏。これまでの理論に「自己態勢」という新たな概念を加え「いま、ここ」を生きる子どもの心の動きを捉えることの重要性を具体的なエピソード記述から描き出す。

「愛と知の循環」としての保育実践

—多様で豊かな世界と出会い、学び、育つ— 無藤隆、古賀松香、岸野麻衣編著 B5・224頁・定価2750円 無藤隆氏が導き出した「愛と知の循環」という幼児教育論。この理論の背後には、これまで行ってきた膨大な観察と子ども・保育者・研究者たちとの対話がある。これらを通して紡がれてきた理論に基づく実践とは。9つの園の実践事例を通して描き出す。

ASDを共に生きる

—共事者として子どもの〈生きる様〉をエピソードで描く— 頼 小紅著 鯨岡 峻解説 A5・336頁・定価3300円 「ASDとは何か」を巡るものやASDの改善を目指した従来の研究を批判的に捉え、「ASDと共に生きるとはどういうことか」という新たな問いに挑む。エピソード記述をもとに、一人のASD児の〈生きる様〉を共事者として描き出す。

主体としての子どもが育つ 保育内容「表現」

無藤 隆監修 吉永早苗編著 B5・248頁・2420円 “主体としての子どもの育ち”を支える保育を探究するシリーズ。領域「表現」の視点から、子どもの表現の姿やその発達、遊びや生活における素朴な表現とその指導案などを取り上げ、多様な事例をまじえて専門的事項と指導法を一体的かつ実践的に学ぶ。ワークやQRコードを活用した資料等も豊富。

子どもの遊びを考える

佐伯 胖編著 定価2640円

子どもの声からはじまる 保育アセスメント

松井剛太、松本博雄編著 定価2860円

主体としての保育内容「健康」

無藤 隆監修/松寄洋子編著 定価2420円

生命と学びの哲学

久保健太著 定価2200円

絵本で実践！ アニマシオン

木村美幸著 定価2420円

主体としての保育内容「表現」

無藤 隆監修/吉永早苗編著 定価2420円

子どもはいかにして文字を習得するのか

松本博雄著 定価3300円

主体としての保育内容「人間関係」

無藤 隆監修/古賀松香編著 定価2420円

子どもの権利と 保育内容総論

森 眞理、猪田裕子編著 定価2420円

100のQ&Aで保育・療育現場の悩みを解決！ 配慮が必要な子どもの 発達支援百科



●藤原里美＝編著
三宅浩子、久保田真規子、黒葛真理子＝著
●定価 2,860円（税込）
●B5変形判・240頁
●2025年12月発行
ISBN978-4-8243-0328-8

保育・療育現場でよくある発達の気になる子どもに関する悩みについて、Q&A形式で対応法を紹介する。環境調整やおもちゃの活用法、クラス運営、保護者支援など、保育・療育現場で役立つ発達支援の知識や考え方を網羅的に身につけることができる。



子どもも大人も混ざり合う 児童発達支援 × 保育所等の併設で創る インクルーシブ保育



●社会福祉法人どろんこ会＝著
●定価 2,860円（税込）
●B5判・128頁
●2025年4月発行
ISBN978-4-8243-0202-1

保育所と児童発達支援事業所の併設のあり方やメリット、留意点について、社会福祉法人どろんこ会の事例を通して解説する。障害の有無にかかわらず子どもたちがともに生活し、集団の中で生きる力を育む姿や、そのための保育の工夫を示す一冊。



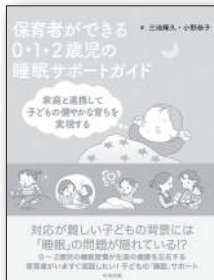
行動理由をつかんで支援を劇的に変える 保育場面あるある！ 気になる子への発達支援



●鴨下賢一＝著
●定価 2,200円（税込）
●B5変形判・160頁
●2025年8月発行
ISBN978-4-8243-0302-8

気になる子どもへの対応について保育者が知りたい30場面から解説。発達に関する知識や背景への理解不足からくる間違っただ目標設定を見直し、それに応じた支援を場面ごとに詳細解説。個別の指導計画で使える記載例も掲載する。

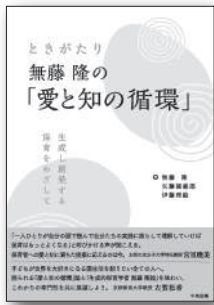
家庭と連携して子どもの健やかな育ちを実現する 保育者ができる 0・1・2歳児の 睡眠サポートガイド



●三池輝久、小野恭子＝著
●定価 1,980円（税込）
●B5変形判・122頁
●2026年3月発行
ISBN978-4-8243-0387-5

乳幼児期の心身の発達の要となる「睡眠」について、押さえておきたい知識、園でできる具体的な実践、保護者連携のコツ、睡眠を見える化する睡眠ログの活用法などをわかりやすく解説。「子どもの健やかな成長を支援する」保育者のための実践ガイド。

ときがたり 無藤隆の「愛と知の循環」 生成し創発する保育をめざして



●無藤 隆、矢藤誠慈郎、伊藤理絵＝著
●定価 2,750円（税込）
●A5判・266頁
●2025年12月発行
ISBN978-4-8243-0370-7

幼児教育・保育の施策をけん引してきた無藤隆氏がたどり着いた「愛と知の循環」理論を読み解く入門書。白梅学園大学大学院での無藤の講義録をベースに、公的な要領・指針の背景となった思想や歴史、研究をひもときつつ、幼児教育・保育の最も大切なことについて、3人の著者と考える。



6人の異彩なリーダーから学ぶ 保育の未来像 選ばれる園になるための哲学と経営



●坂本喜一郎、横山和明、曾木書代、
迫田健太郎、齊藤真弓、馬場拓也＝著
●定価 2,200円（税込）
●A5判・206頁
●2025年9月発行
ISBN978-4-8243-0304-2

保育所等の園長や主任、法人理事長に向けた、少子化時代に生き残るための保育所経営・運営を考える書籍。保育業界をリードする執筆陣の考え方や実践を知ることにより、「これからの保育」に必要な視点を得ることができる一冊。

保育士養成・幼稚園教諭養成テキスト

事例と演習でよくわかる 保育内容「環境」

駒井美智子、横山文樹＝編著
定価 2,200円（税込）
2021年2月発行
ISBN978-4-8058-8277-1

子どもの活動が広がる・深まる 保育内容「表現」

吉永早苗＝編著
定価 2,200円（税込）
2022年12月発行
ISBN978-4-8058-8793-6

保育内容「言葉」と指導法 理解する・考える・実践する

齋藤政子＝編集
定価 2,420円（税込）
2023年3月発行
ISBN978-4-8058-8813-1

保育内容「人間関係」と指導法 考える・調べる・学び合う

近喰晴子、小泉裕子＝編著
定価 2,420円（税込）
2023年9月発行
ISBN978-4-8058-8944-2

保育内容「健康」と指導法 考える・広がる・つながる

近喰晴子、荻井香保里＝編著
定価 2,420円（税込）
2025年3月発行
ISBN978-4-8243-0200-7



新刊・関連図書のご案内

共生を考える

小山 望・江島尚俊 編著

A5判/184頁 定価 2,420円

●共生社会の実現に向けて、保育・教育、心理、福祉の研究者が様々な視点から「共生」を論じる。



根付く・伸びる・発展する こどもの遊び

—主体性をはぐくむ保育の手法とICTの活用

宮城教育大学附属幼稚園 編

B5判/112頁 定価 2,200円

●保育の場での実践書として、5領域やカリキュラムを学ぶ科目の副読本として活用できる一冊。

▶▶▶▶ 新刊・改訂版教科書 ◀◀◀◀

コンパス 保育・教育カリキュラム論

最新刊

三宅茂夫 編著

B5判/152頁 予価 2,530円

◎「保育の計画と評価」の教科書。保育実践に役立つ充実した具体事例を多数掲載。

コンパス 乳児保育〔第2版〕

咲間まり子 編著

B5判/144頁 予価 2,200円

◎0・1・2歳の、具体的な保育の進め方、計画・評価の方法が身に付く。最新動向に即した第2版。

コンパス 保育の心理学

ワークシートをダウンロード可能!!

寺見陽子 編著

B5判/168頁 定価 2,310円

◎子どもの発達論、学びの理論と保育、各年齢別の発達特性と課題をイラストを交えながらコンパクトに解説。



はじめて学ぶ 子どもの福祉

和田上貴昭・野島正剛 編著

A5判/192頁 定価 2,420円

◎初学者が要点を把握して概要を俯瞰しながら学習できる、「子ども家庭福祉」テキスト。



はじめて学ぶ 子どもの養護

和田上貴昭・坪井 真 編著

A5判/208頁 定価 2,310円

◎初学者が要点を把握して概要を俯瞰しながら学習できる、「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」テキスト。



なぜからはじめるシリーズ

◎「べき論」ではなく、「なぜ?」という問いに答え、「根拠を伝える」というコンセプトのテキストシリーズ。

改訂 なぜからはじめる 保育原理〔第2版〕

池田隆英・上田敏丈・楠本恭之・中原朋生 編著

B5判/152頁 定価 2,200円

なぜからはじめる 教育原理〔第3版〕

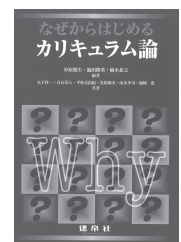
池田隆英・楠本恭之・中原朋生 編著

B5判/160頁 定価 2,200円

なぜからはじめる カリキュラム論

中原朋生・池田隆英・楠本恭之 編著

B5判/176頁 定価 2,310円



建帛社
KENPAKUSHA

〒112-0011 東京都文京区千石 4-2-15
TEL 03 (3944) 2611 FAX 03 (3946) 4377
<https://www.kenpakusha.co.jp/>

価格 (税10%込)
予価・頁数は変更する
場合がございます。

『子ども学』第14号 発刊

定価(本体1,800円+税)
B5判美装 240頁予定(年1回刊行)

❖本書は、子どもの育ちや、子どもを取り巻く生活・教育・文化・環境などに関する今日的なあらゆる問題に対し、多様な角度から研究を進められている先生方の子どもの論じる開かれた場でありたいと願っています。また、年1回の定期刊行を通じて、わが国の子ども学の新たな研究成果の蓄積も目的としています。

白梅学園大学・短期大学子ども学研究所
「子ども学」編集委員長 小玉重夫

編集委員会	
編集委員顧問	● 汐見 稔幸 (白梅学園大学・短期大学名誉学長) ● 無藤 隆 (白梅学園大学名誉教授)
編集委員長	● 小玉 重夫 (白梅学園大学・短期大学学長)
編集委員 (50音順)	● 朝岡 幸彦 (白梅学園大学子ども学部教授) ● 安倍 大輔 (白梅学園大学子ども学部准教授) ● 五十嵐 元子 (白梅学園大学子ども学部准教授) ● 石黒万里子 (東京成徳大学子ども学部教授) ● 白川 佳子 (共立女子大学家政学部教授) ● 砂上 史子 (千葉大学教育学部教授)

第14号	目次
[巻頭特集] 子ども・子ども学トピックス2026 ・子どもの学びとAI ほか	[特集3] ニューロダイバーシティ・ ニューロマイノリティ ・ニューロダイバーシティの視点から 子どもたちの多様性を捉え直す ほか
[特集1] 環境とコモンズ ・なぜ、子どもには自然体験が必要なのか ほか	[投稿論文] ・保育実践における保育者の省察とその機制 ほか
[特集2] 発言する子ども ・運動部活動と「子どもの意見表明権」 ほか	

【第15号】2027年5月 発刊予定

◎ 第3号より投稿論文の受付を開始しました(査読付)。詳しくは、本誌発売元の萌文書林のホームページを確認してください。投稿にあたっての手引きを掲載しています。

<https://houbun.com/kodomogaku>

※目次は発刊時までに変更される可能性があります。

[編集] 白梅学園大学・短期大学子ども学研究所「子ども学」編集委員会

[発売] 株萌文書林

[お問い合わせ] TEL:03-3943-0576
株萌文書林 FAX:03-3943-0567

新刊

演習 子育て支援

実践から深める支援のまなざしと専門性

編著 隣谷正範
ISBN 978-4-909378-83-5 B5判・192頁 カラー口絵付
定価 2,640円(税込)

?〈ハテナ〉から考える 乳児保育Ⅰ・Ⅱ

編著 入江慶太
ISBN 978-4-909378-84-2 B5判・248頁 カラー口絵付
定価 2,640円(税込)

表現者を育てるための
保育内容「音楽表現」 2025年8月 第2版
—音遊びから音楽表現へ—
編著 石井玲子 B5判・定価 2,530円(税込)

資質・能力を育む
保育内容 領域 人間関係
—子どもにとっての人間関係とは—
編著 齊藤 崇 B5判・定価 2,200円(税込)

哲学的な考えをいかす
新・教育原理
—教育と保育を考える—
編著 伊藤潔志 B5判・定価 2,310円(税込)

マンガと事例でポイントをつかむ
幼児教育・保育方法論
編著 開 仁志 B5判・定価 2,310円(税込)

保育の心理学
—子ども理解をケアにつなげる—
編著 串崎幸代 B5判・定価 2,310円(税込)

新・子どもの食と栄養 [第2版]
編著 今津屋直子・久藤麻子 B5判・定価 2,200円(税込)

子ども家庭支援論 2025年7月 第2版
—子どもを中心とした家庭支援—
編著 七木田敦・上村真生・岡花祈一郎
A5判・定価 2,090円(税込)

指導法もいっしょに学ぶ
保育内容「言葉」 [第2版]
編著 浅井拓久也 B5判・定価 2,090円(税込)

哲学的な考えをいかす
新・保育原理
—保育の未来を考える—
編著 伊藤潔志 B5判・定価 2,300円(税込)

マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ
保育内容総論 [改訂新版]
編著 開 仁志 B5判・定価 2,497円(税込)

子どもの発達連続性を支える
保育の心理学 [第2版]
編著 浅井拓久也 B5判・定価 2,530円(税込)

実践事例を通して具体的ななかかわりを学ぶ
保育現場における特別支援
編著 松井剛太・七木田敦 B5判・定価 2,200円(税込)

新・保育内容「環境」
ラーニング・ストーリーで綴る学びの記録
編著 永渕泰一郎 A5判・定価 2,200円(税込)

新・保育の計画と評価
—理論と実践をつなぐ保育カリキュラム論—
編著 前田和代 B5判・定価 2,200円(税込)

あなたとともに考える
子ども家庭福祉
子どもまんなか社会を実現するために
編著 渡邊慶一 B5判・定価 2,420円(税込)

新しい時代の保育者論
編著 須藤麻紀 A5判・定価 2,200円(税込)

〈子どもの遊びと児童文化をつなぐ〉
子どもの文化
理論と実践から学び、考えよう
編著 宮野 周 B5判・定価 2,200円(税込)

考え、実践する施設実習
編著 浦田雅夫 B5判・定価 2,530円(税込)

K 発行・販売
教育情報出版

〒557-0055 大阪市西成区千本南 1-18-24
TEL 06-6658-8741(代) 06-6651-5012(編集部)
FAX 06-6652-2928



info@kyoiku-joho.jp
<http://www.kyoiku-joho.jp>



新しい時代に求められる 保育者の専門性

—子どものwell-beingをめざして—

新しい時代の保育者養成研究会[編]

B5・192頁/2,100円+税

多様な子どもを主体者として支える保育者に必要な役割を探った。



女性みらい学

加藤大樹・上村千尋・平田なつひ・山口知香枝・渡辺恭子[著]

B5・160頁/1,800円+税

女性のライフステージで直面する心理的危機、身体的課題への理解が深まる1冊。



これからの時代を生きる 子どもたちのための 保育方法論

堀 科[編著]

B5・216頁/2,300円+税

カリキュラムマネジメントやICTの活用など、多様な子どもたち・子育て家庭を受け入れるための手がかりが身につく。



援助者を目指す人の 「社会福祉」[改訂版]

石垣儀郎[編著]

A5・224頁/2,300円+税

豊富な事例で援助現場のリアルがわかる。認知行動療法の詳細も追加した最新版。



よくわかる幼稚園実習 [第五版]

百瀬ユカリ[著]

B5・208頁/2,000円+税

実習日誌と指導案を豊富に掲載した好評書。新たにドキュメンテーション型日誌・指導案も追加した。



復習にも役立つ 社会的養護II [改訂版]

松本なるみ・中安恒太・尾崎眞三[編著]

B5・168頁/2,000円+税

2022年児童福祉法改正に対応。貧困や虐待から子どもを守るしくみがわかる。



子どもの保健 [改訂版]

B5・204頁/2,400円+税

子どもの健康と安全

[改訂二版] B5・282頁/2,500円+税

鈴木美枝子[編著]

4月
改訂



子どもの「今」を護れるか

—待機児童問題から見える社会の姿—

前原 寛[著]

新書・160頁/800円+税

待機児童問題は、なぜこれまで社会的な注意をひいてこなかったのか。

株式会社 創成社

〒112-0003 東京都文京区春日 2-13-1-5F
TEL: 03-3868-3867 / FAX: 03-5802-6802
URL: <https://www.books-osei.com> (価格税込)



cutie_osei
cool_osei
crazy_osei

